OLYMPUS®

CAMEDIA デジタルカメラ C-40ZOOM

取扱説明書

■ご使用前にこの説明書をお読みください。

■大切なもの（海外旅行など）をお撮りになる前には、必ず試し撮りをして、カメラが正常に機能することをお確かめください

はじめに

このたびはオリンパス　デジタルカメラをお買上げいただき、ありがとうございます。この説明書をよくお読みのうえ、安全に正しくお使いください。また、お読みになったあとは、必ず保管してください。

●本書の内容については将来予告なしに変更することがあります。商品名、型番等、最新の情報についてはカスタマーサポートセンターまでお問い合わせください。
●本書の内容については、万全を期して作成しておりますが、万一ご不審な点、誤り、記載もれなど、お気づきの点がございましたらご連絡ください。
●本書の内容の一部または全部を無断で複写することは、個人としてご利用になる場合を除き、禁止されています。また、無断転載は固くお断りします。
●本製品の不適当な使用により、万一損害が生じたり、逸失利益、または第三者からのいかなる請求に関し、当社では一切その責任を負いかねますのでご了承ください。
●本製品の故障、オリンパス指定外の第三者による修理、その他の理由により生じた画像データの消失による、損害および逸失利益などに関し、当社では一切その責任を負いかねますのでご了承ください。
●本製品で撮影された画像の質は、通常のフィルム式カメラの写真の質とは異なります。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。
飛行機内では、離発着時のご使用をお避けください。
本製品の接続の際、当製品指定のケーブルを使用しない場合、VCCI基準の限界値を超えることが考えられます。必ず、指定のケーブルをご使用ください。

商標について

Windowsは米国Microsoft Corporationの登録商標です。
MacintoshおよびAppleは米国アップルコンピュータ社の登録商標です。
その他本説明書に記載されているすべてのブランド名または商品名は、それらの所有者の商標または登録商標です。

カメラファイルシステム規格について

カメラファイルシステム規格とは、電子情報技術産業協会（JEITA）で制定された規格「Design rule for Camera File system/DCF」です。

このカメラでできること

撮影した画像はスマートメディア（カード）に記録されます

撮影した画像をコンピュータに転送

プリント拡大
A3などの大きい画像サイズで、よりきれいにプリントできます。

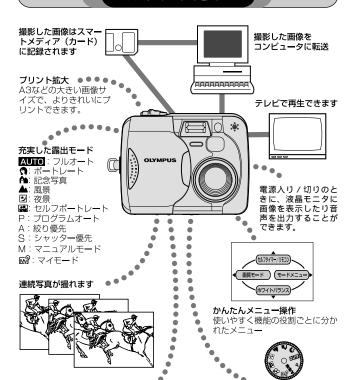
テレビで再生できます

充実した露出モード
AUTO：フルオート
：ポートレート
：記念写真
：風景
：夜景
：セルフポートレート
P：プログラムオート
A：絞り優先
S：シャッター優先
M：マニュアルモード
：マイモード

電源入り／切りのときに、液晶モニタに画像を表示したり音声を出力することができます。

セルフタイマー/リモコン
画質モード
モードメニュー
ホワイトバランス

連続写真が撮れます

かんたんメニュー操作
使いやすく機能の役割ごとに分かれたメニュー

ムービー（動画）も撮影します
静止画だけでなく、音声付きムービー映像を記録することができます。
画像再生時でも、スピーカで音声が再生されます。

モードダイヤルの に自分で設定した機能を登録することができます。

目　次

3 メニューのしくみ 49

4 撮影の基本 67

目　次

6 画像・画質・露出の調整 113

7 再生 125

目　次

安全にお使い頂くために

ご使用の前に、この「安全にお使い頂くために」の内容をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。

製品を正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害と財産の損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

危険 **この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う差し迫った危険の発生が想定される内容を示しています。**

警告 **この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。**

注意 **この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。**

製品の取り扱いについてのご注意

⚠ 警告

☞ **可燃性ガス、爆発性ガス等がある場所では使用しない。**
可燃性ガスおよび爆発性ガス等が、大気中に存在するおそれのある場所での本製品の使用はおやめください。引火・爆発の原因となります。

☞ **フラッシュを人（特に乳幼児）に向けて至近距離で使用しない。**
フラッシュを人の目の前（特に乳幼児）に向けて、至近距離で発光しないでください。目に近づけて撮影すると、視力障害をきたすおそれがあります。特に乳幼児に対して、至近距離で撮影しないでください。

☞ **幼児、子供の手の届く場所に置かない。**
幼児、子供の手の届く範囲に放置しないでください。以下のような事故発生のおそれがあります。
- 誤ってストラップを首に巻き付け、窒息を起こす。
- 電池や小さな付属品を飲み込む。万一飲み込んだ場合は直ちに医師にご相談ください。
- 目の前でフラッシュが発光し、視力障害を起こす。
- カメラの動作部でけがをする。

☞ **カメラで日光や強い光を見ない。**
日光および強い光に向けて、本製品を使用しないでください。視力障害をきたすおそれがあります。

☞ **通電中の充電器、充電中の電池に長時間触れない。**
充電中の充電器や電池は温度が高くなります。また、別売のACアダプタをご使用時も長時間お使いになっていると、本体の温度が高くなります。長時間、皮膚が触れたままになっていると、低温やけどの原因となることがあります。

☞ **ほこりや湿気、油煙、湯気の多い場所で使ったり、保管しない。**
このような場所でカメラを長時間使ったり保管しないでください。火災や感電の原因となることがあります。

☞ **フラッシュの発光部分を手で覆ったまま発光しない。**
フラッシュの発光部分を、手で覆ったまま発光しないでください。また、連続発光後、発光部分に手を触れないでください。やけどのおそれがあります。

☞ **分解や改造をしない。**
本製品の分解、改造はしないでください。感電やけがをする原因となります。

☞ **内部に水や異物を入れない。**
万一、水に落としたり、内部に水が入ったりしたときは、火災や感電の原因になりますので、すぐにスイッチを切り電池を抜き、販売店または当社サービスステーションにご相談ください。

⚠ 注 意

☞ **異臭、異常音、煙が出たりするなどの異常が生じたときは使用をやめる。**
異臭、異常音、もしくは煙が出たりするなどの異常が生じた場合は、やけどに注意しながらすぐに電池を取り外し、販売店または当社サービスステーションにご連絡ください。火災や、やけどの原因となります。（電池を取り出す際は、素手で電池を触らないでください。また、可燃物のそばを避け、屋外で行ってください。）

☞ **濡れた手で操作しない。**
濡れた手で操作しないでください。感電の危険があります。またACアダプタの抜き差しは、濡れた手では絶対にしないでください。

☞ **持ち運びのときは、ストラップが引っかからないよう注意する。**
カメラをストラップで下げているときは、他のものに引っかかったりしないように、注意してください。けがや事故の原因となることがあります。

☞ **温度の高い所へ放置しない。**
異常に温度が高くなるところに置かないでください。部品が劣化したり、火災の原因となります。

☞ **専用のＡＣアダプタ以外は使用しない。**
カメラで指定されている専用AC アダプタ（EIAJ 規格・極性統一型プラグ付）以外は、絶対に使わないでください。カメラ本体または電源が故障したり、思わぬ事故がおきる可能性があります。また別売のAC アダプタは日本国内用です。海外ではご使用になれません。専用以外のAC アダプタの使用により生じた傷害は保証しかねますので、あらかじめご了承ください。

☞ **電源コードを傷つけない。**
AC アダプタのコードを引っ張ったり、継ぎ足したりは絶対にしないでください。必ず電源プラグを持って、抜き差しを行ってください。
以下の場合はただちに使用を中止し、販売店または当社サービスステーションに御相談ください。
- AC アダプタやコードが熱い、焦げ臭い、煙が出た場合。
- AC アダプタのコードに傷、断線、またはプラグに接触不良があった場合。

使用条件についてのご注意

- **カメラのそばにクレジットカードや磁気定期券、フロッピディスクなどの磁気の影響を受けやすいものを近づけないでください。データが壊れて使用できなくなることがあります。**
- 本製品には精密な電子部品が組み込まれています。本製品を使用中または保管する場合、以下のような場所に長時間放置すると動作不良や故障の原因となる可能性がありますので、避けてください。
  - ■高温多湿、または温度・湿度変化の激しい場所
    直射日光下や夏の海岸、窓を閉め切った自動車の中、冷暖房器、加湿器のそばなど
  - ■砂、ほこり、ちりの多い場所
  - ■火気のある場所
  - ■水に濡れやすい場所
  - ■激しい振動のある場所
- カメラを落としたりぶつけたりして、強い振動やショックを与えないでください。
- レンズを直射日光に向けて放置しないでください。CCDの褪色・焼きつきを起こすことがあります。
- 長期間使用しないと、カビがはえたり故障の原因になることがあります。使用前には動作点検をされることをおすすめします。
- 三脚に取り付ける際、カメラを回さないでください。
- 本体の電気接点部には手を触れないでください。
- レンズに無理な力を加えないでください。

電池についてのご注意

液漏れ、発熱、発火、破裂、誤飲などによるやけどやけがを避けるため、下記の注意事項を必ずお守り下さい。

⚠ 危 険

● 充電式電池は、専用のオリンパス製電池と充電器をご使用ください。電池は指定の充電器以外で充電しないでください。ご使用になる際は、電池、充電器等の説明書をよく読んで、正しくお使いください。
● 火中への投下や、加熱をしないでください。
● ＋－を金属等で接続したり、金属製のネックレスやヘアピン等と一緒に持ち運んだり、保管しないでください。
● 強い日なた、炎天下の車内やストーブの前面など、高温の場所で使用･放置しないでください。
● 直接ハンダ付けしたり、変形や改造・分解をしないでください。端子部安全弁の破壊や、アルカリ液の飛散が生じ危険です。
● 電源コンセントや自動車のシガレットライターの差し込み等に、直接接続しないでください。
● 電池の液が目に入った場合は、失明の原因になります。こすらずに、すぐ水道水などのきれいな水で充分に洗い流し、直ちに医師の治療を受けてください。
● 電池を誤って飲まないよう、乳幼児の手の届かぬ場所で保管及び使用してください。万一飲み込んだ場合は、直ちに医師に相談してください。

⚠ 警 告

● 電池を水や海水などにつけたり、端子部を濡らさないでください。
● 以下の内容を守らない場合、電池の液漏れ、発熱、発火、破裂により、火災やけがのおそれがあります。
  ■ このカメラで指定されていない電池を使わないでください。
  ■ 古い電池と新しい電池、充電した電池と放電した電池、また、容量、種類、銘柄の異なる電池を一緒に混ぜて使用しないでください。
  ■ 充電できないアルカリ電池やリチウム電池、CR-V3（リチウム電池パック）を充電しないでください。
  ■ ＋－を逆にして装着・使用しないでください。また、機器にうまく入らない場合は無理に接続しないでください。
  ■ 外装シール（絶縁被覆）を一部またはすべて剥がしている電池や、破れがある電池をご使用になりますと、電池の液漏れ、発熱、破裂の原因になりますので、絶対にご使用にならないでください。
  ■ 市販されている電池の中にも、外装シール（絶縁被覆）の一部またはすべてが剥がれている電池があります。このような電池も絶対にご使用にならないでください。

●このような形状の電池はご使用になれません

シール（絶縁被覆）をすべて剥がしているもの（裸電池）、または一部が剥がされているもの

負極（マイナス面）の一部に膨らみがあるが、負極がシール（絶縁被覆）で覆われていないもの

負極（マイナス面）が平らな電池。（負極の一部がシールに覆われていても、また覆われていなくても使用できません）

- ニッケル水素電池の充電が、所定充電時間を越えても完了しない場合は、充電を中止してください。
- 液漏れや、変色、変形その他異常が発生した場合は使用を中止し、販売店またはオリンパスサービスステーションにご相談ください。火災や感電の原因となります。
- 電池の液が皮膚・衣類へ付着したときは、直ちに水道水などのきれいな水で洗い流してください。皮膚に傷害を起こす原因になります。
- カメラの電池室を変形させたり、異物を入れたりしないでください。
- 電池に強い衝撃を与えたり、投げたりしないでください。

⚠ 注 意

- 電池の＋－極が汗や油で汚れていると、接触不良をおこす原因になります。乾いた布でよく拭いてから使用してください。
- オリンパス製ニッケル水素電池はオリンパスデジタルカメラ「CAMEDIA キャメディア」専用です。他の機器に使用しないでください。
- 充電式電池をお買い上げ後初めてご使用になる場合、また長時間使用しなかった場合は、必ず充電してください。
- 充電式電池は必ず使用する電池を同時に（機種により4本または2本）充電してご使用ください。
- 電池を使ってカメラを長時間連続使用した後は、すぐに電池を取り出さないでください。やけどの原因となります。
- アルカリ電池は電池の銘柄、製造日からの保存期間、使用温度により内部抵抗・容量に差があるため、ニッケル水素電池やCR-V3などに比べて寿命が極端に短い場合があります。また、低温時は使えません。
- マンガン電池は使用できません。電池寿命が短いばかりでなく、電池の発熱等により本体に損害をもたらすおそれがあります。
- 電池は、一般に低温になるにしたがって一時的に性能が低下します。寒冷地で使用するときは、カメラを防寒具や衣服の内側に入れるなどして保温しながら使用してください。なお、低温のために性能の低下した電池は、常温に戻ると回復します。

● ニッケル水素電池ご使用推奨温度範囲
放電（機器使用時）：0℃～40℃
充電：0℃～40℃
保存：－20～30℃
上記温度範囲外での使用は性能・寿命の低下の原因となります。保管の際はカメラから電池を取り出してください。
● 長時間ご使用にならない場合は、カメラから電池を外しておいてください。電池の液漏れ・発熱により、火災やけがの原因となることがあります。
● 撮影条件、使用環境及び電池により撮影枚数が減少する場合があります。
● ニッカド電池などの充電式電池を含め、電池を捨てる際は、地域の規定に従って処分してください。
● 長期間の旅行などには、予備の新しい電池を用意することをおすすめします。特に海外では、地域によって入手困難なことがあります。

液晶モニタとバックライトについて

本製品は背面の表示には、液晶モニタを使用しています。これらは液晶モニタに関するご注意です。

● 液晶モニタは強く押さないでください。画面上ににじみが残り、画像が正しく再生されなくなったり、液晶モニタが割れたりする恐れがあります。
● 液晶モニタの画面上下に光が帯状に見える事がありますが、故障ではありません。
● 被写体が斜めの時、液晶モニタにギザギザが見えますが、故障ではありません。再生時には目立たなくなります。
● 一般に低温になるにしたがってバックライトは点灯に時間がかかったり、一時的に変色したりする場合があります。寒冷地で使用するときは、保温しながら使用してください。低温のために性能の低下したバックライトは、常温に戻ると回復します。
● 液晶モニタに使用されている液晶画面のバックライトおよびコントロールパネルには寿命があります。画面が暗くなったり、ちらつき始めたら、当社サービスステーションにお問い合わせください。（保証期間外の修理は有料となります。）
● **本製品の液晶画面は、精密度の高い技術でつくられていますが、一部に常時点灯あるいは常時点灯しない画素が存在することがあります。これらの画素は、記録される画像に影響はありません。また、見る角度により、特性上、色や明るさにむらが生じることがありますが、液晶画面の構造によるもので故障ではありません。ご了承ください。**

カメラ

ズームレバー（T/W）（P. 89）
インデックス再生/拡大再生レバー
（ / ）（P. 135、136）
コントロールパネル
（P. 19、20）
リモコン受信窓
（P. 102）
シャッターボタン（P. 75）
録音マイク
（P. 107、138）
フラッシュ
（P. 94）
セルフタイマー/
リモコンランプ
（P. 100、102）
OLYMPUS
スピーカ
（P. 137）
レンズバリア
（P. 36）
レンズ
電池カバー（P. 31）
三脚穴（P. 100）
LR6x2 or CR-V3x1
電池カバーロック（P. 31）

マクロ／スポットボタン（ / ）(P. 98、99)
プロテクトボタン（ ）(P. 139)
回転再生ボタン（P. 144）
フラッシュモードボタン（ ）(P. 94)
消去ボタン（ ）(P. 140)
モードダイヤル（AUTO・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ A/S/M・P)(P. 68〜71)
リモコン受信窓（P. 102）
ファインダ（P. 18）
液晶モニタ（P. 21〜26）
液晶モニタボタン( )(P. 85、126)
カードアクセスランプ（P. 76）
カードカバー（P. 35）
OK／メニューボタン(P. 50)
マニュアルフォーカスボタン( )(P. 80)
十字ボタン（△▽◁▷）(P. 46)
ストラップ取付部（P. 30）
コネクタカバー(P. 143、179)
マルチコネクタ(USB、A/V OUT)(P. 143、179)
DC入力端子(P. 190)
OLYMPUS

ファインダ表示

❶ オレンジランプ(P. 82、87、94、95)

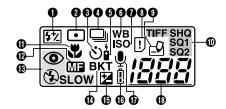
- シャッターボタンを半押ししたときにこのランプが点灯すると、フラッシュが発光します。
- ムービー撮影中は、点灯します。
- フラッシュが発光禁止モードで、被写体が暗く、シャッター速度が遅くなり、手振れのおそれがあるときにこのランプは点滅します。
- フラッシュを発光禁止から他のモードに変えたとき、またはフラッシュ撮影のあとにこのランプが点滅すると、フラッシュは充電中です。点滅が終わるのを待ってから、シャッターボタンを押してください。

❷ 緑ランプ(P. 75、82)

- シャッターボタンを半押しして、ピントが合うと点灯します。合わないと点滅します。
- 撮影後の画像処理中や、カード残量がなくなったときなど、次の撮影ができないときに点滅します。
- カードチェックの際、カードに異常があると点滅します。

❸ AFターゲットマーク(P. 75)

- このマークを被写体に合わせます。

コントロールパネル表示

❶ フラッシュ補正(P. 96)
- メニューでフラッシュの発光量を補正すると表示されます。

❷ スポット測光モード(P. 98)
- スポット測光モードが設定されると表示されます。

❸ セルフタイマー(P. 100)
- セルフタイマー撮影が設定されると表示されます。

❹ 連写(P. 104)
- ドライブモードが連写またはAF連写に設定されると表示されます。

❺ リモコン(P. 102)
- リモコン撮影が設定されると表示されます。

❻ ホワイトバランス(P. 120)
- ホワイトバランスがオート以外のモードに設定されると表示されます。

❼ ISO(P. 118)
- ISOがオート以外のモードに設定されると表示されます。

❽ カード警告(P. 38、199、200)
- 電源が入ったとき、カメラが自動的にカードをチェックし、カードに問題があるときに表示されます。

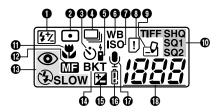
❾ カード書き込み
- 撮影した画像がカードに記録されているあいだ表示されます。

❿ 画質(P. 114)　（TIFF・SHQ・HQ・SQ1・SQ2）
- 画質を表示します。
  SHQとHQがプリント拡大に設定されているとき、SHQとHQの表示は常に点滅します。

⓫ マクロモード(P. 99)
- マクロモードが設定されると表示されます。

⓬ マニュアルフォーカス(P. 80)
- マニュアルフォーカス機能を使って、ピントを固定しているときに表示されます。

コントロールパネル表示（つづき）

⑬ **フラッシュモード(P. 91〜93)**

- ϟ（フラッシュモード）ボタンを押してフラッシュモードを選択すると、表示されます。

表示なし：オート発光　　ϟ **SLOW**：スローシンクロ

👁：赤目軽減発光　　(ϟ)：発光禁止

ϟ：強制発光

⑭ **オートブラケット撮影(P. 106)**

- ドライブモードがオートブラケットに設定されると表示されます。

⑮ **露出補正(P. 119)**

- 露出が0以外に設定されると表示されます。

⑯ **電池残量(P. 32)**

- 電池残量が少なくなると、次のように表示が変化します。

- 使用する電池の種類によって、残量表示のタイミングが変わりますので、ご注意ください。

⑰ **録音(P. 107、108)**

- メニューで録音モードが設定されると表示されます。

⑱ **撮影可能枚数(P. 82、115)**

- 撮影できる静止画の枚数を表示します。

撮影可能秒数(P. 87、115)

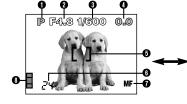
- 🎥（ムービー撮影）モードで一度に撮影できる時間を表示します。

エラーコード(P. 38)

- カードに問題があるときに表示されます。→エラーコード表示一覧参照（P. 199、200）

液晶モニタ表示〜撮影情報

表示内容は撮影モードにより異なります。

下図の情報を撮影中、常に表示。

ボタンやモードダイヤルを操作したあとや、メニューから抜けたあとに約3秒間表示されます。

＊イラストはモードダイヤルを「P」に設定している場合

❶ 撮影モード(P. 68〜71)

- モードダイヤルの位置を表示します。

  AUTO ：フルオート、 ：ポートレート、 ：記念写真、
  ：風景写真、 ：夜景、 ：セルフポートレート、
  P ：プログラムモード、 **A** ：絞り優先モード、
  S ：シャッター優先モード、 **M** ：マニュアルモード、
  ：マイモード、 ：ムービー（動画）モード

❷ 絞り値(P. 72、74)

- 絞り値を表示します。

❸ シャッター速度(P. 73、74)

- シャッター速度を表示します。

❹ 露出補正(P. 119)

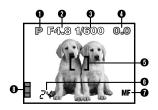
- 露出補正値を表示します。

露出状態(P. 74)

- マニュアルモード(M) 時に設定している絞り値／シャッター速度から算出される露出値と、カメラの適正露出値の差を表示します。

❺ AFターゲットマーク(P. 85)

- このマークを被写体に合わせます。

液晶モニタ表示〜撮影情報（つづき）

❻ **撮影可能枚数(P. 82、115)**

● 撮影できる静止画の枚数を表示します。

撮影可能秒数(P. 87、115)

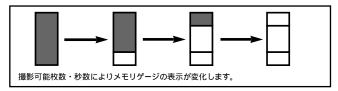
● 🎥（ムービー撮影）モード時に一度のシャッター操作で撮影できる時間を表示します。

❼ **マニュアルフォーカス(P. 80)**

● マニュアルフォーカス機能を使って、ピントを固定しているときに表示されます。

❽ **メモリゲージ(P. 86、88)**

● カメラの内蔵メモリにある画像の量を表示します。
連続して撮影すると、次のように表示が変化します。

撮影可能枚数・秒数によりメモリゲージの表示が変化します。

❾ **ドライブモード(P. 104)**
- メニューでドライブモードが設定されると表示されます。

□ ：単写（1コマ撮影）　　AF⧉ ：AF連写
⧉ ：連写　　**BKT** ：オートブラケット撮影

❿ **ホワイトバランス(P. 120)**
- メニューで設定したホワイトバランスを表示します。

表示なし：オート　　：電球
：晴天　　：蛍光灯
：曇天　　：ワンタッチホワイトバランス

⓫ **ISO感度(P. 118)**
- メニューで選択した感度（オート・100・200・400）を表示します。「オート」を選択していても、モードダイヤルをA/S/Mにすると100になります。また、「オート」を選択していても、暗いところでフラッシュを使わない場合は、手ぶれ防止のため感度は自動的に上がります。

⓬ **画質(P. 114)　（TIFF・SHQ・HQ・SQ1・SQ2）**
- 画質を表示します。

⓭ **画像サイズ(P. 115)**
- 画像サイズを表示します。

⓮ **セルフタイマー／リモコン(P. 100〜103)**
- メニューでセルフタイマー撮影またはリモコン撮影が設定されると表示されます。

：セルフタイマー撮影　　：リモコン撮影

液晶モニタ表示～撮影情報（つづき）

⑮ フラッシュモード(P. 91～93)

- ϟ（フラッシュモード）ボタンを押してフラッシュモードを選択すると、表示されます。

  表示なし：オート発光　ϟ：強制発光

  ◉：赤目軽減発光　㊋：発光禁止

  ϟ SLOW1/ϟ SLOW2/◉ ϟ SLOW1：スローシンクロ

⑯ スポット測光／マクロモード(P. 98、99)

- ✿/⊡（マクロ／スポット）ボタンを押してスポット測光／マクロモードを選択すると、表示されます。

  表示なし：デジタルESP測光　✿：マクロモード

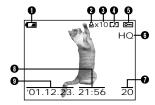
  ⊡：スポット測光　⊡✿：スポット測光+マクロモード

⑰ 録音(P. 107、108)

- メニューで録音モードが設定されると表示されます。

液晶モニタ表示〜再生情報

画面に表示させる情報量をメニュー機能を使って選択することができます。
→情報表示(P. 134)

静止画再生情報

情報表示オフ選択時

情報表示オン選択時

❶ **電池残量**
- 電池の残量によって次のように表示が変化します。

表示なし

残量充分　残量わずか　残量なし

- 使用する電池の種類によって、残量表示のタイミングが変わりますので、ご注意ください。

❷ **プリント予約マーク(P.167)**
- プリント予約がされていると表示されます。

❸ **プリント枚数(P.168、170)**
- プリント予約の枚数が表示されます。

❹ **録音マーク**
- 音声が録音されていると表示されます。

❺ **プロテクトマーク(P. 139)**
- 画像が保護されていると表示されます。

❻ **画質モード**

❼ **コマ番号**

❽ **時刻**

❾ **日付**
- 2001年は01と表示されています。

❿ **画像サイズ**

⓫ **絞り値**

⓬ **シャッター速度**

⓭ **露出補正値**

⓮ **ホワイトバランス**

⓯ **ISO感度**

⓰ **ファイル番号**

重要！DPOFを使用せずにプリントサービスを利用される方へ

写真店などのプリントサービスをご利用になる場合は、プリントする画像は必ずファイル番号で指定してください。コマ番号で指定すると間違った画像がプリントされる場合があります。

ムービー（動画）再生情報

情報表示オフ選択時

情報表示オン選択時

❶ **電池残量**

❷ **ムービーマーク(P. 126)**

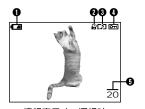
❸ **録音マーク**

- 音声が録音されていると表示されます。

❹ **プロテクトマーク(P. 139)**

- 画像が保護されていると表示されます。

❺ **コマ番号**

❻ **日付**

- 2001年は01と表示されています。

❼ **画質モード**

❽ **画像サイズ**

❾ **ファイル番号**

- ムービー再生中では、記録時間が次のように表示されます。

0" / **15"**
再生している秒数　　全体の秒数

注 意

●ムービーの場合は、画像を選択して表示したときと、ムービー再生中で表示内容が異なります。(P. 126、129)

本書の見方

本取扱説明書では、モードダイヤルのセット位置と使用するボタンをイラストで記載しています。記載されているモードダイヤルの位置にセットした後、それぞれのステップに示されているボタンを押し、番号にしたがってカメラを操作していきます。

例1

黒く塗られているボタンを押します。（この例では全方向キーを押します。）

撮影モードの設定〜モードダイヤル（つづき）

絞り値とシャッター速度の設定〜マニュアル撮影

A/S/M

1 **トップメニューから「モードメニュー」→「撮影」→「P/A/S/Mモード」→「M」を選択します。**

2

シャッター速度を速くするには△を押します。

絞りを絞る（F値を大きくする）には◁を押します。

絞りを開く（F値を小さくする）には▷を押します。

シャッター速度を遅くするには▽を押します。

4 撮影の基本

絞り値： W側→F2.8＊1、F3.4、F4.0、F4.8、F5.6、F8.0
T側→F4.8＊1、F5.6、F8.0
シャッター速度： 16〜1/1000＊2（秒）

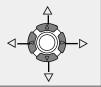
＊1 ズームの位置により、開放絞り値は変わります。
＊2 絞り値・ズーム位置により、1/500〜1/1000の間で変わります。

■ **露出状態**

- 設定されている絞り値とシャッター速度から算出される露出と、カメラが算出する適正露出との露出差がー3.0〜＋3.0EVの範囲で、画面右上に表示されます。
- 露出差がー3.0EVよりも小さい、または+3.0EVより大きいときは、表示が赤くなります。

注 意

- シャッター速度を遅くする場合は、カメラ振れを防ぐために三脚のご使用をおすすめします。

十字ボタンのどの方向キーを押すかを△、▽、◁、▷マークで示しています。
(この例では十字ボタンの右方向キーを押します。）

本書の見方（つづき）

例2

機能を使う前に、モードダイヤルをここに示されているモードにセットします。

ビープ音

カメラのボタン操作音や警告音などの音量を、「オフ」、「小」、「大」の中から選択できます。ご購入時は「小」に設定されていますが、音を消したいときは「オフ」に設定してください。

P A/S/M

トップメニューから「モードメニュー」→「設定」→「ビープ音」→「オフ」、「小」または「大」を選択します。

初期設定：小

注 意

- AUTO モードでは、他のモードで設定した状態で働きます。

8

カメラの便利機能

この機能が再生モードで使えることを示しています。撮影モードでのダブルクリックによる簡単再生でも、同じように使えます。

ここではメニューの使い方が示されています。矢印の順にメニューで機能を設定します。メニューを使う前に、詳細について3章「メニューのしくみ」をお読みください。

1

準 備

カメラを使う前には、必ずこの章の内容にしたがって準備をしてください。

ストラップを取り付ける

1 **ストラップをストラップ取付部の金具にとおします。**

2 **ストラップ取付部にとおしたストラップに、ストラップのもう一方をくぐらせて引っ張ります。**
ストラップがゆるんで、ぬけないようにします。

注 意

- カメラを持ち運びの際には、専用ケースに保管してください。
- カメラをストラップで下げているときは、他のものに引っかかったりしないように、注意してください。けがや事故の原因となることがあります。
- 上の図にしたがってストラップは正しく取り付けてください。万一、誤った取り付けによりストラップが外れて本体を落とすなどした場合、損害など一切の責任は負いかねますのでご了承ください。

電池を入れる

電池はCR-V3（当社製LB-01）リチウム電池パック1個、あるいは単3ニッケル水素電池、ニッカド電池、アルカリ電池、リチウム電池2本を使用します。

重要：

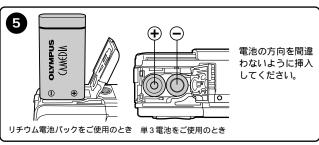
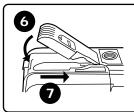
- **CR-V3は充電式電池ではありません。**
- リチウム電池パックCR-V3のラベルは、剥がさないでください。
  端子部に絶縁シールが貼られている場合は、そのテープのみはがしてお使いください。

カメラの電源が入っていないことを（レンズバリアが閉じている、液晶モニタが消灯している）確認します。

電池カバーロックを押しながら、電池カバーに示されている方向（◁）へカバーをスライドさせて、開けます。

電池の方向を間違わないように挿入してください。

☞ 次ページに続く

電池を入れる（つづき）

電池カバーで電池を押さえながら閉じて、カバーの矢印の刻印と逆方向へスライドさせます。

● カバーの端を押すと、カバーが閉まりにくくなります。

● 正しく閉じられると、電池カバーは固定されます。

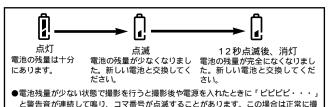
電池残量の目安

カメラの電源を入れたときや使用中に電池残量が少なくなると、コントロールパネル上の電池残量表示が以下のように表示されます。

点灯
電池の残量は十分にあります。

点滅
電池の残量が少なくなりました。新しい電池と交換してください。

12秒点滅後、消灯
電池の残量が完全になくなりました。新しい電池と交換してください。

●電池残量が少ない状態で撮影を行うと撮影後や電源を入れたときに「ピピピピ・・・」と警告音が連続して鳴り、コマ番号が点滅することがあります。この場合は正常に撮影が行われていません。新しい電池に取り替え、再度撮影し直してください。

注 意

●電池室内の電極が汚れていると、電池の寿命が著しく短くなります。電池を外した状態で内部をさわらないでください。

●電池を外した状態で2～3日放置すると、全ての設定は初期設定に戻ります。

●カメラを長時間使用を続けると、カメラの内部温度が上がり、自動的に動作を停止する場合があります。電池を取り出して、カメラが冷えるまでしばらくお待ちください。また、使用中にカメラの外側の温度も上がりますが、故障ではありません。

電池を上手に選ぶには

■ リチウム電池パック

オリンパス製リチウム電池パック（LB-01）は、寿命が長く旅行などにも便利です。リチウム電池パックは、充電できません。

■ 充電式電池

オリンパス製ニッケル水素電池（充電器セットBU-40SNH）は、撮影後に充電すると繰り返し使用できるので経済的です。また、低温にも強く、寒い地域でも有効です。

■ アルカリ電池

急に電池が必要になったときは、どこでも入手しやすい単3アルカリ電池も使用できます。ただし、銘柄や使用条件によって撮影可能枚数に大きな差が生じます。使用するときは、液晶モニタをこまめに切ってください。

注 意

- マンガン電池は使用できません。
- 電池の寿命は、お使いの電池の種類、メーカー、カメラの使用条件などにより大きく異なります。
- パソコンと接続してお使いの場合は、別売のACアダプタのご使用をおすすめします。（P.190）
- 以下の条件では撮影をしなくても電力を消費するため、撮影可能枚数が減少することがあります。
  - 液晶モニタが点灯している。
  - 撮影モードでシャッターボタンの半押しをして、オートフォーカス動作を繰り返す。
  - ズーム動作を繰り返す。
  - フルタイムAFをオンにしている。
  - 再生モードで長時間、液晶モニタを点灯する。
  - パソコンとの通信時。

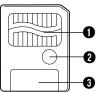
カードについて

このカメラで撮影した画像は、スマートメディアに記録されます。この取扱説明書では、スマートメディアをカードと呼びます。

スマートメディアとは？
撮影した画像を記録するためのフィルムにあたるものです。スマートメディアに記録された画像は自由に削除したり上書きしたり、パソコンで加工することができます。

使用できるスマートメディア
- 付属の16MBの標準カード
- 別売のオリンパス製カード（4・8・16・32・64・128MB）
- 市販の3V (3.3V)カード（4・8・16・32・64・128MB）

注 意

- 2MBのカードは使用できません。
- オリンパス製以外の市販のカード（3V（3.3V）など）や、パソコンなどの他の機器でフォーマットしたカードは、このカメラで認識できないことがあります。お使いになる前に、必ずこのカメラでフォーマットしてください。(P. 38、142)
- 市販の5Vカードは使用できません。

❶ **接触面（コンタクトエリア）**
カメラの信号読み取り接点が接触する部分です。

❷ **ライトプロテクトエリア**
書き込み禁止状態にしたいときは、ここに付属のライトプロテクトシールを貼ります。

❸ **インデックスエリア**
カードに保存されている内容がわかるようにここに付属のラベルを貼ります。

スマートメディアのお取り扱い上の注意
- 動作温度：0℃～55℃、保管温度：－20℃～65℃、
  動作・保管湿度：95%以下
- 保管時・携帯時は、静電気防止ケースに入れてください。
- カードを曲げたり、衝撃を与えないでください。
- スマートメディアの取扱説明書（付属）もお読みください。
- カードのコンタクトエリアには直接手を触れないでください。

カードを入れる/ 取り出す

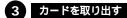
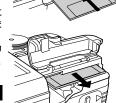
1 **カメラの電源が入っていないことを（レンズバリアが閉じている、液晶モニタが消灯している）確認します。**

2 **カードカバーを開けます。**

3 カードを入れる

接触面（コンタクトエリア）をレンズ側にして、カードを挿入口に示すラインまでしっかりと押し込みます。

- カードが斜めに入らないようにまっすぐに押し込みます。
- カードを表裏逆にしたり、入れる向きを逆にして押し込むと、抜けなくなることがあります。
- カードがきちんと奥まで入っていないと、カードカバーは閉じません。無理に閉じると、カードを傷めます。

3 カードを取り出す

カードをつまんで引き抜きます。

4 **カードカバーを閉めます。**

注 意

- カメラ作動中やパソコンとの通信中には、絶対にカードカバーを開けたり、カードや電池を取り出したり、電源プラグを抜いたりしないでください。**カード内のデータが破壊されることがあります。**
- 破壊されたデータの復旧はできません。

電源を入れる／切る

■ 撮影するとき

1 **モードダイヤルを使いたいモードにします。**

2 **レンズバリアを開きます。**
- 電源が入り、レンズがせり出してきます。
- スタートアップ画面が液晶モニタに表示されます。
- レンズがせり出してこないときは、レンズバリアが開ききっていません。

3 **レンズバリアをレンズのところまでゆっくりと閉じます。**
- レンズが元の位置に戻るまでは、レンズバリアを閉め切ることはできません。レンズにレンズバリアを押し付けないでください。
- シャットダウン画面が液晶モニタに表示されます。

4 **レンズバリアを完全に閉じます。**
- 電源が切れます。

■ 再生するとき

1 **（液晶モニタ）ボタンを押します。**
- 液晶モニタが点灯し、スタートアップ画面が表示されます。
- レンズバリアを開けているときは、すばやくを2回押します。

2 **再度ボタンを押します。**
- シャットダウン画面が液晶モニタに表示され、液晶モニタが消灯します。

ヒント

● **カメラが動かない。**
→ 電源を入れたままで何も操作しないと、電池の消耗を防ぐため、カメラは3分でスリープモード（待機状態）に入ります。ズームレバーやシャッターボタンを操作すると動きます。撮影モード（**P・A/S/M・**MY）では、スリープモードに入るまでの時間を設定できます(P. 159)。

注 意

- 長時間カメラの使用を続けると、撮影した画像にノイズが発生したり、カメラが熱を持つことがありますが、故障ではありません。
- 撮影可能枚数が0になるとピーっと音がして、液晶モニタに「撮影可能枚数が0です」と表示されます。新しいカードや空き容量のあるカードに交換するか、不要な画像を削除してカードに空き容量を作るなどの処理を行なってください。
- 撮影可能枚数は、撮影対象によって容量が異なるため、撮影を行っても減らなかったり、画像を削除しても増えないことがあります。
- カメラのそばにクレジットカードや磁気定期券、フロッピディスクなどの磁気の影響を受けやすいものを近づけないでください。データが壊れて使用できなくなることがあります。

液晶モニタ画面と音声

電源を入れたり切ったりしたとき、液晶モニタには画像が表示され、起動音／終了音が出力されます。このときの画像を自分で登録したり(P. 157)、音量を調節することもできます(P. 137)。

スタートアップ／シャットダウン画面（初期設定）

カードチェック

電源を入れると、カードチェックが自動的に行われます。

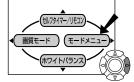
コントロールパネル	液晶モニタ	ヒント
! - - -	カードを認識できません カード警告マーク	**カードがカメラに入っていない、またはカードが奥までしっかりと入っていません。** → カードを入れます。すでにカードが入っているときは、いったんカードを取り出して入れ直します。
! -E-	このカードは使用できません	**カードに問題があります。** → 新しいカードを使用します。
! -F-	カードセットアップ 電源オフ フォーマット 選択 実行 OK フォーマット ⚠ すべてのデータが消去されます フォーマット 中 止 選択 実行 OK	**カードがこのカメラのシステムでは読めません。** →カードのフォーマットを行います。 ① **十字ボタンの ▽ を押して「フォーマット」を選択し、OK を押します。** ●「フォーマット」画面が表示されます。 ② **△ を押して「フォーマット」を選択し、OK を押します。** ● フォーマットが始まります。フォーマットが終わると、撮影する被写体の画面に変わります。

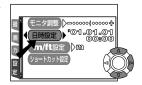
日時の設定

カメラに内蔵されている時計の時間と日付の設定をします。
日時は撮影した画像と一緒に保存されますので、撮影前に正しく設定されているかを再度ご確認ください。

1 **レンズバリアを開いて、撮影モードで電源を入れます。**

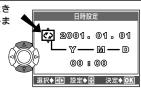
2 **(OK) を押して、メニューを表示します。(P. 50)**
● 液晶モニタが自動的に点灯します。

3 **十字ボタンの ▷ を押して、「モードメニュー」を選択します。**
● この手順以降の画面は、P モードで設定した場合のものです。

4 **▽ を押して「設定」タブを選択後、▷ を押します。**
● 設定メニュー項目が表示されます。

5 **△ ▽ を押して「日時設定」を選択後、▷ を押します。**
● 日時設定画面が表示されます。

☞ 次ページに続く

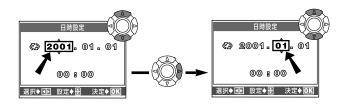
日時の設定（つづき）

6 ◇ に緑の枠がついて選択されているときに、△▽を押して日付の順序を選択します。

- 順序は
  DMY(日・月・年)、
  MDY(月・日・年)、
  YMD(年・月・日)、
  の中から選択します。
- この手順以降は、Y-M-D に設定した場合の説明をします。

日時設定画面

7 ▷を押して、年(Y)の設定に移動します。

8 △▽を押して、「年」を設定します。「年」が確定したら、▷を押して「月」の設定に移動します。

- 「分」までの設定を同様に繰り返します。
- ◁を押すと、ひとつ前の数値の設定位置に戻ります。

9 Ⓞ を押します。

- 設定メニュー画面に戻ります。
- 再度 Ⓞ を押すとメニューが消えます。
- 0 秒の時報に合わせ Ⓞ を押すと、正確に時間を合わせられます。時計はこのとき動き始めます。

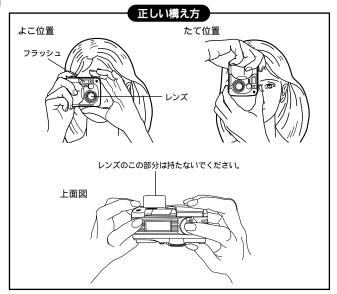
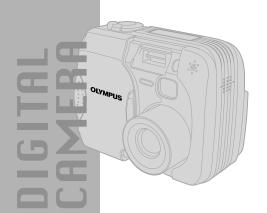
10 レンズバリアを閉じます。

- レンズが元の位置に戻ります。

注 意

- 電源を切っても、設定は変更するまで保存されます。
- 電池を抜いた状態で2〜3日放置すると、設定した日付は解除されます(当社試験条件による)。この場合は再度日時の設定を行ってください。また、カメラに電池を入れていた時間が短かった場合は、これよりも早く日付けが解除されます。

カメラの構え方

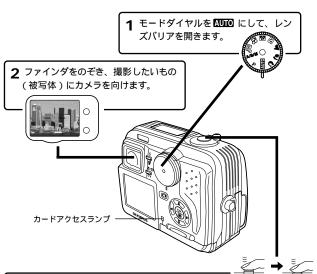
両手でしっかりカメラを持ち、脇をしっかりしめます。
レンズ、フラッシュに指やストラップがかからないようにご注意ください。ズームを使用したときは、画像がぶれやすくなるので、特に注意してください。

2

使い方早わかりガイド

いちばん簡単な撮影と再生方法について述べています。すぐにこのカメラをお使いになりたいときに、この使い方早わかりガイドをご活用ください。
カメラを使う前には、必ず１章の内容にしたがって準備をしてください。

静止画を撮る AUTO

1 **モードダイヤルを AUTO にして、レンズバリアを開きます。**

2 **ファインダをのぞき、撮影したいもの（被写体）にカメラを向けます。**

カードアクセスランプ

3 **ピントを合わせるため、シャッターボタンを軽く押します。（半押し）**

● ピントが合うと、緑ランプが点灯します。

緑ランプ

4 **撮影するには、シャッターボタンを半押しした状態から、さらにボタンを静かに押します。（全押し）**

● 緑ランプとカードアクセスランプが点滅し、カード記録が始まります。

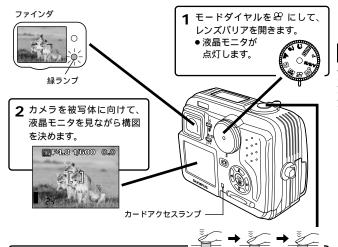
注 意

●カードアクセスランプの点滅中には、絶対にカードカバーを開けたり、電池やカードを抜いたり、電源プラグを抜いたりしないでください。今撮影した画像が記録されないだけでなく、記録済みの画像が破壊されるおそれがあります。

●強い逆光などで撮影すると、画像の影の部分に色がつく場合があります。

ムービーを撮る

1 モードダイヤルをにして、レンズバリアを開きます。
- 液晶モニタが点灯します。

2 カメラを被写体に向けて、液晶モニタを見ながら構図を決めます。

3 シャッターボタンを半押しします。
- ファインダ横の緑ランプが点灯します。

4 シャッターボタンを全押しして、撮影を始めます。
- ムービー撮影中は、オレンジランプが点灯します。
- ムービー撮影中は、常にピントは合っています。(P. 79)
- ムービー録音 (P. 108) 機能がオンに設定されていると、音声も画像と同時に記録されます。

AFターゲットマーク

10"

撮影可能秒数

5 再度シャッターボタンを全押しして、撮影を終了します。
- カードアクセスランプが点滅して、カードへの記録がはじまります。
- 表示されている撮影可能時間まで撮影を続けると、自動的に撮影を終了し、カードへの記録を始めます。(P. 88)

静止画を見る～簡単再生

1 🔲（液晶モニタ）ボタンをすばやく2回続けて押します。

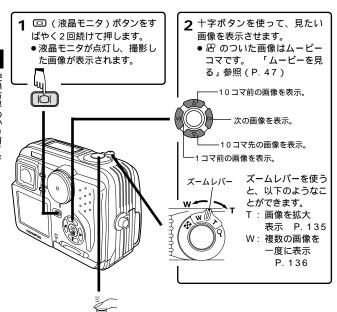
● 液晶モニタが点灯し、撮影した画像が表示されます。

2 十字ボタンを使って、見たい画像を表示させます。

● 🎞 のついた画像はムービーコマです。→「ムービーを見る」参照（P. 47）

ズームレバーを使うと、以下のようなことができます。

T： 画像を拡大表示→P. 135

W： 複数の画像を一度に表示→P. 136

3 撮影モードに戻るには、シャッターボタンを半押しします。

● 液晶モニタが消灯します。ファインダをのぞいて、撮影してください。

注 意

●液晶モニタ点灯時は、3分以上何もカメラの操作をしないと、自動的に消灯します。再度、点灯させるには、🔲 ボタンを押すか、いずれかのボタン操作をしてください。撮影モードで再び動作を始めます。

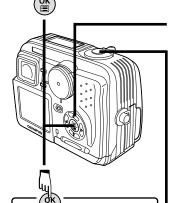
ムービーを見る～簡単再生

1 **ムービー再生したいコマ（🎥 マークのついた画像）を表示しておきます。****→P. 46の手順1、2参照**

2 **㊇ を押して、メニューを表示します。**

3 **十字ボタンの△を押して、「ムービープレイ」を選択します。**

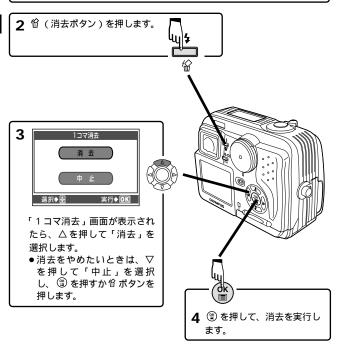
- カードアクセスランプが点滅して、カードからカメラへの画像の読み出しが行われます。

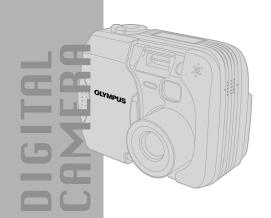
4 **△または▽を押して、「ムービープレイ」画面で「ムービー再生」を選択します。この画面から抜けるには、◁を押します。**

5 **㊇ ボタンを押して、再生を開始します。**

- 再生が終わると、ムービーの最初に戻ります。
- 再生終了後に、再び㊇を押すと「ムービー再生」画面が表示されます。ムービー再生モードから抜けるには、△▽を押して「中止」を選択し、㊇を押します。

6 **撮影モードに戻るには、シャッターボタンを半押しします。**

- 液晶モニタが消灯します。ファインダをのぞいて、撮影してください。

画像を消去する 㿥

注 意

●画像を消さないためのプロテクトシールがカードに貼られていたら、剥がしてください。

3

メニューのしくみ

このカメラには、メニューで設定できる様々な機能が備わっています。ここではメニューのしくみについてマスターします。

メニューについて

カメラの電源を入れて Ⓞ（OK/メニュー）を押したとき、液晶モニタに表示される画面をメニューと呼びます。Ⓞ と△▽◁▷を使ってメニューを操作していきます。このカメラで利用できる多くの機能はメニュー操作が必要となるため、メニューのしくみを理解することで、よりスムーズにメニュー機能を使った撮影を楽しむことができます。まず、下図でメニュー操作の基本的な流れをご確認ください。

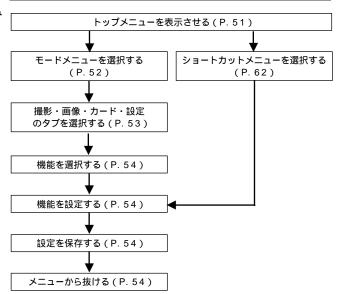
Ⓞ ボタン

メニュー操作の流れ

トップメニューを表示させる（P. 51）

↓

モードメニューを選択する（P. 52） → 撮影・画像・カード・設定のタブを選択する（P. 53） → 機能を選択する（P. 54） → 機能を設定する（P. 54） → 設定を保存する（P. 54） → メニューから抜ける（P. 54）

ショートカットメニューを選択する（P. 62） → 機能を設定する（P. 54）

トップメニュー

メニューを表示させたときに、最初に液晶モニタに表示される画面を「トップメニュー」と呼びます。トップメニューはモードによって異なります（下図参照）。
トップメニュー上には大きく分けて**モードメニュー（P.52）**とその他のメニュー**（ショートカットメニュー →P.62）**があります。

（ムービー）トップメニュー

ムービー録音
画質モード
モードメニュー
ホワイトバランス

トップメニュー（・・・も項目は同じ）

セルフタイマー/リモコン
画質モード
モードメニュー
デジタルズーム

モードダイヤル

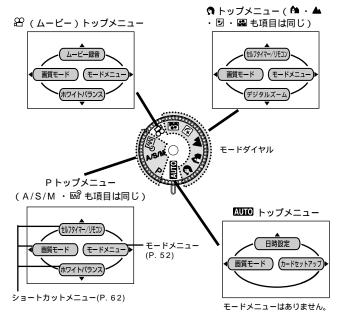
P トップメニュー（A/S/M ・ も項目は同じ）

セルフタイマー/リモコン
画質モード
モードメニュー
ホワイトバランス

モードメニュー(P. 52)

ショートカットメニュー(P. 62)

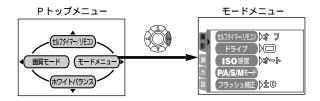
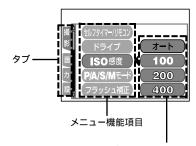
AUTO トップメニュー

日時設定
画質モード
カードセットアップ

モードメニューはありません。

再生トップメニュー（静止画）

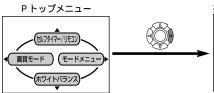
画像再生時に ボタンを押すと、再生トップメニューが表示されます。ムービー再生時のトップメニューでは「自動再生」が「ムービープレイ」になります。また、「プリント予約」はありません。

モードメニュー

モードメニューを選択するには、▷ を押します。モードメニュー内の機能には、モードにより使えるものと使えないものとがあります。また、モードメニューの機能は働きによりさらに４つのグループ（撮影・画像・カード・設定）に分けられています。 ・ ・ ・ ・ ・ モードには、「画像」のグループ（タブ）はありません。次頁の「タブについて」をご覧ください。

選択しているメニュー機能で設定
できる項目が表示されます。

タブについて

モードメニューを選択すると、役割別に分けられた４つのタブが画面の左端に表示されます。△▽ボタンを使ってそれぞれのタブへ移動できます。

P トップメニュー

撮影タブ

画像タブ

カードタブ

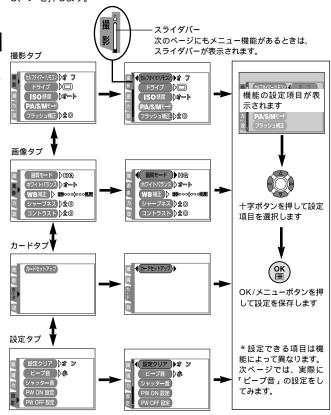
撮：撮影
連写モードを設定したりデジタルズームを使用するなど、主に撮影時に使う機能。

画：画像
画質モードの設定やホワイトバランスの調整など、主に画像に関する機能。
・・・・・モードには、このタブはありません。

カ：カード
カードのフォーマットなど、使用するカードに関する機能。

設：設定
日時設定やショートカット設定など、主にカメラの設定に関する機能。

機能を選択・設定・保存する

撮影・画像・カード・設定のいずれかのタブを選択したら、機能の選択・設定をします。選択されたタブの画面で▷を押すと、以下のようにそれぞれのタブに含まれる機能が表示されます。△▽ボタンを使って設定したい機能を選択し、▷を押します。

メニュー機能の設定例

手順に従って、実際にモードメニュー内の機能を設定してみます。以下は、モードダイヤルがPのとき「ビープ音」を「オフ」に設定する場合です。

1 **モードダイヤルをPに合わせ、㊫を押してトップメニューを表示させます。**

2 **▷を押して「モードメニュー」へ入ります。**

左側にタブがついた画面が表示されます。

3 **▽を繰り返し押して「設定」のタブへ移動します。**

タブの文字の色が変わり、▶マークの位置が選択されたところへ移ります。

4 **▷を押して「設定」の項目へ入ります。**

5 **▽を押して「ビープ音」を選択します。**

6 **▷を押して「オフ」/「小」/「大」を表示させます。**

初期設定では「小」に設定されています。

7 **△を押して「オフ」を選択します。**

8 **㊫を押すと設定が完了します。撮影に戻るには、再度㊫を押します。**

注意： 他の撮影モードに変えても、この設定が有効です。同じ設定項目は、各モードで別々の設定はできません。

モードメニュー機能一覧（撮影）

撮影

セルフタイマー／リモコン ☞ P. 100〜103

セルフタイマー撮影／リモコン撮影時に選択します。

ドライブ ☞ P. 104、105

連写モードの切り替えや、オートブラケット撮影時の設定を行います。

ISO感度 ☞ P. 118

銀塩カメラに基づいたISO感度を、オート、または100/200/400の中から選択できます。

P/A/S/Mモード ☞ P. 72〜75

モードダイヤルがA/S/Mのとき：撮影モードをA（絞り優先撮影）、S（シャッター優先撮影）、M（マニュアル撮影）のいずれかに切り替えます。
モードダイヤルが のとき：P/A/S/Mから選択できます。

フラッシュ補正 ☞ P. 96

被写体に合わせてフラッシュの発光量を増減できます。

スローシンクロ ☞ P. 92、93

遅いシャッター速度でフラッシュを発光させます。

ノイズリダクション ☞ P. 124

長時間露光時に、画像に発生するノイズを軽減します。

デジタルズーム ☞ P. 89

光学ズームの最大倍率からさらに高倍率（約7倍まで）のズーム撮影が可能です。

フルタイムAF ☞ P. 79

シャッターボタンを半押ししなくても、カメラを向けている被写体に常にピントを合わせます。

撮影

スチル録音 ☞ P. 107

静止画像に約４秒間の音声を録音できます。

パノラマ ☞ P. 109

オリンパス標準カードを使っているとき、パノラマ撮影ができます。撮影画像の合成は、CAMEDIA Masterが必要です。

ファンクション撮影 ☞ P. 111

モノクロやセピアカラーなどの画像撮影を楽しめます。

画像

画質モード ☞ P. 114〜117

撮影する画像の画質を選択します。

ホワイトバランス ☞ P. 120、121

光源に応じて、適切なホワイトバランスを設定できます。

WB補正 ☞ P. 122

手動による微妙なホワイトバランス設定が可能です。

シャープネス ☞ P. 122

画像の鮮鋭度を調節します。

コントラスト ☞ P. 123

画像のコントラスト（明暗の差）を調節します。

彩度 ☞ P. 123

色あいを変化させずに、色の濃さを調節します。

カード

カードセットアップ ☞ P. 142

カードをフォーマットします。

設定

設定クリア ☞ P. 152

カメラに設定した機能を電源を切ったときに保持するかどうかを選択します。

ビープ音 ☞ P. 154

カメラの操作音や警告音をオフにしたり、またその大きさを設定できます。

シャッター音 ☞ P. 155

撮影時のシャッター音の種類と音量を設定します。

PW ON設定 ☞ P. 156

電源を入れたときに出力される起動音や、液晶モニタに表示されるスタートアップ画面の選択をします。

PW OFF設定 ☞ P. 156

電源を切ったときに出力される終了音や、液晶モニタに表示されるシャットダウン画面の選択をします。

レックビュー　☞ P. 158

撮影した画像の記録中にその画像を液晶モニタに表示するかどうかを選択します。

マイモード設定　☞ P. 146

MY モードで設定される機能をここで登録します。

スリープ時間　☞ P. 159

カメラがスリープモード（待機状態）に入るまでの時間を設定します。

ファイル名メモリー　☞ P. 160

カメラ内に自動的に記録されるフォルダ名/ファイル名の付け方を選択します。

ピクセルマッピング　☞ P. 162

CCDと画像処理用回路のチェックをします。

モニタ調整　☞ P. 86

液晶モニタの明るさを調整します。

日時設定　☞ P. 39〜41

日付と時間を設定します。

m/ft設定　☞ P. 163

マニュアルフォーカス時に表示される長さの単位をメートル、またはフィートに切り替えます。

ショートカット設定　☞ P. 149〜151

お好みのメニュー機能をトップメニューに登録できます。

設定

モードメニュー機能一覧（再生）

再生

録音 ☞ P. 138

撮影済みの画像に音声をつけることができます（アフレコ）。

カード

カードセットアップ ☞ P. 142

カードをフォーマット、またはカード内の画像を全て消去します。

設定

設定クリア ☞ P. 152

カメラに設定した機能を電源を切ったときに保持するかどうかを選択します。

再生音量 ☞ P. 137

再生時の音量や「PW ON設定」・「PW OFF設定」で再生される音声の音量を設定します。

ビープ音 ☞ P. 154

カメラの操作音や警告音をオフにしたり、またその大きさを設定できます。

PW ON設定 ☞ P. 156

電源を入れたときに出力される起動音や、液晶モニタに表示されるスタートアップ画面の選択をします。

PW OFF設定 ☞ P. 156

電源を切ったときに出力される終了音や、液晶モニタに表示されるシャットダウン画面の選択をします。

画面登録 ☞ P. 157

「PW ON 設定」・「PW OFF 設定」で選択する画面に、自分で撮影した画面を使用できるように登録します。

モニタ調整 ☞ P. 86

液晶モニタの明るさを調整します。

日時設定 ☞ P. 39〜41

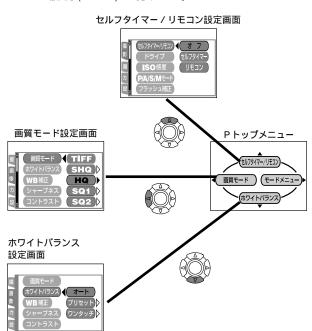
日付と時間を設定します。

設定

インデックス表示 ☞ P. 137

インデックス再生時の液晶モニタに一度に表示する画像の枚数を設定します。

ショートカットメニュー

ショートカットメニューはトップメニュー上のモードメニュー以外の機能項目です。トップメニュー上にあることにより、途中のメニュー操作をせずにその機能の設定画面までダイレクトにジャンプできる便利な機能です。モードによっては、モードメニューに含まれているショートカットメニューもあります。AUTO モードのトップメニューには、モードメニューはなく、ショートカットメニューだけです。
モードダイヤルが**P・A/S/M・**MY に設定されているときのみ、ショートカットメニューをお好みの機能項目に変更することができます。詳しくは「ショートカット設定」(P. 149)をご覧ください。

モード別ショートカットメニュー

以下のイラストは各モードで利用できるショートカットメニューを表しています。モードメニュー以外の項目がショートカットメニューです。

日時設定
日付けと時間を設定します。

画質モード
撮影する画像の画質を選択します。

カードセットアップ
カードをフォーマットします。

セルフタイマー／リモコン
セルフタイマー撮影／リモコン撮影時に選択します。

画質モード
撮影する画像の画質を選択します。

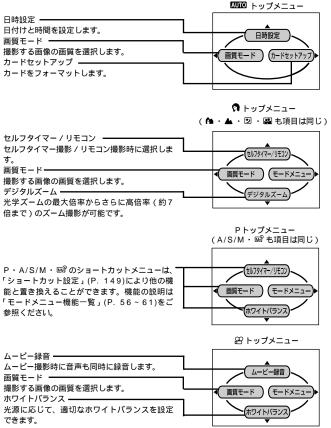
デジタルズーム
光学ズームの最大倍率からさらに高倍率（約7倍まで）のズーム撮影が可能です。

P・A/S/M・ のショートカットメニューは、「ショートカット設定」(P. 149)により他の機能と置き換えることができます。機能の説明は「モードメニュー機能一覧」(P. 56〜61)をご参照ください。

ムービー録音
ムービー撮影時に音声も同時に録音します。

画質モード
撮影する画像の画質を選択します。

ホワイトバランス
光源に応じて、適切なホワイトバランスを設定できます。

モード別ショートカットメニュー（つづき）

再生トップメニュー
（静止画）

自動再生
カードに記録されている画像を、連続で再生します。

情報表示
撮影した画像の情報をすべて表示するか、最小限にするかを選択します。

プリント予約
撮影した画像をプリントできるように、カードに必要な情報を記憶させます。

再生トップメニュー（ムービー）

ムービープレイ
撮影したムービーを再生します。またそのムービーの編集やインデックス作成をすることもできます。

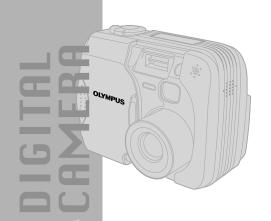
情報表示
撮影した画像の情報をすべて表示するか、最小限にするかを選択します。

モード別初期設定

<table>
<tr><th>モード / メニュー機能</th><th>AUTO</th><th></th><th>P A/S/M My</th><th></th><th>再生</th></tr>
<tr><td>セルフタイマー／リモコン</td><td>–</td><td colspan="3">オフ</td><td>–</td></tr>
<tr><td>ドライブ</td><td>–</td><td colspan="2">単写
BKTを選択したとき：
±1.0/x3</td><td colspan="2">–</td></tr>
<tr><td>ISO感度</td><td colspan="2">–</td><td>P・My：オート
A/S/M：100</td><td>オート</td><td>–</td></tr>
<tr><td>P/A/S/Mモード</td><td colspan="2">–</td><td>P：–
A/S/M：A（A/S/M から選択）
My：P（P/A/S/Mから選択）</td><td colspan="2">–</td></tr>
<tr><td>フラッシュ補正</td><td colspan="2">–</td><td>±0</td><td colspan="2">–</td></tr>
<tr><td>スローシンクロ</td><td colspan="2">–</td><td>先幕効果</td><td colspan="2">–</td></tr>
<tr><td>ノイズリダクション</td><td>–</td><td>のみ：オン</td><td>P: –
M時のみ：オフ
My：オフ</td><td colspan="2">–</td></tr>
<tr><td>デジタルズーム</td><td>–</td><td colspan="3">オフ</td><td>–</td></tr>
<tr><td>フルタイムAF</td><td colspan="2">–</td><td>オフ</td><td>オン</td><td>–</td></tr>
<tr><td>スチル録音</td><td>–</td><td colspan="2">オフ</td><td colspan="2">–</td></tr>
<tr><td>ムービー録音</td><td colspan="3">–</td><td>オフ</td><td>–</td></tr>
<tr><td>ファンクション撮影</td><td>–</td><td colspan="3">オフ</td><td>–</td></tr>
<tr><td>画質モード</td><td colspan="2">HQ</td><td>HQ、2272x1704
(他の画質を選択したときは、次の設定になっています。TIFF: 2272x1704、SHQ: 2288x1712、SQ1: 1280x960/標準、SQ2: 640x480/標準)</td><td>HQ</td><td>–</td></tr>
<tr><td>ホワイトバランス</td><td colspan="2">–</td><td colspan="2">オート（プリセットを選択したとき：晴天）</td><td>–</td></tr>
</table>

モード別初期設定（つづき）

モード／メニュー機能	AUTO	（シーンモード）	P A/S/M My	（動画）	再生
WB補正	–		±0	–	
シャープネス	–		±0	–	
コントラスト	–		±0	–	
彩度	–		±0	–	
設定クリア	–	オン			
ビープ音	–	小			
シャッター音	–	1/小			
PW ON設定	–	画面：1、音声：1			
PW OFF設定	–	画面：1、音声：1			
レックビュー	–		オン		–
スリープ時間	–		3分	–	
ファイル名メモリ	–		リセット	–	
モニタ調整	–	±0			
日時設定	YMD/2001/1/1				
m／ft設定	–		m	–	
ショートカット設定	–		A：セルフタイマー／リモコン B：画質モード C：ホワイトバランス	–	
再生音量	–				3
インデックス表示	–				9
情報表示	–				オフ

- 「–」の設定は、そのモードでは設定できませんが、他のモードで設定した状態で働くものがあります。

4

撮影の基本

この章を順番に読んでいくと、基本的な撮影がマスターできます。
カメラを使う前には、必ず「本書の見方」と１章「準備」をお読みください。

撮影モードの設定～モードダイヤル

モードダイヤルを以下のモードのいずれかに設定して、レンズバリアを開きます。

撮影モード：AUTO、ポートレート、記念写真、風景、夜景、シーン、**P**、**A/S/M**、My、動画

- 電源が入り、レンズが前に出てきます。
- **A/S/M**、My、動画 にすると、自動的に液晶モニタが点灯します。

AUTO フルオート撮影

静止画を撮影します。特別な機能や各種の設定は必要ありません。ピント合わせや明るさ調整などは、カメラが最適なものにします。いちばん簡単な撮影方法です。

ポートレート撮影

人物撮影をするのに最適です。背景をぼかし人物だけにピントが合うようにすることで、人物を背景から浮き出させる効果があります。カメラが自動的にポートレート撮影に適した条件を設定します。

記念写真撮影

人物と背景をいっしょに撮るのに最適です。近くの被写体と背景の両方にピントを合わせるように撮ります。カメラが自動的に記念写真に適した条件を設定します。

風景撮影

風景を撮るのに最適です。遠くの風景にピントが合うようにして、くっきりと写します。また、青や緑の色をよりきれいに再現するので、自然のなかでの撮影には効果的です。カメラが自動的に風景撮影に適した条件を設定します。

夜景撮影

夜の景色を撮るには最適です。通常の撮影よりも長いシャッター速度で撮影します。AUTO モードで街灯が輝く街の夜景を撮影すると、明るさが不足するので光っている点だけの画像になってしまいます。夜景撮影モードでは、街の様子も写し出します。カメラが自動的に夜景撮影に適した条件を設定します。

セルフポートレート撮影

撮影者がカメラを持って、自分を撮るのに最適です。ピントは近くに合うようになっています。カメラが自動的にセルフポートレート撮影に適した条件を設定します。ズームはできません。

P プログラム撮影

絞り値とシャッター速度はカメラが自動的に決めて、静止画を撮影します。フラッシュ発光モードやドライブモードなどのその他の機能は、自由に設定できます。

A/S/M 絞り優先/シャッター優先/マニュアル 撮影

絞り値やシャッター速度を自分で決めたい場合は、A/S/M モードにします。モードダイヤルをA/S/M に設定したとき、どの撮影モードに設定するかは、メニュー画面での選択になります。

撮影モードの設定～モードダイヤル（つづき）

A（絞り優先撮影）

絞り値を自分で設定できます。シャッター速度は、カメラが自動的に設定します。絞り値（F値）を小さくすると、ピントの合う範囲が狭くなって、背景のぼけが強くなります。絞り値（F値）を大きくすると、ピントの合う範囲が前後に広くなって、背景にもピントが合いやすくなります。背景の描写に変化をつけたいときに、このモードをお使いください。

絞り値の設定→P. 72

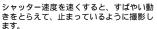
絞り値を（F値）を小さくする

絞り値を（F値）を大きくする

S（シャッター優先撮影）

シャッター速度を自分で設定できます。絞り値は、カメラが自動的に設定します。目的に応じて、シャッター速度を設定してください。

シャッター速度の設定→P. 73

シャッター速度を速くすると、すばやい動きをとらえて、止まっているように撮影します。

シャッター速度を遅くすると、動いているものは、ぶれて撮影されます。このぶれが躍動感や動きのある仕上がりになります。

M（マニュアル撮影）

絞り値とシャッター速度を自分で設定します。適正露出かどうかは、露出レベル表示で確認できます。このモードは、適正露出にとらわれることなく、独自の撮影意図を反映することができます。

絞り値とシャッター速度の設定→P. 74

マイモード撮影

静止画を撮影します。メニューの「設定」内の「マイモード設定」で、各種の機能を自由に設定して登録しておくことができます。この撮影モードで電源を入れるたびにその設定で動作します。設定には、絞り値やズーム位置などがあります。露出モードは、P・A・S・Mから選択します。機能の設定は、メニュー画面での選択になります。
ショートカットメニューも、PやA/S/Mとは違った設定が可能です。
マイモード設定→P. 146

動画（ムービー）撮影

ムービーを撮影します。絞り値とシャッター速度は、カメラが自動的に決めます。被写体が移動したり、被写体との距離が変化した場合でも、カメラは常にピントと露出が正しく合うように作動します。

絞り値の設定～絞り優先撮影

A/S/M My

1 **トップメニューから「モードメニュー」→「撮影」→「P/A/S/M モード」→「A」を選択します。**

2 絞りを絞る（F値を大きくする）には△を押します。

絞りを開く（F値を小さくする）には▽を押します。

■ **絞り値が赤く表示される**

設定した絞り値では、適正露出（正しい露出）が得られません。
▼が表示される→▽を押して、絞り値を小さくします。
▲が表示される→△を押して、絞り値を大きくします。

緑の表示：
設定した絞り値で適正露出が得られる場合

赤の表示：
設定した絞り値では適正露出が得られない場合

ズーム位置	設定
広角（W側）	F2.8＊、F3.4、F4.0、F4.8、F5.6、F8.0
望遠（T側）	F4.8＊、F5.6、F8.0

＊ズームの位置により、開放絞り値は変わります。

注 意

●フラッシュがオート発光に設定されている際、シャッター速度は、ズームでもっとも広角側（W端）で1/30秒、もっとも望遠側（T端）で1/100秒よりも低速にはなりません。

シャッター速度の設定〜シャッター優先撮影

A/S/M My

1 **トップメニューから「モードメニュー」→「撮影」→「P/A/S/M モード」→「S」を選択します。**

2 シャッター速度を速くするには△を押します。

シャッター速度を遅くするには▽を押します。

■ シャッター速度が赤く表示される

設定したシャッター速度では、適正露出が得られません。
▼が表示される→▽を押して、シャッター速度を遅くします。
▲が表示される→△を押して、シャッター速度を速くします。

シャッター速度

シャッター速度選択範囲： 4＊1〜1/1000＊2（秒）

＊1 設定されているISO感度により変わります。
ISO100：4秒
ISO200：2秒
ISO400：1秒
＊2 絞り値・ズーム位置により、1/500〜1/1000の間で変わります。

4 撮影の基本

絞り値とシャッター速度の設定～マニュアル撮影

A/S/M My

1 **トップメニューから「モードメニュー」→「撮影」→「P/A/S/M モード」→「M」を選択します。**

2

シャッター速度を速くするには△を押します。

絞りを絞る（F 値を大きくする）には◁を押します。

絞りを開く（F 値を小さくする）には▷を押します。

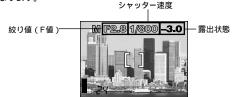
シャッター速度を遅くするには▽を押します。

絞り値： W側→F2.8＊1、F3.4、F4.0、F4.8、F5.6、F8.0 T側→F4.8＊1、F5.6、F8.0 **シャッター速度：** 16～1/1000＊2（秒）

＊1 ズームの位置により、開放絞り値は変わります。
＊2 絞り値・ズーム位置により、1/500～1/1000の間で変わります。

■ **露出状態**

- 設定されている絞り値とシャッター速度から算出される露出と、カメラが算出する適正露出との露出差がー3.0～＋3.0EVの範囲で、画面右上に表示されます。
- 露出差がー3.0EVよりも小さい、または+3.0EVより大きいときは、表示が赤くなります。

注 意

- シャッター速度を遅くする場合は、カメラ振れを防ぐために三脚のご使用をおすすめします。

お好みの撮影モードに設定～マイモード撮影

マイモードでは、メニューで選択した撮影モードで動作します。
選択した撮影モードや、機能の設定を記憶させておき、カメラをすぐにその状態に設定できます。また、現在使用している設定を、Myモードで呼び出せるように記憶することができます。→マイモード設定(P. 146)

A/S/M **My**

1 **トップメニューから「モードメニュー」→「撮影」→「P/A/S/M モード」→お好みのモードにします。**

注 意

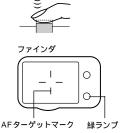
- 現在使用している設定を、そのまま登録することができますが、ズームの位置は登録時の設定とズレが生じる場合があります。
- P/A/S/M モードの設定に関わらず、液晶モニタは常に点灯します。

シャッターボタンの使い方

1 **カメラを被写体に向けます。ファインダをのぞきながら、AFターゲットマークを被写体に合わせます。**
シャッターボタンを静かに軽く押します。これを半押しといいます。

- ピントと画像の明るさ（露出）が固定されると、ファインダ横の緑ランプが点灯します。

次ページに続く

シャッターボタンの使い方（つづき）

2 半押しした状態から、シャッターボタンをさらに押し込みます。これを全押しといいます。

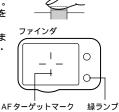
- 撮影が行われ、緑ランプが点滅します。
- AUTO、 、 、 、 、 、P、 A/S/M、 モードの場合：撮影した画像はカードへ記録されます。カードへの記録中は、カードアクセスランプが点滅します。
- モードの場合：ムービーの撮影が開始します。

3 モード（ムービー撮影のみ）撮影を終わらせるために、もう一度シャッターボタンを全押しします。

- カードアクセスランプが点滅して、撮影した画像のカードへの記録が始まります。カードアクセスランプの点滅中は、次の撮影はできません。

ピント

オートフォーカス

AFターゲットマークを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しすると、緑ランプが点灯します。これはピント合わせが自動的におこなわれたことを示しています。
もし、緑ランプが点滅したら、ピントは合っていません。その場合はマニュアルフォーカス(P. 80)・フォーカスロック(P. 78)をします。

ピントの合いにくいもの
〜オートフォーカスの苦手な被写体

ほとんどの被写体に対してオートフォーカスが可能ですが、以下❶〜❸のような条件ではピントが合わず、緑ランプが点滅することがあります。また、❹、❺のような被写体では、緑ランプが点灯し、シャッターは切れてもピントが合わないことがあります。その場合は以下の方法で撮影するか、マニュアルフォーカス(P. 80)を使用してください。

❶ 明暗の差がはっきりしない被写体
被写体と同距離にある明暗の差（コントラスト）がはっきりしたものでフォーカスロック(P. 78)した後、元の構図に戻して撮影してください。

❷ 縦線のない被写体
カメラを縦位置に構えてフォーカスロック(P. 78)した後、構図を横に戻して撮影してください。

❸ 画面中央に極端に明るいものがある被写体
被写体と同距離にあるコントラストのはっきりしたものでフォーカスロック(P. 78)した後、元の構図に戻して撮影してください。

❹ 遠いものと近いものが混在する被写体
緑ランプが点灯しても撮影したい被写体がぼけているときは、同じ距離にあるものでフォーカスロック(P. 78)してから元の構図に戻して撮影してください。

❺ 動きの速い被写体
あらかじめ撮影したい被写体と同じ距離にあるものでフォーカスロック(P. 78)してから、元の構図に戻して撮影してください。

フォーカスロック～中央以外の被写体にピントを合わせる

AFターゲットマークを被写体に合わせていない構図では、撮影したい被写体にうまくピントを合わせることができないことがあります。このような場合は次の手順で撮影を行ってください。

AFターゲットマーク

AUTO P A/S/M

1 ピントを合わせたいものにAFターゲットマークを合わせ、シャッターボタンを半押ししてピントを合わせます。

同時に画像の明るさ（露出）も固定され、緑ランプも点灯します。

緑ランプ

2 シャッターボタンを半押ししたまま、撮影したい構図に戻します。

3 シャッターボタンを全押しします。

ヒント

● **緑ランプが点滅する。**
→ ピントと露出が固定されていません。いったん指をはなし、ピントを合わせる位置を少しずらして、緑ランプが点灯するまで、手順1を繰り返します。

フルタイムAF～動きのある被写体にピントを合わせる

シャッターボタンを半押ししなくても、常にレンズの前のものにピントを合わせます。この機能により、シャッターを押したときのピント合わせの時間を短縮することができます。「オフ」設定時は、シャッターを半押しするまでピントは合いません。

🎥 モード：フルタイムAFがオンのときは、撮影中も撮影待機中も、常に被写体にピントと露出が合うように作動します。ムービー録音がオンになっていると、撮影中、ピント会わせの動作音が録音される場合があります。フルタイムAFがオフのときは、シャッターボタンを半押しした時点で、ピントは固定されます。

P A/S/M My 🎥

1 **トップメニューから「モードメニュー」→「撮影」→「フルタイムAF」→「オン」を選択します。**

2 **液晶モニタを点灯させます(P. 85)。**
- 液晶モニタを点灯させていないときは、フルタイムAFは作動していません。

初期設定

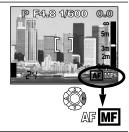
P A/S/M My　：オフ
🎥　：オン

注 意

- フルタイムAFを設定しているときは、電池寿命が短くなります。

マニュアルフォーカス～ピントを自分で合わせる

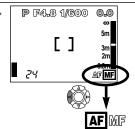
オートフォーカスでうまくピントが合わないときは、手動でピント合わせができます。

1 OK を1秒以上押し続けます。
液晶モニタにマニュアルフォーカスの撮影距離の選択画面が表示されたら、▷ を押してMFを選択します。

2 △▽を押して、撮影距離を選択します。
- 操作中は、画像が拡大されます。液晶モニタの距離表示は、あくまで目安です。0.8m以下にカーソルを移動させると、自動的に10cm～80cmの目盛りになります。

3 OK を1秒以上押して、設定を確定します。
- 画面に赤でMFと表示されます。

4 撮影します。
- ピントは設定された距離で固定されます。

5 MFを解除するときは、再度 OK を1秒以上押して、撮影距離の選択画面を表示させます。

6 **◁を押してAFを選択し、㊫を押します。**
● マニュアルフォーカスが解除されます。

● **いつも同じピント位置で撮影したい。**
→ **フォーカスロックした距離に、MFを固定させることができます。**
❶ 距離を合わせたいものにAFターゲットマークを合わせて、シャッターボタンを半押しします。
❷ シャッターボタンを半押ししたまま㊫を押すと、撮影距離の選択画面が表示されます。このときMFが選択され、カーソルはフォーカスロックをした距離に設定されています。

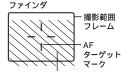
● **MFを選択して距離表示でもっとも上にカーソルを合わせても、ピントが∞（無限位置）に合わない。**
→ 液晶モニタを見て、△▽を少しずつ動かして調整してください。
● **設定したのに、その距離が変わった。**
→ 設定した後でズーム操作をすると、設定距離が変わることがあります。再度、設定が必要です。

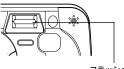
ファインダを使って静止画を撮る

ファインダをとおして決めた構図よりも、やや広い範囲が撮影されます。

AUTO P A/S/M My

1 ファインダをのぞき、カメラを被写体に向けて、AFターゲットマーク中央に被写体を合わせます。構図を決めます。

- ファインダの撮影範囲フレームは、撮りたいものまでの距離が近づくにつれて、写る範囲が下に移動します。このような場合は、液晶モニタを使ってください。(P. 84)

2 シャッターボタンを半押しします。

- ピントと露出（画像の明るさ）が固定され、緑ランプが点灯します。
- オレンジランプが点灯したら、フラッシュが自動的に発光します。→フラッシュ撮影(P. 94)

3 シャッターボタンを全押しします。

- 緑ランプが点滅し、カード記録が始まります。緑ランプの点滅が終わると、次の撮影ができます。
- カード記録中は、カードアクセスランプが点滅します。
- １６ＭＢカード使用時の記録可能枚数
  画質モードがＨＱ（２２７２ x １７０４）のとき：約１６枚
  画質モードがＳＱ２（６４０ x ４８０標準）のとき：約１６５枚

ヒント

- **被写体を拡大するには、ズームレバーをT側へまわします。より広い範囲を撮るには、ズームレバーをW側へまわします。（P. 89）**
- **液晶モニタを使って撮影したい。**
  → （液晶モニタ）ボタンを押します。（P. 85）
- **撮影ができない。**
  → オレンジランプが点滅したら、フラッシュが充電中です。充電中は、シャッターは切れません。オレンジランプが消えたら、再度シャッターボタンを押します。
  → 液晶モニタに「撮影可能枚数が0です」と表示されていると、カードに空きがありません。不要な画像を消去する（P. 140、141）、新しいカードに取り替える（P. 35）、すでに撮影した画像をパソコンに転送する（P. 181〜184、187）などして、カードの空き容量を増やしてください。
- **被写体がAFターゲットマークから外れる。**
  → 被写体にAFターゲットマークを合わせ、フォーカスロックをします。(P. 78)
- **緑ランプが点滅している。**
  → 被写体に近づいて撮影したいときはマクロモード（最短撮影可能距離：W側で10cm、T側で25cm）を使います。(P. 99)
  → 被写体の条件によって、ピントや画像の明るさが固定されないことがあります。(P. 77)
- **シャッターボタンの半押しで、ピント合わせの時間を短くしたい。**
  → フルタイムAFに設定して（P. 79）、液晶モニタを使って撮影します(P. 84)。
- **撮影した画像をすぐに確認したい。**
  → レックビューをオンに設定すると、液晶モニタ上で画像を確認できます。(P. 158)
- **撮影時の音声を記録したい。**
  → スチル録音をオンに設定します。(P. 107、108)

注意

- シャッターボタンは静かに押してください。シャッターボタンを強く押すとカメラが動き、画像がぶれる原因になります。
- 電源を切ったり電池の交換や取り外しを行っても、撮影した画像はカードに保存されています。
- カードアクセスランプの点滅中には、絶対にカードカバーを開けたり、電池やカードを抜いたり、電源プラグを抜いたりしないでください。今撮影した画像が記録されないだけでなく、記録済みの画像が破壊されるおそれがあります。

液晶モニタを使って静止画を撮る

液晶モニタを使うと、実際に写る範囲を確認しながら撮影できます。また、カメラのメモリゲージや絞り値、シャッター速度などの情報も確認できます。

《ファインダと液晶モニタの特徴》

	ファインダ	液晶モニタ
長所	カメラがぶれにくく、周囲が明るくても写したものがはっきり見えます。電池の消耗が少ないです。	撮影する範囲を正しく確認できます。
短所	近くのものを撮影するとき、ファインダで見える範囲と撮影できる画像とのあいだにずれが生じます。	手振れが起こりやすく、周囲が明るいときや暗い場合では、見えにくいことがあります。電池の消耗が早くなります。
こんな撮影に	スナップや風景写真など、気軽につぎつぎと撮影したいときに。	実際に写る範囲を確認しながら、撮影したいときに。被写体が0.1m～0.8mの範囲のとき（マクロ撮影）。

ファインダ

実際に撮影される範囲

- ファインダで見た構図より、実際にはやや広い範囲が撮影されます。
- 図のように写すものとの距離が近いと、実際に撮影される画面の範囲は、ファインダで見ている範囲と多少異なってきます。

AUTO / P / A/S/M

1 **（液晶モニタ）ボタンを押して、液晶モニタを点灯させます。**

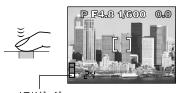
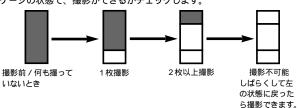
- A/S/M・ モードでは、自動的に液晶モニタが点灯します。

2 **カメラを被写体に向けて、液晶モニタを見ながら、AFターゲットマークを被写体に合わせます。構図を決めます。**

3 **シャッターボタンを半押しします。**

- 緑ランプが点灯します。この状態でカメラは適正な露出とピントを決定します。
- オレンジランプが点灯すると、フラッシュは自動的に発光します。→フラッシュ撮影 (P. 94)

4 **シャッターボタンを全押しします。**

- メモリゲージの一番下が点灯し、カードアクセスランプが点滅して、カード記録が始まります。

連続して撮影すると、メモリゲージは次のように表示が変化します。メモリゲージの状態で、撮影ができるかチェックします。

ヒント

● **液晶モニタが点灯しない。**
→ 3分以上何も操作をしないと、液晶モニタは消灯します。シャッターボタンやズームレバーを操作すると再び点灯します。

● **液晶モニタが見にくい。**
→ 晴天下のように明るい場所で液晶モニタを見たときに、液晶モニタの画像に縦スジが入ることがあります。この場合は、ファインダをお使いください。

● **液晶モニタを明るく／暗くしたい。**
→ ❶ トップメニューから「モードメニュー」→「設定」→「モニタ調整」を選択します。
❷明るくするには、△を押し、暗くするには、▽を押します。設定が決まったら、Ⓞを押します。

AUTO モードでは設定はできません。モードメニュー設定のできるモードで設定してください。

● **液晶モニタよりファインダを使う撮影のほうが、カメラぶれが起こりにくいです。**

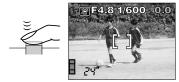
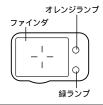
● **「ファインダを使って静止画を撮る」の「ヒント」(P. 83)もお読みください。**

注 意

●液晶モニタを使用すると、ファインダを使って撮影するよりも電池を消耗します。

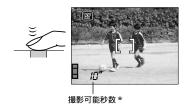
ムービー（動画）を撮る

1 **カメラを被写体に向けて、液晶モニタを見ながら、構図を決めます。**

2 **シャッターボタンを半押しします。**

● 緑ランプが点灯します。

3 **シャッターボタンを全押しして、撮影を始めます。**

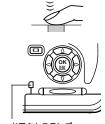
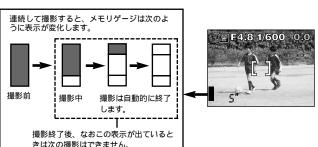
● ムービー撮影中は、オレンジランプが点灯します。

● ムービー撮影中は、音声も同時に記録できます。→ムービー録音(P. 108)

撮影可能秒数＊

＊ 表示される撮影可能時間は、1回のシャッターボタンの全押しで、連続して撮影できる時間です。カードに記録できる全時間ではありません。

次ページに続く

4 再度シャッターボタンを全押しして撮影を終了します。

- カードアクセスランプが点滅して、カードへの記録が始まります。ランプの点滅中は、次の撮影はできません。
- カードアクセスランプの点滅が終わると、カードへの記録は終わりです。カードに空き容量があれば、撮影可能秒数が表示され、次の撮影ができます。
- 表示されている撮影可能時間まで撮影を続けると、終了のためにシャッターボタンを押さなくても自動的に撮影を終了し、カードへの記録を始めます。

ヒント

● **撮影ができない。**

→ メモリーゲージが点灯していませんか？点灯中はカードへの記録を行っています。メモリーゲージが全て消灯するまで待って、次の撮影に進んでください。

→「撮影可能枚数が0です」と表示されていると、カードに空きがありません。不要な画像を消去する（P. 140、141)、新しいカードに取り替える（P. 35)、すでに撮影した画像をパソコンに転送する(P.181～184、187)などして、カードの空き容量を増やしてください。

注 意

- ●🎥 モードのときは、ムービー録音の初期設定はオフです。ムービー撮影中は、光学ズームが可能です。ムービー録音をオンにすると、ムービー撮影中は光学ズームはできませんが、デジタルズームをオンに設定すれば、デジタルズームは使えます。
- ●ムービー録音をオンにすると、撮影中、ピント合わせの動作音が録音される場合があります。フルタイムAFをオフに設定すると、動作音を消すことができます。

ズーム～望遠や広角撮影をする

ズーム倍率2.8倍（光学ズーム）まで、望遠や広角撮影が行えます。デジタルズームと組み合わせて使用すると約7倍相当（35mmカメラ換算：35mm～245mm）の撮影が可能です。

広角
ズームレバーをW側にしたとき

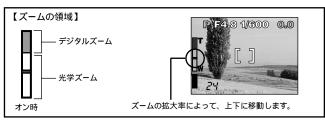
望遠
ズームレバーをT側にしたとき

デジタルズーム

P A/S/M

1 :トップメニューから「デジタルズーム」→「オン」を選択します。
P A/S/M :トップメニューから「モードメニュー」→「撮影」→「デジタルズーム」→「オン」を選択します。

次ページに続く

2 ズームレバーをT側にまわします。
- 液晶モニタが点灯します。
- 液晶モニタをオフにすると、デジタルズームは1倍に戻ります。

初期設定：オフ

- **モードでは、ムービー録音の初期設定はオフです。ムービー撮影中は、光学ズームが可能です。**
- **モード（動画撮影）でのズームイン／アウト**
  モードでメニューの「ムービー録音」を「オン」にすると、撮影中はデジタルズームのみが働きます。そのため、撮影前にズームレバーを操作して、光学ズームの倍率を決めておく必要があります。
- **モードで「デジタルズーム」が「オフ」だと、撮影中はズームはできません。**

注 意

- モードでは、光学／デジタルどちらのズームも動作しません。
- デジタルズームの領域で撮影すると、画質が粗くなる場合があります。
- 高倍率になるほど手ぶれが起こりやすくなります。手ぶれ防止のため、三脚を使うなどして、カメラを固定してください。

フラッシュ撮影

撮影状況・目的に合わせてフラッシュモードをお選びください。被写体にあわせてフラッシュの発光量を補正することもできます（P. 96）。

フラッシュモードには、次の種類があります。

オート発光

暗いときや逆光のときに、自動的に発光します。

赤目軽減発光

本発光の前に10数回予備発光を行い、目が赤く写ってしまう現象を起こりにくくします。予備発光をする以外はオート発光と同じです。

目が赤く写ります。

注 意

- 最初のフラッシュ発光からシャッターが切れるまで、約1秒かかりますので、途中で動かさないようカメラをしっかり構えてください。
- フラッシュを正面から見ていない場合、予備発光を見ていない場合、被写体までの距離が遠い場合や、個人差により、赤目軽減の効果が現れにくくなります。

強制発光

必ず発光させたいときに。
木かげなどで顔にかかった陰をやわらげるときや、逆光、蛍光灯などの人工照明下での撮影のときなどに使います。

注 意

- 非常に明るい状況下では効果があらわれにくくなることがあります。

発光禁止

暗いところでも発光させたくない時に。このモードでは暗くてもフラッシュは光りません。美術館などのように、フラッシュを使えない場所や夕景・夜景などを撮影するときに使います。

注 意

●暗いところの撮影ではシャッタースピードが長くなりますので、カメラぶれを防ぐため三脚のご使用をおすすめします。

スローシンクロ　SLOW1　SLOW2　SLOW

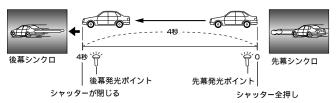
遅いシャッター速度でフラッシュを発光させます。通常のフラッシュ撮影では、手ぶれを防ぐためシャッター速度が遅くならないように設定されています。このとき夜景などをバックに撮影すると、背景はフラッシュの光が届かないため、暗くつぶれてしまいます。遅いシャッター速度で背景を写し込むことができ、被写体と背景を両方撮影することができます。

■ 先幕効果（先幕シンクロ）：⚡ SLOW1

フラッシュはシャッター速度にかかわらず、シャッターが開いた瞬間（直後）に光るようになっています。これを先幕シンクロといい、一般的にフラッシュ撮影はこの方法で行なわれます。初期設定は「先幕効果」です。

■ 後幕効果（後幕シンクロ）：⚡ SLOW2

先幕シンクロに対して、シャッターが閉じる直前にフラッシュが光るようになっています。フラッシュを発光させるタイミングを変えることで、夜間走行中の車のテールライトが後方に流れる様子を表現するなど、作画に変化をつけることができます。シャッター速度がより遅いほうが効果的です。
もっとも遅いシャッター速度は、撮影モードにより異なります。
Mモード　　　：16秒
P/A/Sモード　：4秒（設定されているISO感度により変わります）

シャッター速度が4秒に設定されたとき

■ 赤目先幕：◉ ⚡ SLOW

スローシンクロを使ってフラッシュ撮影をしながら、赤目軽減発光も使いたいときに「赤目先幕」を選択します。
例えば、夜景などの暗い被写体を背景にして人物を写すと、赤目現象が出やすくなります。この機能では、後幕シンクロでは予備発光から撮影までが長くなり赤目軽減効果が得られにくいため、先幕シンクロのみの設定となります。

スローシンクロを設定する

P　A/S/M　My

トップメニューから「モードメニュー」→「撮影」→「スローシンクロ」→モード（先幕効果、赤目先幕効果または後幕効果）を選択します。

フラッシュを使う

AUTO P A/S/M

1 **使いたいフラッシュモードの表示が出るまで、繰り返し（フラッシュモード）ボタンを押します。**

- フラッシュモードの表示は、次のように切り替わります。（全モード設定可能の場合）

2 **シャッターボタンを半押しします。**

- フラッシュが発光する前には、オレンジランプが点灯します。

ファインダ
オレンジランプ

3 **シャッターボタンを全押しします。**

- フラッシュが発光します。

フラッシュの到達距離

広角時：約0.8m～3m　　望遠時：約0.25m～1.8m

モードによる機能制限

モード		フラッシュモード	初期設定
AUTO		オート、発光禁止	オート
		強制発光、発光禁止	強制発光
		オート、発光禁止	オート
		スローシンクロ、発光禁止	スローシンクロ
P		すべて設定可	オート
A/S/M	A	すべて設定可	オート
	S	スローシンクロ、発光禁止	スローシンクロ
	M		
		設定した撮影モードによる	オート

- **フラッシュが発光しない。**
  → 次の場合は発光しません。被写体が明るいとき・ムービー撮影モード・連写（P. 104）・AF連写（P. 104）・オートブラケット撮影（P. 105）・ファンクション撮影の白板・黒板モード（P. 111）・パノラマ撮影（P. 109）
- **オレンジランプが点滅した。**
  → フラッシュは充電中です。シャッターは切れません。いったん、シャッターボタンから指をはなし、ランプが消えてから撮影します。
- **フラッシュ自動発光時のシャッター速度について（オート発光・赤目軽減発光・強制発光）**
  オレンジランプが点灯するとフラッシュは自動発光しますが、シャッター速度はその時点の秒時（最も遅い秒時）に固定され、それより遅くはなりません。また、固定される秒時はズームの位置によって変わります。

ズーム位置	シャッター速度
W端	1/30秒
T端	1/100秒

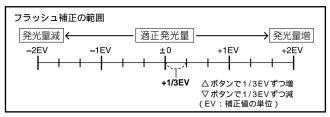
注 意

- マクロ撮影時、特にズームがW（広角）側にあるときは、画面内で光の量がムラになることがあります。撮影後、必ず再生して確認してください。

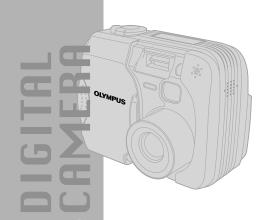
フラッシュ補正

フラッシュの発光量を増減することができます。
撮影する被写体が小さい、被写体の背景が遠いなど、場合によってはフラッシュの発光量を調節した方がよいときがあります。また、明暗差（コントラスト）を意図的につけたいといった場合にも、この機能が便利です。

P A/S/M My

トップメニューから「モードメニュー」→「撮影」→「フラッシュ補正」を選択し、発光量を多くするには、△を押し、減らすには、▽を押します。設定が決まったら、OK を押します。

初期設定： ±0

注 意

- シャッター速度が速い場合は、フラッシュ発光量補正の効果が十分に得られないことがあります。

5

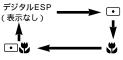
撮影の応用

測光モードや特殊効果で画像に変化をつけるなど、さらに進んだ撮影方法を説明します。

スポット測光〜測光の範囲を選択

被写体の明るさを測る方法には、デジタルESP測光・スポット測光の2種類があります。
デジタルESP測光：測光構図の中央部と周辺部を別々に測光し、演算して最適な露出を求めます。カメラは通常、この設定になっています。
スポット測光：ファインダのAFターゲットマークの範囲を測光し、露出を決定します。逆光などで被写体が暗くなるときに、背景の光などに影響されることなく、被写体を適正露出で撮影できます。マクロ撮影の範囲内でも、スポット測光はできます（スポット測光＋マクロモード）。

P A/S/M My

1 コントロールパネルに（スポット測光）または（スポット測光＋マクロモード）が表示されるまで、/（マクロ／スポット）ボタンを繰り返し押します。

：マクロモード→P. 99

2 撮影します。

撮影可能距離（m）
通常（マクロ撮影以外）　：0.8〜∞
マクロ撮影　：W側→0.1〜0.8、T側→0.25〜0.8

初期設定：デジタルESP

注 意

●強い逆光などで撮影すると、画像の影の部分に色がつく場合があります。

マクロ撮影～近くのものを撮る

通常の撮影では、近接した被写体に（0.1m～0.8m）ピント合わせをするのに時間がかかりますが、🌷（マクロ）モードにすると近接撮影のピント合わせが早くできます。🌷モードでは、ズームをもっとも広角(W)側にして、被写体に10cmの距離まで近づいて、名刺サイズをほぼフレームいっぱいに撮影できます。
被写体をクローズアップするときに、画面中央部（AFターゲットマークの範囲）を測光し、被写体を適正露光で撮影すると、きれいな画像が撮れます（スポット測光＋マクロモード）。→スポット測光（P. 98)
被写体の距離が近いと、ファインダ内の画像と実際に写る範囲にずれが生じます。液晶モニタを使って撮影することをおすすめします。（P. 84)

通常撮影で撮った画像

マクロで撮った画像

P A/S/M My 🎥

1 コントロールパネルに🌷（マクロモード）または⊡🌷（スポット測光＋マクロモード）が表示されるまで、🌷/⊡（マクロ／スポット）ボタンを繰り返し押します。

2 撮影します。

撮影可能距離（m）
通常（マクロ撮影以外）　：0.8～∞
マクロ撮影　：W側→0.1～0.8、T側→0.25～0.8

初期設定：デジタルESP

注 意

- AUTO・👤・🌃・▲・📷・📷モードでは、🌷モードの設定はできませんが、マクロ領域の撮影はできます。

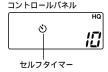
セルフタイマー撮影

セルフタイマーを使って撮影できます。三脚を使って記念写真を撮るときなどに便利です。

[モードアイコン] P A/S/M [My] [ムービー]

1 **カメラを三脚などでしっかり固定します。**

2 **[シーンアイコン]：トップメニューから「セルフタイマー／リモコン」→「セルフタイマー」を選択します。**
P A/S/M [My] [ムービー]：トップメニューから「モードメニュー」→「撮影」→「セルフタイマー／リモコン」→「セルフタイマー」を選択します。

コントロールパネル

セルフタイマー

3 **シャッターボタンを全押しして、セルフタイマー撮影を開始します。**

- セルフタイマー/リモコンランプが約10秒間点灯し、さらに約2秒間点滅した後シャッターが切れます。
- ムービーの場合、上記の約12秒間が経過した後、撮影が開始されます。ムービー撮影を終えるには、再度シャッターボタンを押します。

セルフタイマー／リモコンランプ

初期設定：オフ

● 作動中のセルフタイマーを止めるには、㊙ を押します。セルフタイマー／リモコンランプが消灯します。

注 意

●セルフタイマーモードは、設定クリア（P. 152）がオフになっていても、電源を切ると保持されません。

●セルフタイマーモードは、撮影が終わると自動的に解除されます。

●セルフタイマーを使ってムービー撮影をした場合、連続撮影可能時間まで撮りきると撮影は自動的に終了します。

●静止画撮影モード（ ・ ・ ・ ・ ・**P**・**A/S/M**・ ）のセルフタイマー撮影では、連写に設定されていると自動的に5コマ撮影します。

リモコン撮影

リモコンを使って撮影ができます。記念写真を撮るときなどに便利です。また、夜景撮影などカメラに触れないでシャッターを切りたい場合に、シャッターボタンがわりに使えます。

P A/S/M

1 **カメラを三脚などでしっかり固定させます。**

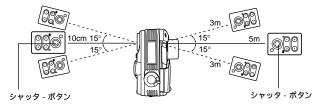
2 **：トップメニューから「セルフタイマー／リモコン」→「リモコン」を選択します。**
P A/S/M ：トップメニューから「モードメニュー」→「撮影」→「セルフタイマー／リモコン」→「リモコン」を選択します。

3 **リモコンをカメラのリモコン受信窓に向け、リモコンのWまたはTボタンを押します。**

- カメラのズーム操作ができます。操作中は、セルフタイマー／リモコンランプが点滅します。

カメラ背面　リモコン受信窓

セルフタイマー／リモコンランプ

リモコン信号の届く範囲

4 リモコンのシャッターボタンを押します。

- カメラのセルフタイマー/リモコンランプが点滅し、約３秒後にシャッターが切れます。

初期設定：オフ

ヒント

- **リモコンのシャッターボタンを押してもセルフタイマー/リモコンランプが点滅しない。**
  → カメラから離れすぎているためリモコン信号が届いていません。カメラに近づいて再度リモコンのシャッターボタンを押してください。
  → リモコン信号が混信しています。リモコンの取扱説明書に従って、チャンネルを変えてください。
- **リモコンモードを解除したい。**
  → リモコンモードは撮影後も自動的には解除されません。P．102の手順２に従って、設定を「オフ」にしてください。

注 意

- リモコン受信窓に強い光があたると、リモコン信号の届く距離が短くなったり、撮影ができなくなることがあります。
- 静止画撮影モード（・・・・・**P**・**A/S/M**・）でできるリモコン撮影で連写をする場合は、リモコンのシャッターボタンを押し続けてください。リモコン信号の受信状態が悪くなると、連写が終了してしまうことがあります。
- リモコンを使っての再生方法については、リモコンの取扱説明書をお読みください。
- カメラ背面のリモコン受信窓では、斜め下側からはリモコン信号を受信しづらくなります。

連写機能

連続撮影（連写）には、連写・AF連写・オートブラケットの3種類があります。連写は、メニューのドライブモードを切り換えることで設定できます。

ドライブモード

単写	：一度のシャッターボタンの全押しで、1コマだけ撮影されます。（通常の撮影モード、1コマ撮影）
連写	：連写・AF連写をする→下記参照
AF連写 AF	：連写・AF連写をする→下記参照
オートブラケット BKT	：オートブラケット撮影→P. 105

連写・AF連写をする

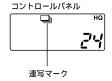
連写　：最初の1コマで、ピント・明るさ（露出）・ホワイトバランスが固定されます。

AF連写 AF　：1コマごとに、ピントが測定され、固定されます。連写速度は遅くなります。

P　A/S/M

1 **トップメニューから「モードメニュー」→「撮影」→「ドライブ」→「」または「AF」を選択します。**

2 **撮影します。**

- シャッターボタンを全押ししている間は連写が続きます。指をはなすと連写が止まります。
- 連写速度(HQモード)：約2コマ／秒、連写可能枚数：最大8枚

注 意

●P. 106の「注意」と「モードによる機能制限」をお読みください。

オートブラケット撮影
〜1コマごとに露出を自動的に変えて連写する

状況によっては、カメラが算出する最適な露出で撮影するより、露出を補正して撮影をするほうが、良い仕上がりになる場合があります。オートブラケット撮影が設定されると、一度のシャッターボタンの全押しで1コマごとに自動的に露出を変えて撮影できます。変化させる露出差は、メニューで選択します。ピントとホワイトバランスは最初の1コマで固定されます。

例：BKT設定が±1.0、X3 の場合

P A/S/M My

1 **トップメニューから「モードメニュー」→「撮影」→「ドライブ」→「BKT」を選択します。▷を押します。**

2 **△▽を押して、コマごとの明るさ（露出）の段階（±0.5、±1.0）を選択し、▷を押します。**

3 **△▽を押して、撮影枚数（x3、x5）を選択し、㊊を押します。**

- 画像サイズと画質（標準／高画質）の組み合わせにより、x3しか選択できない場合があります。

☞ 次ページに続く

連写機能（つづき）

4 撮影します。

- 設定枚数の撮影が終わるまで、シャッターボタンを全押しし続けます。途中でやめるときは、シャッターボタンをはなします。

モードによる機能制限

モード		ドライブ	初期設定
		□、❐	□
P		すべて設定可	□
A/S/M	A	すべて設定可	□
	S		
	M	□、❐、AF❐	□
MY		すべて設定可 （BKTはP・A・Sモードのみ）	□

注 意

- 以下の場合は、連写（❐、AF❐、**BKT**）はできません。
  - ー 画質モードがTIFF（P. 114）やSHQのプリント拡大（P. 117）
  - ー ノイズリダクションの設定がオン（P. 124）
- 連写モード時は（連写・AF連写・オートブラケット）、フラッシュは発光しません。
- オートブラケット撮影では、カードの空きが設定枚数以上ないと、続けて次の撮影をすることはできません。
- 静止画撮影モード（・・・・・**P**・**A/S/M**・MY）のセルフタイマー撮影では、連写に設定されていると自動的に5コマ撮影します。
- ISO感度設定を200以上に設定して撮影すると、条件によっては画像にノイズが写ることがあります。(P. 118)
- 連写中に、電池を消耗して電池残量マークが点滅したら、撮影を中止してカードに記録を始めます。電池の状態によっては、すべての画像を記録できない場合があります。
- シャッター速度はカメラぶれを抑えるため最長1/30秒に設定されています。そのため暗い被写体では露出不足の画像になります。

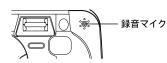
スチル録音

静止画撮影時に、音声を録音することができます。シャッターが切れてから約0.5秒後に音声を記録し始め、約4秒間録音されます。
この設定を「オン」にしておくと、毎回撮影後に録音を自動的に行います。

P A/S/M

1 **トップメニューから「モードメニュー」→「撮影」→「スチル録音」→「オン」を選択します。**

2 **シャッターボタンを押して録音が始まったら、カメラのマイクを録音したい対象へ向けます。**

● 録音中を示す画面が表示されます。

初期設定：オフ

注 意

●対象がカメラから1ｍ以上離れると、きれいに録音されません。
●録音中は、次の撮影はできません。
●以下の場合は、録音はできません。
　ー 画質がTIFFに設定されている。ただし、TIFFで記録された画像にはあとでアフレコができます。(P. 138)
　ー ドライブモードが連写（ 、AF 、**BKT**）に設定されている。
●録音中にボタン操作などを行うと、その音が録音されてしまうことがあります。
●次ページの「ヒント」もお読みください。

ムービー録音

ムービーの撮影と同時に音声を録音することができます。
ムービー録音が「オン」に設定されている時は、撮影中の光学ズームはできません。

1 **トップメニューから「ムービー録音」→「オン」を選択します。**

2 **撮影します。**

初期設定：オフ

ヒント

- **再生時には、音声がスピーカから出力されます。****(P. 137)**
- **静止画再生時に、後から音声を追加（アフレコ）できます****（P.138)****。また、撮影時に録音された音声を録音し直したりすることもできます。**

注 意

- ムービー撮影中は、デジタルズームのみが働きます。ムービー録音をオフにすると、ムービー撮影中は光学とデジタル両方のズームが働きます。(P. 89)
- フルタイムAFがオンになっていると、撮影中、ピント合わせの動作音が録音される場合があります。

パノラマ撮影

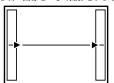
オリンパス標準スマートメディアを使うと、パノラマ撮影が簡単に楽しめます。被写体の端が重なるようにして撮影した何枚かの画像を、CAMEDIA Master（別売）でつなぎ合わせ、一枚のパノラマ合成画像を作成することができます。

1 **トップメニューから「モードメニュー」→「撮影」→「パノラマ」を選択します。**

2 **▷を押します。**
- パノラマ撮影モードになります。

3 **十字ボタンを押して、つなげる方向を上下左右４方向から指定します。**
- つなげる方向が表示されます。

左から右へ画像をつなぐ撮影をする場合

下から上へ画像をつなぐ撮影をする場合

4 **被写体の端が重なるようにして、撮影します。**
- ピント・露出・ホワイトバランスは１枚目で決定されます。一枚目の撮影には、太陽を入れた被写体などを選ばないでください。
- １枚目を撮影した後は、ズーム操作をしないでください。つなぎ合わせができなくなります。
- 最大10枚までのパノラマ撮影が可能です。

前に撮影した画像の右端（左回りのときは左端）は、同じ画像が撮影できるように構図を設定して撮影してください。

☞ 次ページに続く

5 **パノラマ撮影を終わるときは、 Ⓞボタンを押します。**
- 画面内の枠が消えて、通常の撮影モードに戻ります。

注 意

- パノラマ撮影では、フラッシュは発光しません。
- 10枚撮り終えると、警告画面が出ます。それ以上は撮影できません。
- オリンパス製の標準カード以外のカードでは、パノラマモードは使えません。
- パノラマ合成はカメラ本体ではできません。パノラマ合成画像を作成する場合は、CAMEDIA Masterをご使用ください。
- HQ/SHQモードで多量のパノラマ撮影を行うと、パソコンがメモリ不足になることがあります。
- TIFF(非圧縮)でパノラマ撮影をすると、同じ画像サイズのJPEG(圧縮)で記録されます。
- パノラマ撮影中にモードダイヤルを操作すると、パノラマモードは解除され通常の撮影モードに戻ります。

ファンクション撮影～モノクロやセピア色などで撮る

特殊効果をつけて撮影することができます。次の４種類から選択することができます。

モノクロ　：白黒に撮影できます。
セピア　：セピア色に撮影できます。
白板　：白黒写真になり白板に書いた黒字が強調され、読みやすくなります。
黒板　：白黒写真になり黒板に書いた白字が白黒反転して強調され、読みやすくなります。

P A/S/M

トップメニューから「モードメニュー」→「撮影」→「ファンクション撮影」→モードを選択します。

モードによる機能制限

モード	ファンクション撮影	初期設定
P A/S/M	すべて設定可	オフ
	モノクロ、セピア	オフ

●**「白板」「黒板」を選択しても、文字がきれいに撮影されない。**
→露出補正をします。(P. 119)

注 意

- 「白板」「黒板」を選択すると、フラッシュは（発光禁止モード）になります。（P. 92）
- ホワイトバランス・ＷＢ補正・彩度の設定はできません。

6

画像・画質・露出の調整

画質モードを選択する

撮影する画像の画質を設定します。プリント用、パソコンでの加工用、ホームページ用など、用途に合わせて画質モードをお選びください。設定可能なモードや記録サイズ、またカードへの記録可能枚数については次頁の表をご参照ください。数値は目安です。

画質モード	特徴	画質	ファイルサイズ
TIFF	最高画質モードです。非圧縮データとして保存されるので、プリントやパソコンで画像を加工する際に最適です。また、目的に応じて記録サイズを変更できます。	きれい ↑	大きい ↑
SHQ	JPEG形式の高画質モードです。圧縮率が低いため、高画質を維持することができます。また、「プリント拡大」での記録サイズを選択すると、大きいサイズでプリントする際に有利です。		
HQ	標準レベルで圧縮された高画質モードです。SHQより圧縮率が高く、ファイルサイズが小さくなるので、より多くの画像を記録できます。また、SHQと同様に「プリント拡大」で記録サイズを変更することが可能です。		
SQ1 SQ2	SHQやHQより小さい記録サイズを選べるモードです。各記録サイズで「高画質（JPEGノイズを抑制）」または「標準（より多く撮影）」を選択できます。プリント用、ホームページ用など用途に合わせて、選んでください。	↓ 普通	↓ 小さい

静止画画質モード

カードの記録可能枚数は目安です。

画質モード	記録サイズ		圧縮	ファイル形式	カードの記録可能枚数（枚）（音声なし/音声付き）	
					16MB	32MB
TIFF	2272x1704		非圧縮	TIFF	1/–	2/–
	2048x1536				1/–	3/–
	1600x1200				2/–	5/–
	1280x960				4/–	8/–
	1024x768				6/–	13/–
	640x480				16/–	33/–
SHQ	2288x1712		低圧縮	JPEG	5/5	11/11
	プリント拡大（P. 117）	3200x2400			2/2	5/5
		2816x2112			3/3	7/7
		2560x1920			4/4	9/9
HQ	2272x1704		標準		16/15	32/31
	プリント拡大（P. 117）	3200x2400			8/8	16/16
		2816x2112			10/10	21/21
		2560x1920			13/12	26/25
SQ1	2048x1536	高画質	＊		7/7	14/14
		標準			20/19	40/39
	1600x1200	高画質			11/11	23/22
		標準			32/30	64/60
	1280x960	高画質			18/17	36/34
		標準			49/45	99/90
SQ2	1024x768	高画質			27/26	55/52
		標準			76/66	153/132
	640x480	高画質			66/58	132/117
		標準			165/124	331/248

*高画質→低圧縮 / 標準→標準

ムービー画質モード

一度に連続して撮影できる時間（秒）

画質モード	記録サイズ	8MB		16MB以上	
		音声なし	音声付き	音声なし	音声付き
HQ	320x240 (15コマ/秒)	24	23	33	32
SQ	160x120 (15コマ/秒)	105	93	148	130

AUTO

1 **トップメニューから「画質モード」→「SHQ」、「HQ」、「SQ1」または「SQ2」を選択します。**
- 記録サイズは選択できません。SQ1: 1280 x 960／標準、SQ2: 640 x 480／標準

P A/S/M

1 **P A/S/M ：トップメニューから「モードメニュー」→「画像」→「画質モード」の順に選択し、▷ を押します。**
：トップメニューから「画質モード」を選択します。

2 **△▽を押して画質モードを選択し（P. 114の表参照）、▷ を押します。**
：△▽を押してHQかSQかを選択し、手順4へ進みます。

3 **△▽を押して、記録サイズを選択します（P. 115の表参照）。**
- プリント拡大を選択した場合は▷ を押して、記録サイズを選択します。
- 「SQ1」「SQ2」を選択している場合、記録サイズを選択後▷ を押し、さらに△▽で「高画質」「標準」のいずれかを選択します。

4 **を押して選択を確定します。**
- 画質モード設定画面に戻ります。
- 設定された画質モードは、コントロールパネルに表示されます。
- HQかSHQモードで、プリント拡大に設定されているときは、コントロールパネルの表示が点滅します。

コントロールパネル

画質モード

初期設定: HQ

ヒント

● **記録サイズ**
画像を記録する際の大きさ（横の画素数×縦の画素数）です。画像をプリントする時は、大きなサイズで記録しておくときれいにプリントされます。ただし、記録サイズが大きくなるほどファイルサイズ（データの量）も大きくなり、カードに保存できる枚数は少なくなります。

● **記録サイズとパソコンモニタ上での画像の大きさ**
撮影した画像をパソコンで見る際に表示される画像の大きさは、パソコンのモニタ設定によって異なります。例えば、640x480の記録サイズで撮影された画像は、パソコンのモニタ設定が640x480のとき画像を等倍で表示すると、モニタ全体に表示されます。モニタ設定がそれ以上(1024x768など)になると、モニタの一部にしか表示されません。

● **圧縮率**
TIFFモード以外の画質モードでは、画像を圧縮して保存します。圧縮率が高いほど画質は粗くなります。

● **ファイル形式**（**P. 114**）
このカメラでは、TIFF、またはJPEGのどちらかの形式で保存されます。TIFFモード以外はすべてJPEG形式で保存され、圧縮率も異なります。（静止画の音声はWAV形式、ムービーはMOV形式）

注 意

●表中のカードの記録可能枚数はおおよその目安です。
●記録可能枚数は画質モード、カードの容量、またはプリント予約や音声記録の有無によっても変わります。

プリント拡大

プリント拡大（SHQ、HQモードのみで設定可能）を選択すると、総画素数の400万画素を500万画素相当(2560x1920)、600万画素相当(2816x2112)、800万画素相当(3200x2400) へと拡大することができ、A3用紙など大きなサイズでプリントする際に有効です。画素数を増やすほどきれいにプリントすることができますが、ファイルサイズは大きくなります。なお、🎥 モードではプリント拡大の設定はありません。

注 意

●画質モードがSHQのプリント拡大の設定では、連写 ⧉（AF連写 AF⧉）やオートブラケット撮影**BKT**はできません。

ISO感度

ISO感度は数値が大きいほど感度が高く、より暗いところ（光量が少ないところ）での撮影が可能になりますが、感度が高くなるにつれて画像にはノイズが増えます。

トップメニューから「モードメニュー」→「撮影」→「ISO感度」の順に選択し、「オート」、「100」、「200」、「400」の中から目的に合わせて設定します。

オート　：被写体の条件に合わせて自動的に感度が変わります。
100/200/400　：通常100は、日中の撮影に最適でシャープな画像を得ることができます。感度が高くなるにつれて、同じ光量でもより速いシャッター速度が使えます。

モードによる機能制限

モード	ISO感度	初期設定
P	すべて設定可	オート
A/S/M	100/200/400	100
	P: すべて設定可	オート
	A/S/M: 100/200/400	100
	すべて設定可	オート

コントロールパネル

ISO感度

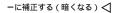
注 意

- 感度を高く設定するほど画像にノイズが増えます。
- 感度は銀塩写真のフィルム感度を基準に設定していますが、数値は目安です。
- ISOがオートに設定されているとき、暗いところでフラッシュを使わずに撮影すると、シャッター速度が遅くなり手ぶれする可能性があるため自動的に感度が上がります。
- ISO感度がオートのとき、被写体が遠くフラッシュ光が届かない場合、自動的に感度が上がります。
- スローシンクロ設定時、P・A・Sモードでは設定されたISO感度により、最長シャッター秒時が変わります。

露出補正

十字ボタンを使って、露出を手動で微調整できます。 撮影する被写体によっては、カメラが自動的に設定した露出を補正したほうがよいときがあります。1/2 段刻みで ± 2.0 の範囲で設定できます。設定を変更すると、液晶モニタで確認できます。

＋に補正する（明るくなる）

－2.0　**0.0（初期設定）**　**＋2.0**

モードによる機能制限

モード		露出補正
各シーンモード・P		設定可
A/S/M	A	設定可
	S	設定可
	M	ー
My		設定可（P・A・S モードのみ）
ムービー		設定可

- **通常、白い被写体（雪など）を撮影すると実際より暗く写ってしまいますが、＋に補正することにより見たままの白を表現することができます。また、黒い被写体を撮影するときは、逆にーに補正すると効果的です。**

ホワイトバランス

被写体は光源によって色が変わります。たとえば、白い紙に晴天時の太陽があたっているとき、夕日があたっているとき、電球のひかりがあたっているときでは、それぞれの白が違います。ホワイトバランスを調整することにより、このような光源による微妙な色の違いを見たままの色に表現することができます。

P A/S/M My 🎥

P A/S/M My ：トップメニューから「モードメニュー」→「画像」→「ホワイトバランス」を選択し、「オート」、「プリセット」、「ワンタッチ」の中から撮影状況に合わせて設定します。
🎥 ：トップメニューから「ホワイトバランス」→「オート」、「プリセット」または「ワンタッチ」を選択します。

オートホワイトバランス

光源によらず、全体の色のバランスを自動的に調整します。

プリセットホワイトバランス

撮影する光源に応じて、次の中からプリセットホワイトバランスを選択できます。
☼ ：晴天
☁ ：曇天
電球 ：電球
蛍光灯 ：蛍光灯
また、実際の光源とは異なるプリセットホワイトバランスを選択し、その設定を液晶モニタで確認すると、様々な色調を楽しめます。

プリセットホワイトバランス画面

ワンタッチホワイトバランス

この機能を使うと、プリセットホワイトバランスでは調整しきれない微妙な色合いを設定することができます。撮影する光源で照らされた白いものに、カメラを向けて設定することで、実際の撮影状況に適切なホワイトバランスをカメラに記憶させることができます。

1 前ページの手順に従い、「ワンタッチ」を選択します。

- 「ワンタッチホワイトバランス」画面が表示されます。

ワンタッチホワイトバランス画面

2 カメラを白い紙に向けます。

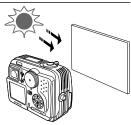
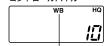
- 紙は画面一杯になるように置き、影の部分ができないようにしてください。

3 Ⓞ を押します。新しいホワイトバランスが設定されます。

- ワンタッチホワイトバランスを中止するときは ◁ を押します。

4 メニュー画面が消えるまで、繰り返し Ⓞ を押します。

初期設定：オート

コントロールパネル

ホワイトバランス
ホワイトバランスが「オート」に設定されているときは、表示されません。

注 意

- 通常はホワイトバランスは「オート」で使用することをおすすめします。
- ワンタッチホワイトバランスでは、紙に反射している光が明るすぎたり暗すぎたりする場合は、適切な設定ができません。
- 特殊な光源下ではホワイトバランスの効果が発揮できない場合があります。
- ホワイトバランスを使って撮影した場合は、必ず撮影画像を再生して色の確認を行なってください。

WB補正

ホワイトバランスを微調整することができます。

P A/S/M My

トップメニューから「モードメニュー」→「画像」→「WB補正」を選択します。▷ を押します。

画面上にWB補正バーが表示されます。現在のホワイトバランスの値に対し、△ を押す度に青みがかかり、▽ を押すたびに赤みがかかった画像になります。調整値を決定するには Ⓞ を押します。

ホワイトバランスはプラス方向、マイナス方向それぞれ7段階の調節が可能です。

WB補正画面

WB補正

BLUE

RED

中止◆◁　調整◆△▽　決定◆OK

WB補正バー

初期設定： ±0

シャープネス

画像の鮮鋭度を調節します。

P A/S/M My

トップメニューから「モードメニュー」→「画像」→「シャープネス」を選択します。▷ を押します。

△▽を使って、プラス方向、マイナス方向それぞれ5段階の調節が可能です。

画像の輪郭がよりシャープになり画像が鮮やかになります。プリントなどの鑑賞用に適しています。

0　初期設定

画像の輪郭がソフトになります。パソコンで画像処理するときなどに適しています。

−5

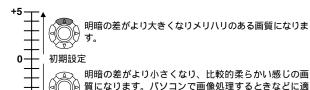
注 意

- プラス方向に調整しすぎると、画像にノイズが目立つ場合があります。

コントラスト

画像のコントラスト（明暗の差）を調節します。明暗差の小さい画像にメリハリを出したり、明暗差の大きい画像を柔らかい仕上がりにすることができます。

P A/S/M My

トップメニューから「モードメニュー」→「画像」→「コントラスト」を選択します。▷ を押します。

△▽を使って、プラス方向、マイナス方向それぞれ5段階の調節が可能です。

彩度

画像の色の濃さを調節します。

P A/S/M My

トップメニューから「モードメニュー」→「画像」→「彩度」を選択します。▷ を押します。

△▽を使って、プラス方向、マイナス方向それぞれ5段階の調節が可能です。

ノイズリダクション

長時間露光時に画像に発生するノイズを軽減します。夜景の撮影など、遅いシャッター速度で撮影する際、画像にはノイズが目立つようになります。この機能を「オン」に設定すると、カメラが自動的にノイズを軽減でき、きれいな画像を得ることができます。ただし、撮影時間は通常の約2倍になります。
シャッター速度の設定が、1秒より遅いときに動作します。

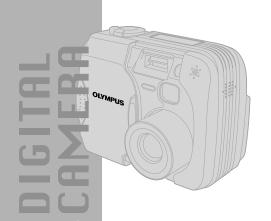
A/S/M My

トップメニューから「モードメニュー」→「撮影」→「ノイズリダクション」→「オン」を選択します。

モードによる機能制限

モード		ノイズリダクション	初期設定
		常にオンに固定	オン
A/S/M	A	ー	ー
	S		
	M	設定可	オフ
My		設定可（M モードのみ）	オフ

注 意

- ノイズリダクションを「オン」に設定すると、撮影後にカメラがノイズを取り除く動作をするため、撮影時間が通常の約２倍になります。その間、次の撮影はできません。
- ノイズリダクションの設定がオンのときは、連写（AF連写）やオートブラケット撮影はできません。
- 撮影条件や被写体により、効果が出にくい場合があります。
- シャッター速度が遅いので、三脚の使用をおすすめします。

7

再生

ここでは、撮影した静止画やムービーの再生方法と再生時に使える機能を説明しています。

静止画の再生

1コマ再生

撮影した画像（1コマ）を再生 します。

1 **レンズバリアを閉じた状態で、（液晶モニタ）ボタンを押します。**

- 液晶モニタが点灯し、撮影した画像が液晶モニタに表示されます。

2 **他の画像を再生するには、十字ボタンを使います。**

- ムービーにはマークがついています。→「ムービーの再生」参照（P. 128）

簡単再生

撮影モードのままで再生できます。撮影した画像をすぐに見たいときに便利です。また、簡単再生で表示された画像は、再生モードで表示された画像と同じように扱えます。

AUTO P A/S/M

1 **撮影モードのままで、（液晶モニタボタン）を素早く2回続けて押します。**

- 液晶モニタが点灯し、撮影した画像が液晶モニタに表示されます。
- 1コマ再生と同様に、十字ボタンを使って他の画像を再生できます。

2 **撮影に戻るには、シャッターボタンを半押しします。**

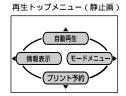
ヒント

- **画像といっしょに音声が録音されている場合は、スピーカから音声が出力されます（P. 137）。**

自動再生

スライドをみるときのように、カードに記録されている静止画像を１枚ずつ自動的に再生させることができます
ムービーコマは、最初のフレームのみが静止画と同じように再生されます。

1 **レンズバリアを閉じた状態で、（液晶モニタ）ボタンを押して、静止画を表示させます。を押してトップメニューを表示させます。**

再生トップメニュー（静止画）

2 **△を押すと、自動再生が始まります。**

3 **を押すと、終了します。**

注 意

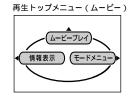
- 画像に音声がついている場合は、音声の再生が終了してから次の画像を表示します。
- 長時間に渡って自動再生を行う場合には、ACアダプタ（別売）のご使用をおすすめします。電池をお使いの場合、30分経過すると自動的に自動再生が終了し、スリープモード（待機状態）に入ります。
- 自動再生は、を押すまで繰り返されます。

ムービーの再生〜ムービープレイ

撮影したムービーを再生したり、編集したりすることができます。

1 **レンズバリアを閉じた状態で、 (液晶モニタ)ボタンを押します。十字ボタンを使って のついた画像を選択します。**

2 **を押してトップメニューを表示させます。**

再生トップメニュー(ムービー)

3 **△を押すと、カードアクセスランプが点滅して、カード内のムービーのデータがカメラへ送られます(ダウンロード)。**

- 「ムービープレイ」画面が表示されます。

ムービープレイ画面

ムービー再生:
ムービーを再生します→P. 129
インデックス作成:
ムービーを9分割して一つの画面に表示します→P. 130
ムービー編集:
ムービーを編集します→P. 132

4 **目的に合わせて「ムービープレイ」画面で項目を選択し、 を押します。**

- これ以降の手順は、手順3に示した項目別のページをお読みください。

注 意

- ムービーを再生するためのダウンロードにかかる時間は、ムービーの録画時間や画質モードによって異なります。

ムービー再生

ムービーを再生します。

1 **128ページの手順1～3を行います。**

2 **「ムービープレイ」画面から、△▽を押して「ムービー再生」を選択します。**

3 **Ⓞを押すと、再生が始まります。**

- 最後まで再生が終わると、ムービーの先頭に戻ります。

4 **Ⓞを押します。**

- 「ムービー再生」画面が表示されます。

ムービー再生画面

再生：再度、ムービーを再生します。
コマ送り：コマ送りをします。
中止： ムービー再生を中止します。
他のコマ（ムービー）を再生したいときは、ムービー再生モードから抜けてください。

5 **△▽を押して、項目を選択します。**

6 **Ⓞを押して選択した項目を実行します。**

- 「コマ送り」を選択したときは下記の操作を行います。
- 「中止」を選択したときは、「ムービープレイ」画面が表示されます。「ムービープレイ」画面から抜けるには、◁を押します。

■ コマ送りの方法

△ ：ムービーの最初を表示します。
▽ ：ムービーの最後を表示します。
▷ ：押すたびにコマが進みます（コマ送り）。押し続けるあいだ再生します。
◁ ：押すたびにコマが戻ります。押し続けるあいだ逆再生します。
Ⓞ ：「ムービー再生」画面を表示します。

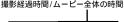
インデックス作成

撮影したムービーの内容が一目でわかるように、ムービーを9分割して一つの画面に表示（インデックス作成）することができます。
インデックス作成された画像は、ムービー撮影時とは異なった画質モードで静止画として保存されますのでご注意ください。（保存時の画質モードについては以下の表を参照）

ムービー撮影時の画質モード	インデックス画像の画質モード
HQ	SQ （1024 x 768／高画質）
SQ	SQ （640 x 480／高画質）

1 **128ページの手順1～3を行います。**

2 **「ムービープレイ」画面から、△▽を押して「インデックス作成」を選択し、㊊を押します。**

- 「先頭コマの選択」画面が表示されます。
- ダウンロード中は、カードアクセスランプが点滅します。
- カードの残量が少ないときは警告画面（P, 199）が表示されます。

先頭コマの選択画面

3 **◁▷を押しながら、選択枠内に先頭コマにしたいショットがくるまで再生し、確定したら㊊を押します。**

- ㊊を押して先頭コマを確定すると、選択枠は撮影した動画の最終コマに移動します。

■ 十字ボタンの働き

△： ムービーの先頭コマへジャンプします。
▽： ムービーの後尾コマへジャンプします。
▷： コマが進みます。押し続けているあいだ、再生します。
◁： コマが戻ります。押し続けているあいだ、逆再生します。

4 手順3にならって、インデックス画像の後尾コマを選択します。

後尾コマの選択画面

5 後尾コマが確定したら Ⓞ を押します。

- 「インデックス作成」画面が表示されます。

決定　：作成したインデックス画像がカードに記録されて、メニュー画面から抜けます。
再設定：再度インデックス作成を行うときに選択します。画面は、「先頭コマの選択」画面に戻ります。
中止　：インデックス作成を中止します。画面は「ムービープレイ」画面に戻ります。

インデックス作成画面

6 △▽を押して項目を選択します。

7 Ⓞ を押して選択した項目を実行します。

- 「中止」を選択したときは、「ムービープレイ」画面が表示されます。「ムービープレイ」画面から抜けるには、◁を押します。

注 意

- 書き込み禁止（プロテクト）がかかっていたり、カード残量がない場合の警告画面が表示されるカードをお使いのときは、インデックス作成はできません。

7
再生編

ムービー編集

撮影したムービーから不要な部分をカットして、編集することができます。

1 **128ページの手順1～3を行います。**

2 **「ムービープレイ」画面から、△▽を押して「ムービー編集」を選択し、ⓞを押します。**

- 「先頭コマの選択」画面が表示されます。
- ダウンロード中は、カードアクセスランプが点滅します。
- カードの残量が少ないときは警告画面（P. 199）が表示されます。

先頭コマの選択画面

3 **◁▷を押しながらムービーを再生し、先頭コマにしたいショットになったら、ⓞを押します。**

- ⓞを押して先頭コマを確定すると、画面は撮影したムービーの最後に移動します。

■ **十字ボタンの働き**

△： ムービーの先頭コマへジャンプします。
▽： ムービーの後尾コマへジャンプします。
▷： コマが進みます。押し続けているあいだ再生します。
◁： コマが戻ります。押し続けているあいだ逆再生します。

4 **手順3にならって、後尾コマを選択します。**

後尾コマの選択画面

5 後尾コマが確定したら ㊊ を押します。

●「ムービー編集」画面が表示されます。

決定　：「新規作成」または「上書き保存」を選択します。

＊「新規作成」は編集した画像を、別の名前で新しい画像として保存します。

＊「上書き保存」は編集した画像を、元の名前で保存します。元の画像は失われます。

再設定：再度ムービー編集を行うときに選択します。画面は「先頭コマの選択」画面に戻ります。

中止　：ムービー編集を中止します。画面は「ムービープレイ」画面に戻ります。

ムービー編集画面

6 △▽を押して項目を選択します。

7 ㊊ を押して選択した項目を実行します。

●「中止」を選択したときは、「ムービープレイ」画面が表示されます。「ムービープレイ」画面から抜けるには、◁を押します。

●「決定」を選択したときは、△▽を押して「新規作成」か「上書き保存」かを選択し、㊊ を押します。画像が作成されます。

注 意

●書き込み禁止（プロテクト）がかかっていたり、カード残量がない場合の警告画面が表示されるカードをお使いのときは、ムービー編集はできません。

●カード残量が不足している場合は「新規作成」はできません。

情報表示

再生時に液晶モニタに表示される撮影情報の量を、「オン」、「オフ」で切り替えることができます。「オフ」設定では、最小限の情報のみを表示します。実際に表示される内容についてはP. 25、26をご覧ください。

1 **Ⓞを押してトップメニューを表示させます。**

再生トップメニュー（静止画）

2 **◁を押すと「情報表示」が「オン」になり、画面に撮影情報が表示されます。**

- 再度Ⓞを押してトップメニューを表示させ◁を押すと、「オフ」に切り替わります。

オフのとき

オンのとき

重要！

DPOFを使用せずにプリントサービスを利用される方へ

写真店などのプリントサービスをご利用になる場合は、プリントする画像は必ずファイル番号で指定してください。コマ番号で指定すると間違った画像がプリントされる場合があります。
ファイル番号は情報表示をオンにしたときに表示されます。（P. 25）

クローズアップ再生

液晶モニタに表示される画像を拡大することができます。ズームレバーをT側に回すごとに、画像が1.5倍、2倍、2.5倍、3倍、3.5倍、4倍に拡大されます。

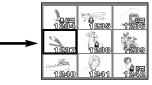
1 **十字ボタンで拡大したい画像を選択します。**
- 🎥 のついた画像は、拡大できません。

2 **ズームレバーをT側（🔍）にまわします。**
- 拡大すると、画面に◀／▶／▲／▼が表示されます。表示したい方向の矢印と同じ十字ボタンを押すと、画像をずらして表示することができます。

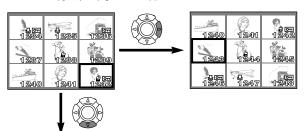
- **元の大きさに戻したい。**
  → ズームレバーをW側にまわします。
- **別の画像を表示したい。**
  → ズームレバーをW側にまわして、現在表示されている画像を1倍に戻してから、十字ボタンを使って拡大したい画像を選びます。

インデックス再生

液晶モニタに複数の画像を一度に表示することができます。カードに記録されている画像の中から、見たい画像を素早く探したいときに便利です。また、表示される枚数を、4、9、16 枚（分割）から選ぶこともできます。（次ページ参照）

1 コマ再生(P. 126)をしている状態で、ズームレバーをW側（▦）にまわします。

インデックス再生（9分割）

1 コマ再生で表示していた画像を含んで、複数の画像がインデックス再生されます。

■ インデックス再生中の十字ボタンの働き

◁ ： 1つ前のコマへ移動
▷ ： 1つ次のコマへ移動
△ ： 左上の画像の1つ前の画像までのインデックスを表示
▽ ：右下の画像の次の画像からのインデックスを表示

ヒント

● **インデックス再生で画像を選んで、1 コマ再生をしたい。**
→ 十字ボタンで画像を選択して、ズームレバーをT側にまわします。

インデックス表示

インデックス再生時に表示される分割数を変更できます。

1 **トップメニューから、「モードメニュー」→「設定」→「インデックス表示」を選択します。**

2 **「4」、「9」、「16」のいずれかを選択し、㊙を押します。**

4分割に設定した場合

再生音量調整

再生時にスピーカから出力する音声の音量を調整します。PW ON設定・PW OFF設定で選択される音声の音量も調整できます。

1 **トップメニューから、「モードメニュー」→「設定」→「再生音量」を選択します。▷を押します。**

● 音量レベルが表示されます。

2

スピーカ

設定クリア
再生音量
ビープ音
PW ON 設定
PW OFF 設定

ここに設定すると、音声は再生されません。

音量が大きくなります。
音量が小さくなります。

3 **設定が決まったら、㊙を押します。**

録音

撮影済みの画像に音声メモを追加（アフレコ）することができます。また、録音済みの音声を新しく書き換えることもできます。録音できる時間は１画像につき約４秒間です。

1 **十字ボタンを使って、音声をつけたい静止画像を選択します。**
- 🎥 のついた画像には、録音できません。

2 **トップメニューから「モードメニュー」→「再生」→「録音」を選択します。**

3 **▷ ボタンを押すと「スタート」が表示されます。**

4 **カメラのマイクを録音したい対象へ向け、Ⓞ を押すと録音が開始されます。**
- 録音中を示すバーが表示されます。

注 意

- 録音の対象がカメラから１ｍ以上離れると、きれいに録音されません。
- 録音済みの画像に再度録音した場合は、前の音声が消えて新しい音声のみ残ります。
- 書き込み禁止（プロテクト）がかかっていたり、カード残量がない場合の警告画面が表示されるカードをお使いのときは、録音できません。
- カードの残り容量が少ない場合は、録音できないことがあります。
- 録音中にボタン操作をすると操作音が入ることがあります。
- 一度音声を記録したら、音声のみを消すことはできません。音声を入れずに、無音を再録音してください。

プロテクト機能

画像を誤って消さないようにするために、その画像にプロテクト（消去禁止）をかけることができます。

1 **十字ボタンでプロテクトをかけたい画像を表示します。**

2 **O‑π ボタンを押すと、その画像にプロテクトがかかります。**
- プロテクトを解除するには、再度 O‑π ボタンを押します。

画像にプロテクトがかかると表示されます。

注 意

- プロテクトされた画像は、全コマ消去しても消されることはありませんが、フォーマットするとすべて消去されます。
- ライトプロテクトシールの貼ってあるカードには、プロテクト操作はできません。
- テレビに接続して再生している時は、プロテクトはかけられません。

画像の消去

撮影した画像を消去することができます。
再生している1コマのみを消去する1コマ消去と、カード内の画像全てを消去する全コマ消去があります。

注 意

- プロテクトがかかっている画像や、カードにプロテクトシールが貼られているときは消去できません。
- 一度消した画像は、復旧することはできません。

1コマ消去

ボタンを押して、1コマ再生しているコマを消去します。他の画像も消去したいときには、1コマ消去を繰り返します。

1 **十字ボタンで消去したい画像を選択します。**

- 画像にプロテクト(P. 139)がかかっている場合は、解除してください。

2 **ボタンを押します。**

- 「1コマ消去」画面が表示されます。

1コマ消去画面

3 **△を押して、「消去」を選択します。**

4 **を押して、消去を実行します。**

- 消去を中止するには、手順3で「中止」を選択し、を押すか、再度ボタンを押します。

全コマ消去

カードに記録されている静止画、ムービーを全て消去します。ただし、プロテクト（P. 139）されている画像は消去できません。

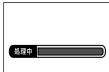
1 **トップメニューから「モードメニュー」→「カード」→「カードセットアップ」→「全コマ消去」を選択します。**

2 **Ⓞを押します。**
- 「全コマ消去」画面が表示されます。

全コマ消去画面

3 **△を押して、「消去」を選択します。**

4 **Ⓞを押して、全コマ消去を実行します。**
- 画面に処理中を示すバーが表示されます。
- 全コマ消去を中止するには、手順3で「中止」を選択し、Ⓞを押します。

処理中画面

カードのフォーマット

カードをフォーマットします。フォーマットとは、カードを使用機器で書き込みできるように初期化することです。オリンパス標準カードの使用をおすすめしますが、パソコンなど他の機器でフォーマットされたカードや、当社カード以外の市販カードをお使いになる場合は、お使いになる前にあらかじめこのカメラでフォーマットしてください。なお、カードのフォーマットは撮影モードでも可能です。

AUTO P A/S/M

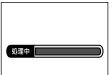
1 AUTO：トップメニューから「カードセットアップ」→「フォーマット」を選択します。
AUTO 以外のモード：トップメニューから「モードメニュー」→「カード」→「カードセットアップ」→「フォーマット」を選択します。

2 OK を押します。
- 「フォーマット」画面が表示されます。

フォーマット画面

3 △を押して、「フォーマット」を選択します。

4 OK を押して、初期化を実行します。
- 画面に処理中を示すバーが表示されます。
- フォーマットを中止するには、手順3で「中止」を選択し、OK を押します。

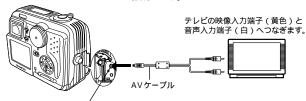
処理中画面

注 意

- 初期化すると、プロテクトをかけた画像を含む既存のデータは消滅します。使用済みカードをフォーマットするときは、大切なデータを消さないようにご注意ください。
- オリンパス製以外のカード、およびパソコンでフォーマットあるいは使用したカードは、書き込み時間が長くなることがあります。このようなときは、このカメラで再度フォーマットすることをおすすめします。
- カードにライトプロテクトシールが貼られている場合は、フォーマットできません。

テレビ再生

AVケーブル（付属）を使って撮影した画像や音声をテレビで再生することができます。

1 **カメラとテレビの電源が切れていることを確認します。**

2 **AVケーブルでカメラとテレビを接続します。**

3 **（液晶モニタ）ボタンを押して、カメラの電源を入れます。テレビの電源も入れます。テレビ側で映像入力を選択します。**
- 映像入力を選択する際は、お使いのテレビの取扱説明書をご参照ください。

4 **十字ボタンで表示したい画像を選択します。**
- テレビに選択した画像が表示されます。

- **テレビで再生する場合はACアダプタ（別売）のご使用をおすすめします。**
- **テレビで再生しているときのみ、画像を回転させて再生することができます。詳しくは次頁をご参照ください。**

注 意

- テレビに接続した場合はカメラのモニタ表示が自動的に切れます。
- お使いのテレビによっては画像の表示位置が中央からずれる場合があります。
- テレビには画像全体を表示するため、少し小さめに表示されます。それにより、画像の外側に黒枠が表示されます。テレビからビデオプリンタに画像を出力すると、黒枠がプリントされることがあります。

回転再生

テレビで再生する場合のみ、画像を回転して表示することができます。
カメラを縦に構えて撮影した場合の画像は、横向きに表示されます。このような場合は回転再生を使って画像を縦向きにすることができます。時計方向に90度、反時計方向に90度の回転が可能です。

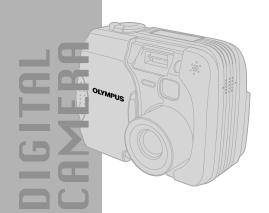
1 **1コマ再生(P. 126)をして、縦位置で撮影したときの画像を表示します。**

2 **O┳ボタンを押すたびに、画像は右図のように回転します。**

HQ
'01.12.23. 21:56
24
通常の再生状態から反時計方向へ回転

HQ
'01.12.23. 21:56
24
通常の再生状態から時計方向へ回転

注意

- 再生する画像がムービーの場合は回転できません。
- 電源を切っても、画像が回転された状態は記憶されます。
- 画像が回転した状態から拡大再生ができます。ただし、拡大再生中は画像は回転しません。(P. 135)
- 次の画像は回転再生はできません：プロテクトのかかった画像・プロテクトシールを貼ったカードに保存されている画像・他のカメラで撮影した画像

8

カメラの便利機能

この章では、このカメラでできるいろいろな便利機能について説明します。3章の「メニューのしくみ」と合わせてご覧ください。

マイモード設定

「マイモード設定」で、機能を自由に設定して登録しておくことができます。モードダイヤルを My にすると、その設定で動作します。また、PまたはA/S/Mモードで使用中に、各種の設定をそのまま「マイモード設定」に登録することもできます。なお、この「マイモード設定」が適応される項目については、P.148の表をご参照ください。

P **A/S/M** **My**

1 **トップメニューから「モードメニュー」→「設定」→「マイモード設定」を選択します。▷ を押します。**

2 **△▽を押して設定したい機能（以下参照）を選択し、▷ を押します。**

現設定　：今、使用している設定をそのまま登録できます。手順3へ。
クリア　：現在、登録されている設定を初期設定に戻します。手順3へ。
カスタム：ひとつずつ機能を設定します。手順4へ。

3 **「現設定」と「クリア」をそれぞれの「マイモード登録」画面で設定します。設定を終えたら、OK を押します。手順7へ。**

● 設定をやめたい場合は、「中止」を選択します。

「現設定」を選択した場合
「登録」を選択します。

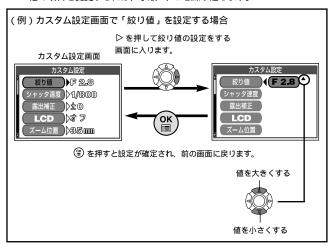
マイモード登録
現在のカメラ設定を登録します
登　録
中　止
選択
実行 OK

「クリア」を選択した場合
「クリア」を選択します。

OK

4 「カスタム」を「カスタム設定」画面で設定します。△▽を押して設定したい機能を選択し、▷ を押します。

5 △▽を押して設定を変更し、㊙ を押して設定を保存します。

- 他の項目を変更するには、手順4、5を繰り返します。

6 すべての設定が完了したら ㊙ を押し、「カスタム設定」画面から抜けます。このとき設定の登録が完了します。

- 手順2の画面が表示されます。

7 ㊙ を押してメニューから抜けます。

注 意

- 「現設定」で設定を登録したときに、ズームの位置はずれる場合があります。ズームの位置は、「カスタム設定」内の「ズーム位置」の4つの設定値のうち、現在使用しているズームの設定値に近い値になります。
- P/A/S/M モードの設定に関わらず、MY モードでは液晶モニタが点灯します。

8
カメラの便利機能

マイモード設定（つづき）

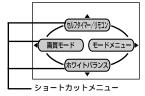
「マイモード設定」が適応される項目とその初期設定

設定項目	初期設定
絞り値(P. 72)	F2.8
シャッタ速度(P. 73)	1/750
露出補正(P. 119)	±0
ズーム位置*	35mm
フラッシュ(P. 94)	オート
スポット／マクロ(P. 98)	オフ
AF/MF(P. 80)	AF
セルフタイマー／リモコン(P. 100、102)	オフ
ドライブ(P. 104)	単写
ISO感度(P. 118)	オート
P/A/S/Mモード(P. 72～75)	P
フラッシュ補正(P. 96)	±0

設定項目	初期設定
スローシンクロ(P. 93)	先幕効果
ノイズリダクション(P. 124)	オフ
デジタルズーム(P. 89)	オフ
フルタイムAF(P. 79)	オフ
スチル録音(P. 107)	オフ
ファンクション撮影(P. 111)	オフ
スチル画質(P. 115)	HQ
ホワイトバランス(P. 120)	オート
WB補正(P. 122)	±0
シャープネス(P. 122)	±0
コントラスト(P. 123)	±0
彩度(P. 123)	±0

* MY モードでのズーム位置の設定は、35mm/50mm/70mm/98mmの中から選択できます。（表示されるズーム位置は35mmカメラの換算値です）

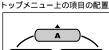
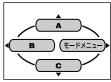
ショートカット設定

トップメニュー上の「モードメニュー」以外の３項目（ショートカットメニュー）を、以下の表の中から任意に選び、登録することができます。使用頻度の高い機能をトップメニューに登録しておけば、途中の操作なしにその機能の設定画面までジャンプできるので便利です。

登録できるメニュー機能

機能	設定内容
セルフタイマー／リモコン(P. 100、102)	オフ・セルフタイマー・リモコン
ドライブ(P. 104)	▭（単写）・⧉（連写）・AF⧉（AF連写）ＢＫＴ
ISO感度(P.118)	オート・100・200・400
P/A/S/Mモード (P. 72〜75)	Ｐ・Ａ・Ｓ・Ｍ
フラッシュ補正(P. 96)	＋2〜±0〜ー2
スローシンクロ(P. 93)	先幕効果・赤目先幕効果・後幕効果
ノイズリダクション(P. 124)	オフ・オン
デジタルズーム(P. 89)	オフ・オン
フルタイムAF(P. 79)	オフ・オン
スチル録音(P. 107)	オフ・オン
パノラマ(P. 109)	ー
ファンクション撮影(P. 111)	オフ・モノクロ・セピア・白板・黒板
画質モード(P. 114)	TIFF・SHQ・HQ・SQ1・SQ2
ホワイトバランス(P. 120)	オート・プリセット・ワンタッチ
WB補正(P. 122)	BLUE〜±0〜RED
シャープネス(P. 122)	＋5〜±0〜ー5
コントラスト(P. 123)	＋5〜±0〜ー5
彩度(P. 123)	＋5〜±0〜ー5

ショートカットメニューを登録する

トップメニューの「A」「B」「C」の位置に当てはまる項目をそれぞれ設定します。

トップメニュー上の項目の配置

P A/S/M My

1 **トップメニューから「モードメニュー」→「設定」→「ショートカット設定」の順に選択します。▷ を押します。**

- 「ショートカット設定」画面が表示されます。
- 画面に表示される「A」「B」「C」の位置は、順にトップメニューの上、左、下に当てはまる項目です。

ショートカット設定画面

2 **「A」を選択して ▷ を押すと、前ページの登録できるメニュー機能項目が表示されます。**

3 **△▽で設定する機能を選択し、Ⓞ を押して確定します。**

- 「B」と「C」も同じ手順で設定します。

ショートカットメニューを使う

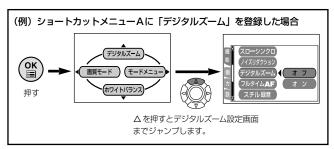
P A/S/M My

1 ⓞ を押して、トップメニューを表示させます。

- 登録したショートカットメニューがトップメニュー上に表示されます。

2 各メニューのそばに表示される▲◀▼に従って、十字ボタンを押します。

- 設定した機能の設定画面までジャンプします。

（例）ショートカットメニューAに「デジタルズーム」を登録した場合

初期設定： A: セルフタイマー/リモコン
B: 画質モード
C: ホワイトバランス

注 意

●PとA/S/Mのモードで独立に設定することはできません。

8 カメラの便利機能

設定クリア

各機能の初期設定を変更した後も、その設定を保持するかどうかを選択できます。なお、この「設定クリア」が適応される項目については、P．153の表をご参照ください。

オフ： 電源を切る直前の設定が保存されます。
オン：電源を切ると、設定が解除されて初期設定に戻ります。

設定クリアの「オン」・「オフ」の設定は、すべてのモードに共通です。いずれかのモードで設定クリアを「オフ」に設定すると、その設定は再生モードやモードを含め、すべてのモードで働きます。AUTO モードでは、設定クリアの「オン」・「オフ」の設定はできません。設定クリアが可能な他のモードでの設定で、働きます。
設定クリアが「オフ」にしていても、動作しているモードで設定できない機能（AUTO モードでのフラッシュモードやドライブ設定など）は、この「オフ」の設定は適応されません。
設定クリアはメニューの「設定」の項目には適応されません。

トップメニューから「モードメニュー」→「設定」→「設定クリア」→「オフ」または「オン」を選択します。

初期設定：オン

設定クリアが適応される項目

設定項目	初期設定
絞り値(P. 72)	F2.8
シャッタ速度(P. 73)	1/800
露出補正(P. 119)	±0
LCD*	オフ
ズーム位置	35mm
フラッシュ(P. 94)	オート
スポット／マクロ(P. 98)	オフ
AF/MF(P. 80)	AF
セルフタイマー／リモコン(P. 100、102)	オフ
ドライブ(P. 104)	単写
ISO感度(P. 118)	オート
P/A/S/Mモード(P. 72～75)	P
フラッシュ補正(P. 96)	±0

設定項目	初期設定
スローシンクロ(P. 93)	先幕効果
ノイズリダクション(P. 124)	オフ
デジタルズーム(P. 89)	オフ
フルタイムAF(P. 79)	オフ
スチル録音(P. 107)	オフ
ファンクション撮影(P. 111)	オフ
スチル画質(P. 115)	HQ
ホワイトバランス(P. 120)	オート
WB補正(P. 122)	±0
シャープネス(P. 122)	±0
コントラスト(P. 123)	±0
彩度(P. 123)	±0

* 電源を入れたときの液晶モニタのオン／オフを設定します。カメラの状態によっては、オン（表示／点灯）にならない場合があります。▭（液晶モニタ）ボタンを押して、液晶モニタを点灯してください。

ビープ音

カメラのボタン操作音や警告音などの音量を、「オフ」、「小」、「大」の中から選択できます。ご購入時は「小」に設定されていますが、音を消したいときは「オフ」に設定してください。

トップメニューから「モードメニュー」→「設定」→「ビープ音」→「オフ」、「小」または「大」を選択します。

初期設定：小

注 意

- AUTO モードでは、他のモードで設定した状態で働きます。

シャッター音

撮影時のシャッター音の種類と音量を選択します。シャッター音の種類が選択されていないと、音量は設定できません。

1 **トップメニューから「モードメニュー」→「設定」→「シャッター音」を選択します。▷を押します。**

●「シャッター音」画面が表示されます。

2 **△▽を押して、「オフ」、「1」、「2」（シャッター音の種類）のいずれかを選択します。**
「1」か「2」を選択した場合は、手順3へ。「オフ」を選択した場合は、手順4へ。

3 **▷を押します。△▽を押して、「小」か「大」（音量）を選択します。**

4 **Ⓞを押します。**

初期設定： 1/小

注 意

● AUTO モードでは、他のモードで設定した状態で働きます。

PW ON/OFF設定

電源を入れたときや切ったときに、表示される画面や流れる音声の設定ができます。自分で画像を登録することもできます（P. 157）。自分で登録した画像を設定するには、「画面」で「2」を選択します。音量は、再生音量（P. 137）で選択した設定になります。

PW ON設定：電源を入れたときの画面と音声を設定。
PW OFF設定：電源を切ったときの画面と音声を設定。

P A/S/M

1 トップメニューから「モードメニュー」→「設定」→「PW ON設定」（「PW OFF設定」）を選択します。▷を押します。
●「PW ON設定」（「PW OFF設定」）画面が表示されます。

2 △▽を押して、「画面」か「音」を選択します。▷を押します。

3 △▽を押して、「オフ」、「1」、「2」のいずれかを選択します。Ⓞを押します。

「PW ON設定」画面

画面

オフ：画像の表示をしません。
1　：初期設定
2　：自分で登録した画像が選択できます。登録せずに「2」を選択すると、液晶モニタはブルーバック画面になります。画像が登録されると、ブルーバック画面に戻すことはできません。

音

オフ：起動音／終了音は出力されません。
1　：初期設定
2　：別の音の種類

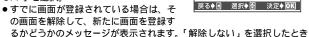
注 意

● AUTO モードでは、他のモードで設定した状態で働きます。
●電源を切る際、電池残量警告が出ているときはシャットダウン画面を表示しない場合があります。

画面登録

電源を入れたときや切ったときに表示される画面を自分で登録できます。登録した画面を実際に使うには、PW ON/OFF設定（P. 156）をお読みください。

1 画像を再生しておきます。
トップメニューから「モードメニュー」→「設定」→「画面登録」を選択します。▷を押します。
●「画面登録」画面が表示されます。

2 △▽を押して以下の項目を選択し、Ⓞを押します。
電源を入れたときの画面を登録→「PW ON」を選択。
電源を切ったときの画面を登録→「PW OFF」を選択。

● すでに画面が登録されている場合は、その画面を解除して、新たに画面を登録するかどうかのメッセージが表示されます。「解除しない」を選択したときは、PW ONかPW OFFを選択する画面に戻ります。

3 1コマ再生（P. 126）かインデックス再生（P. 136）をして、登録したい画像を選択します。Ⓞを押します。
● 画像の登録を実行するかどうかを確認する「画面登録」画面が表示されます。

4 △▽を押して「決定」を選択し、Ⓞを押します。
● 画面が登録されます。登録が終わると、PW ONかPW OFFを選択する手順2の画面に戻ります。

5「画面登録」画面から抜けるには、◁を押します。

注 意

●このカメラで正しく再生できない画像、およびムービーコマは登録することはできません。

レックビュー

カードに記録中の画像を液晶モニタに表示するかどうかを「オン」、「オフ」で選択することができます。

■ オン
撮影した画像をカードに記録中、液晶モニタに表示します。撮影した画像の簡単なチェックに便利です。また画像を表示中でも、シャッターボタンを半押しすればすぐに次の撮影に入れます。

■ オフ
カードに記録中の画像は表示しません。液晶モニタを点灯して撮影しているときは、カメラを向けている被写体を液晶モニタに表示し続けます。次の撮影のために被写体を追っているときなどに便利です。

P A/S/M My

トップメニューから「モードメニュー」→「設定」→「レックビュー」の順に選択し、「オン」か「オフ」かを選びます。

初期設定：オン

注 意

- レックビューをオンに設定して、液晶モニタを消して撮影しているときに、電池残量が少ない場合はレックビュー表示をしないことがあります。
- AUTO モードでは、レックビューは常にオンの状態で働きます。

スリープ時間

カメラを何も操作しないで、設定した時間が過ぎるとカメラは電源節約状態（スリープ）になります。

P A/S/M My

トップメニューから「モードメニュー」→「設定」→「スリープ時間」の順に選択し、「30秒」、「1分」、「3分」、「5分」、「10分」のいずれかを選択します。

初期設定： 3分

注意

- AUTO モードでは、他のモードで設定した状態で働きます。
- スリープ時間は、再生モードでは設定できません。再生モードでは、常に3分でスリープします。
- ACアダプタを使用しているときは、スリープはしません。
- 自動再生を30分以上しているときは、自動的にスリープします。

ファイル名メモリー

記録される画像に、ファイル名とそのファイルが入るフォルダ名がカメラ内部で自動的に生成されます。ファイル名とフォルダ名はそれぞれファイルNo.(0001-9999)、フォルダNo.(100-999)を含み、次のように付けられます。

フォルダ名　ファイル名

¥DCIM¥***OLYMP¥Pmdd****.jpg

フォルダNo.（100～999）

月（1～C）

日（01～31）

ファイルNo.（0001～9999）

- ファイル名の「月」の表記は、1月～9月は1～9、10月はA、11月はB、12月はCとなります。

フォルダNo.とファイルNo.の付け方は「リセット」、「オート」の二通りがありますので、パソコンに画像を取り込む際に扱いやすい方をお選びください。

■ リセット

カードを入れ換えたときにフォルダNo.、ファイルNo.が両方ともリセットされます。フォルダNo.はNo.100に、ファイルNo.はNo.0001に戻ります。カード別に画像を管理するときに便利です。

■ オート

カードを入れ替えても、フォルダNo.ファイルNo.ともに前のカードから継続されます。複数のカードを管理するときでもファイル名が重複することがありません。全ての画像を通し番号で管理するのに便利です。

P　A/S/M　My

1 **トップメニューから「モードメニュー」→「設定」→「ファイル名メモリー」の順に選択します。**

2 **「リセット」、「オート」のいずれかを選択し、OK を押します。**

初期設定：リセット

● **ファイルNo.が9999を超えたとき**
ファイルNo.は0001に戻りますが、フォルダNo.が変わります。(No.100→No.101など)

● **最大のフォルダNo.(999)、ファイルNo.(9999)に達したとき**
カードに残量があっても撮影可能枚数が0になり、撮影ができません。新しいカードに取り替えてください。

注 意

● AUTO モードでは、他のモードで設定した状態で働きます。

ピクセルマッピング

CCDと画像処理機能のチェックを同時に行います。
この機能は、すでに工場出荷時に調整済みのため、お買い上げ後すぐに調整する必要はありません。
調整は、年に一度を目安とし、最適な効果を得るため、撮影・再生直後より1分ほどの時間を空けた後に実行します。

P A/S/M

1 **トップメニューから「モードメニュー」→「設定」→「ピクセルマッピング」の順に選択します。**

2 **▷ を押します。**
- 「スタート」と表示されます。

3 **OK を押します。**
- ピクセルマッピング実行中は画面に動作時間を示すバーが表示されます。
- 終了すると、自動的にメニュー画面から抜けます。

注 意

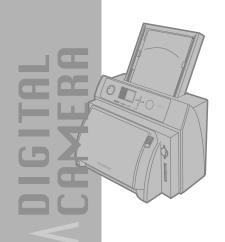
- 誤って処理中にカメラの電源を切ってしまった場合は、必ずもう一度このチェックを行なってください。
- AUTO モードで撮影するとき、または再生するときは、他のモードでピクセルマッピングをしてください。

m/ft設定

マニュアルフォーカスモードの時に、液晶モニタに表示される長さの単位を、m（メートル単位）とft（フィート単位）から選択できます。(P. 80)
長い距離を示す時は、メートル/フィート表示に、短い距離を示す時はセンチ/インチ表示になります。

P　A/S/M　My

トップメニューから「モードメニュー」→「設定」→「m/f設定」→「m」か「ft」を選択します。

初期設定： m

9

プリント設定

カメラで撮影した画像を、お店やお手持ちのプリンタでプリントできるように、カードプリント予約をします。

プリント方法

このカメラで撮影し、カードに保存されている画像をプリントするには、以下の方法があります。

■ **プリント予約を設定（P. 168〜173)してDPOF対応のお店でプリント、またはDPOF対応のプリンタでプリント**

まずカードプリント予約（P.168〜173）をします。カードプリント予約とは、カードに保存した画像に、プリントする枚数や日付を印刷する指定を記憶させることです。

● **DPOFとは？**

Digital Print Order Formatの略称。デジタルカメラの自動プリントアウト情報を記録する形式です。

プリント予約したカードをお店に持っていくと、その予約内容のとおりにプリントができます。家庭でもDPOF対応のプリンタがあれば、可能になります。

■ **オリンパス製デジタルプリンタCAMEDIA P-400/P-200/P-330Nでプリント**

パソコンを使わずに、専用プリンタにカードを直接差し込んでプリントできます。詳しくはお使いのプリンタの取扱説明書をご覧ください。

■ **画像をパソコンに転送して（P.181〜184)、パソコンに接続しているプリンタでプリント**

パソコン上でJPEGの画像を表示するソフトウェア（インターネット閲覧ソフトやペイントソフトなど）があれば、パソコンに接続したプリンタでプリントすることができます。(CAMEDIA Masterを使ってもプリントできます。)

お使いのソフトウェアでプリントできることをあらかじめご確認ください。

詳しくはお使いのソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

ヒント

撮影時の画質モードとプリントの関係

パソコンやプリンタの解像度には一般的に1インチあたりの点(ピクセル)の数が用いられ、dpi (dot per inch)と呼ばれています。同じ画像をプリントしても、プリント時のdpiの値を大きくすることでより鮮明に印刷することができますが、撮影された画像のピクセル数は変わらないため、実際に印刷されるサイズは小さくなります。その画像を拡大してプリントすることもできますが、画質は粗くなります。

プリントすることを前提として撮影するときや、大きいサイズでプリントしたいときは、撮影時の画質モード（P. 114）をできるだけ高いものに設定することをおすすめします。

重要！

DPOFを使用せずにプリントサービスを利用される方へ

写真店などのプリントサービスをご利用になる場合は、プリントする画像は必ずファイル番号で指定してください。コマ番号で指定すると間違った画像がプリントされる場合があります。
ファイル番号は情報表示をオンにしたときに表示されます。（P. 26,134）

注 意

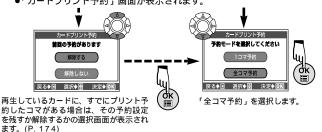
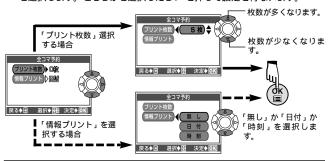
- 他のDPOF機器で設定されたDPOF予約内容を、このカメラで変更することはできません。予約した機器で変更してください。
- 他の機器でDPOF予約されているファイルがある場合、このカメラで新たにDPOF予約を行なうと、以前に予約した内容は消去されます。
- 「この画像は再生できません」と表示される画像でも、プリント予約を設定できることがあります。その場合、1コマ再生だとプリント予約マーク（凸）は表示されません。複数の画像を表示しているときは（インデックス表示）、マーク（凸）が表示され、プリント予約を確認できます。
- オリンパス製デジタルプリンタP-300など、カメラに直接プリンタを接続してダイレクトプリントを行うプリンタでは、プリントできません。
- プリンタまたはラボにより、一部機能が制限されることがあります。
- P-330Nで印刷する場合、カード内に記録された999枚目以降の画像はプリントできません。
- プリント予約には時間がかかることがあります。
- カードにプロテクトシールが貼られているとプリント予約はできません。

全コマ予約〜カードの中の全画像をプリント予約する

1 **静止画を再生します。㊖ を押して、トップメニューを表示します。**
- ⛶ のついた画像からは、プリント予約には入れません。

2 **▽を押して、トップメニューから「プリント予約」を選択します。**
- 「カードプリント予約」画面が表示されます。

再生しているカードに、すでにプリント予約したコマがある場合は、その予約設定を残すか解除するかの選択画面が表示されます。(P. 174)

「全コマ予約」を選択します。

3 **△▽を押して「プリント枚数」か「情報プリント」(日付・時刻の設定)を選択します。どちらかを選択したら▷を押して設定を行ないます。**

4 **設定を終えたら、㊖ を押します。**
- トップメニューが表示されます。

5 **㊖ を押して、トップメニューから抜けます。**
- 選択画面が消えて、画像が再生されます。
- 画面にプリント予約マークとプリント枚数が表示されます。

1 コマ予約～選択した画像のみをプリント予約する

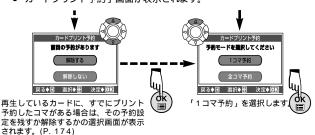
1 **静止画を再生します。 ㊃ を押して、トップメニューを表示します。**

● 🎥 のついた画像からは、プリント予約には入れません。

2 **▽を押して、トップメニューから「プリント予約」を選択します。**

●「カードプリント予約」画面が表示されます。

再生しているカードに、すでにプリント予約したコマがある場合は、その予約設定を残すか解除するかの選択画面が表示されます。(P. 174)

「1 コマ予約」を選択します。

3 **プリント予約したいコマを、1 コマ再生（P. 126）かインデックス再生（P. 136）をして選択します。 ㊃ を押します。**

● メニューが表示されます。

画像を選択しているとき

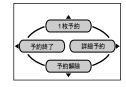
4 **プリント予約したい内容に応じて、十字ボタンで項目を選択します。**

詳細予約：プリント枚数の設定・日付けと時刻入り印刷の設定・トリミング設定→**手順 5 へ**。

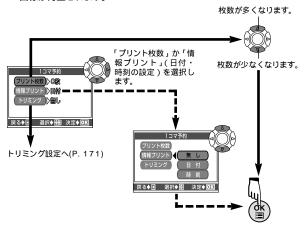
1 枚予約：プリント枚数が 1 枚のみ・日付け入り印刷の設定。トリミング設定なし。→**手順 6 へ**。

予約解除：プリント予約の解除→**手順 6 へ**。

予約終了：プリント予約の終了→**手順 7 へ**。

☞ 次ページに続く

1コマ予約〜選択した画像のみをプリント予約する（つづき）

5 「1コマ予約」画面で、「プリント枚数」・「情報プリント」（日付けと時刻の設定）・「トリミング」を設定します。それぞれの設定を終えたら、㊙を押します。

- 画像が再生されます。

6 ㊙を押して、手順4のメニューを再度表示させます。◁を押して「予約終了」を選択します。

- 1コマ予約または全コマ予約を選択する「カードプリント予約」画面が表示されます。
- 続けて他の画像をプリント予約するときは、手順3〜6を繰り返します。

7 「カードプリント予約」画面が消えるまで、繰り返し◁を押します。

- トップメニューが表示されます。

8 ㊙を押して、トップメニューから抜けます。

- プリント予約マーク・プリント枚数・日時が表示されていることを確認ください。プリント枚数の設定が1枚のときは、枚数は表示されず 凸 マークのみです。

トリミング設定

撮影した画像の一部を拡大して、プリントします。

1 「1コマ予約〜選択した画像のみをプリントする」の手順1〜5をします。手順5では「トリミング」を選択します。（P．169、170）

トリミングが設定されていないときは「設定」を、中止したいときは「中止」を選びます。

すでにトリミングが設定されている場合は、「トリミング」画面が表示されます。
「再設定」を選択し、㊙ を押します。

- 「決定」、「解除」を選択して ㊙ を押すと「1コマ予約」画面に戻ります。(P.170の手順5の画面)
  設定されているトリミングを保存→**決定**
  再度トリミングをしなおす→**再設定（手順2へ）**
  トリミングを解除する→**解除**

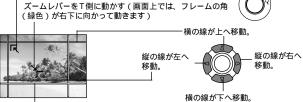
2 トリミングのサイズを決める画面が表示されます。まず、プリントしたい画像の左上端の位置を決めます。以下の方法で、画面の縦横の線を動かします。

☞ 次ページに続く

トリミング設定（つづき）

3 Ⓞ**を押して左上端の位置を決定します。**

4 右下端の位置を決める画面に変わります。縦横の線を動かす方法は、手順2と同様です。

ズームレバーをW側に動かす（画面上では、フレームの角（緑色）が左上に向かって動きます）

操作中は、反対側のフレーム（白色）が表示されます

ズームレバーをT側に動かす（画面上では、フレームの角（緑色）が右下に向かって動きます）

5 Ⓞ**を押して右下端の位置を決定します。**

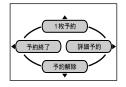
- 設定されたトリミングサイズが約1秒間表示されます。

6「トリミング」画面（手順1の画面）で、「決定」を選択します。

- 「1コマ予約」画面に戻ります。

7 **設定を終えるため、 Ⓞ を2回押します。**

8 **◁ を押して「予約終了」を選択します。**

● 1コマ予約または全コマ予約を選択する「カードプリント予約」画面が表示されます。

9 **「カードプリント予約」画面が消えるまで、繰り返し ◁ を押します。**

● トップメニューが表示されます。

10 **Ⓞ を押して、トップメニューから抜けます。**

注 意

●プリントされる画像の大きさは、プリンタの設定によります。トリミングの大きさが小さいと、プリントするときの拡大率が大きくなるため、プリント画像は粗くなります。

●詳細なクローズアッププリントを行なうためには、TIFF、SHQまたはHQモードでの撮影をおすすめします。

●トリミング画面の縦横比は、十字ボタンを使って変えられますが、ズームレバーを使うと4：3に固定されます。

プリント予約を解除する

カード内のすべての画像のプリント予約を解除します。

1 **静止画を再生します。 OK を押して、トップメニューを表示します。**

2 **▽を押してトップメニューから「プリント予約」を選択し、「カードプリント予約」画面を表示させます。**

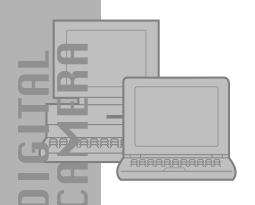
● 再生しているカードに、すでにプリント予約したコマがない場合は、「解除する」、「解除しない」の画面は、表示されません。

3 **「解除する」を選択します。**

■ 選択した画像のみの予約の解除

❶「解除しない」を選択して先へ進み、1コマ予約のなかのプリント枚数の設定を0にします。→1コマ予約の手順2〜5 （P. 169、170）

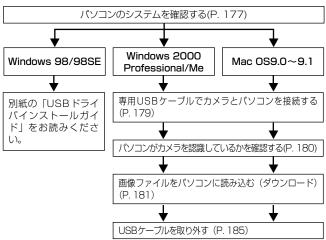
❷ OK を押して、メニューを表示します。◁を押して「予約終了」を選択します。以下の手順をします。

4 **◁を押して、トップメニューに戻ります。 OK を押して、トップメニューから抜けます。**

10

画像をパソコンに読み込む

カードに保存された画像はパソコンで読み込んでお楽しみいただくことができます。
この章ではパソコンに画像を取り込む方法について説明します。

撮影した画像をパソコンに読み込む

専用USBケーブルでカメラとパソコンを接続し、カメラのカードに保存されている画像をパソコンに読みこむことができます。お使いのパソコンのOSによっては、はじめて接続したときにパソコンの設定が必要になります。以下の手順に従ってすすめてください。

＊ 以下のOS、仕様についてはUSB端子を装備していても正常な動作の保証はできません。

- Windows 95/NT 4.0
- Windows 95からアップグレードしたWindows 98
- Mac OS 8.6以下のバージョン
  （ただし、出荷時にUSB端子、USB MASS Storage Support1.3.5を装備したMac OS 8.6は動作確認がされています）
- 拡張カードなどでUSB端子を増設した機種
- 自作パソコン

注意

●電池でカメラを動作させ、パソコンと接続しているとき、ACアダプタを抜き差しすると、カード内の画像データが破壊されたり、パソコンやカメラが誤動作することがあります。ACアダプタの抜き差しは、必ずパソコンとカメラの接続を外し、カメラの電源を切った状態で行なってください。万一、誤動作した場合は、カメラの電源を切る、パソコンを再起動するなどしてください。

注 意

- カメラをパソコンに接続して使用するときは電池の残量が十分にあることをご確認ください。パソコンとの接続中（通信中）は、カメラだけで使用するときのようにスリープ状態（電池節約状態）になったり、自動的に電源が切れたりしません。電池の残量がなくなると、カメラは途中で動作を停止します。また、カメラ内部の温度が上がると自動的に停止します。カメラが動作を停止すると、パソコンが誤動作したり、パソコンとカメラの通信中だと画像データ（ファイル）を壊すことがあります。長時間の使用にはご注意ください。パソコンとの通信時には、ACアダプタのご使用をおすすめします。
- 誤動作の原因になりますので、パソコンとの接続中はカメラの電源を切ったり、モードダイヤルを切り替えたりしないでください。
- USBハブを経由してカメラを接続すると、ハブとパソコン間の相性によって動作が不安定になることがあります。この場合は、ハブを使用しないでパソコンとカメラを直接接続してください。
- パソコンでムービーを再生するには、QuickTimeがインストールされている必要があります。

パソコンのシステムを確認する

カメラをパソコンへ接続する前にお使いのパソコンのシステムを確かめます。ご使用のパソコンによってはじめて接続したときの操作が異なります。

Windows（DOS/V・PC/AT互換機）の場合

1 デスクトップにある「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリックします。

2 「コントロールパネル」アイコンをダブルクリックします。

☞ 次ページに続く

撮影した画像をパソコンに読み込む（つづき）

3 「システム」アイコンをダブルクリックします。

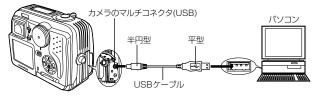
4 右図のような画面が表示されます。お使いのシステム（OS）をご確認ください。

- 確認が終了したら画面を閉じてください。Windows98／98SE (SecondEdition）をお使いの場合は、別紙の「USB ドライバインストールガイド」に従ってすすめてください。

Mac OSの場合

メニューバー上のアップルメニューから「このコンピュータについて」を選択します。
Mac OS 9.0（または9.1）であることをご確認ください。

カメラとパソコンを接続する

付属の専用USBケーブルを使って接続します。

1 カメラの電源を切って、パソコンに転送する画像の入ったカードを入れておきます。

2 カメラのコネクタカバーを開けます。

3 USBケーブルの 平型のプラグ側をパソコンのUSB端子に差し込みます。

4 USBケーブルの半円型のプラグ側をカメラのUSB端子に差し込みます。

5 カメラの電源を入れます。パソコンがカメラを新しい機器として認識します。

- Windows 2000 Professional/Meをお使いの場合
  USB ドライバは自動的にインストールされます。インストールが完了したというメッセージが表示されたら、「OK」をクリックします。「マイコンピュータ」か「エクスプローラ」を開くと、カメラは「リムーバブルディスク」をとして表示されます。
- Windows 98/98 SEをお使いの場合
  カメラを認識して、USB ドライバをインストールする画面が表示されます。「キャンセル」を押してこの表示を閉じてください。カメラとパソコンの接続を切り離し、別紙のUSB ドライバインストールガイドにしたがって、USB ドライバをインストールしてください。すでにインストールをされている場合は、この画面は出ません。
- Mac OS 9.0～9.1をお使いの場合
  コンピュータがカメラを自動的に認識して、「名称未設定」アイコンがデスクトップに表示されます。

パソコンがカメラを認識しているかを確認する

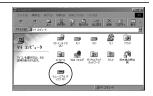
Windows 2000 Professional/Meをお使いの場合

1 自動的にUSBドライバがインストールされ、終了のメッセージが表示されたら「OK」をクリックします。

● カメラは「リムーバブルディスク」として認識されます。

2 デスクトップの「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリックします。

3 表示されたウィンドウの中に「リムーバブルディスク」アイコンがあることを確認します。

● パソコンにMOドライブやUSBカードリーダを接続している場合はすでに「リムーバブルディスク」アイコンがある場合があります。その場合、カメラはもう一つの「リムーバブルディスク」アイコンとして表示されます。

Mac OS9.0～9.1をお使いの場合

カメラは自動的に認識されます。ディスクトップ上に「名称未設定」アイコンがあることを確認します。

画像ファイルをパソコンに読み込む（ダウンロード）

カメラとパソコンの接続が正しくできると、Windowsではカメラ（カード）をひとつのドライブ（通常はリムーバブルディスク）として認識します。Macintoshの場合は、デスクトップ上に新しいドライブ（名称未設定）として表示されます。
カード内の画像は、Windowsのエクスプローラのようなファイル管理ソフトでフロッピーディスクやMO同様、ファイルとして扱うことが可能です。（CAMEDIA Masterでもファイルの読み込みができます）

パソコンに読み込んだ画像は、CAMEDIA Masterや Paint Shop Pro、Photoshopなどのグラフィックソフトやインターネット閲覧ソフト（Netscape Communicator ／Microsoft Internet Explorer など）のJPEG を扱えるアプリケーションソフトウェアでも見ることができます。市販の画像処理ソフトの使用方法については、対応ソフトの取扱説明書を参照してください。また、画像処理の際には必ずパソコンに画像をダウンロードしてから行ってください。ソフトウェアによっては、ファイル（画像）がカメラのカードの中にある状態で画像処理（画像の回転など）を行うと、ファイルが壊れる可能性があります。

注意 CAMEDIA Masterをお使いの方へ

- CAMEDIA Masterをお使いのときは、バージョン2.5以上をお使いください。
- CAMEDIA Masterをお使いのときは、「マイカメラ」ではなく、「リムーバブルディスク」を選択して下さい。Mac OSの場合は「名称未設定」となります。

画像ファイルをパソコンに読み込む（ダウンロード）（つづき）

Windows（DOS/V・PC/AT互換機）の場合

1 **接続の手順（P.179）に従ってカメラとパソコンを接続します。**
- カメラは「リムーバブルディスク」として認識されます。

2 **デスクトップにある「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリックします。**

3 **［リムーバブルディスク］アイコンをダブルクリックします。**
- このアイコンが無い場合は、カメラとパソコンがうまく接続できていません。接続の手順（P. 179）に戻って接続しなおしてください。

4 **「DCIM」フォルダアイコンをダブルクリックします。**
- カメラに入っているカードは一つのフォルダとして認識されます。

5 **「100OLYMP」フォルダアイコンをダブルクリックします。**
- ファイル（画像）が表示されます。

6 パソコンへ取り込みたいファイルをドラッグ& ドロップで、デスクトップ上または他のフォルダへ移動します（ダウンロード）。

- ファイルの移動やコピーなどの操作についてはパソコンの取扱説明書でよくお確かめください。
- パソコンでムービーを再生するには、QuickTimeがインストールされている必要があります。
- QuickTimeについては、アップルコンピュータ社のホームページで無償で配付されています。また、CAMEDIA Master（2.5またはPro 4.0）のCD-ROMにも収録されています。

ドラッグ& ドロップ

Mac OSの場合

1 接続の手順（P.179）に従ってカメラとパソコンを接続します。

- カメラは「名称未設定」として認識されます。

2 [名称未設定] アイコンをダブルクリックします。

- このアイコンが無い場合は、カメラとパソコンがうまく接続できていません。接続の手順（P. 179）に戻って接続しなおしてください。

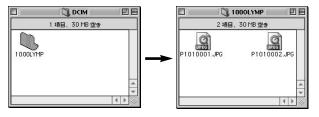
3 [DCIM] フォルダをダブルクリックします。

- カメラに入っているカードは一つのフォルダとして認識されます。

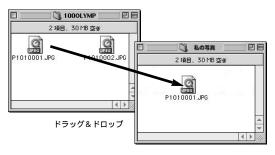
画像をパソコンに読み込む

10

4 ［100OLYMP］フォルダをダブルクリックします。

- ファイル（画像）が表示されます。

5 パソコンへ取り込みたいファイルをドラッグ＆ドロップで、デスクトップ上または他のフォルダへ移動します（ダウンロード）。

- ファイルの移動やコピーなどの操作についてはパソコンの取扱説明書でよくお確かめください。

ドラッグ＆ドロップ

注 意

●以下の場合ではパソコンとの接続を一度中止する必要があります。
- 使用するカードを取り替える。
- モードを切り替える。
- カメラの電源を切る。

USBケーブルを取り外す

パソコンが誤動作する場合がありますので、USBケブールを取り出す際は必ず以下の手順に従ってください。（誤動作を起こした場合、USBケーブルを接続しなおすかパソコンを再起動する必要があります。）

Windows 98/98 SEの場合

1 **カメラのカードアクセスランプが消えていることを確認します。**

カードアクセスランプ

2 **「マイコンピュータ」上から「ドライブアイコン（リムーバブルディスク）」を選択し、右クリックしてメニューを表示させます。**

3 **メニューから「取り出し」を選択して左クリックします。**

4 **カメラのカードアクセスランプが消えていることを確認したあと、USBケーブルを取り外します。**

Mac OSの場合

1 **カメラのカードアクセスランプが消えていることを確認します。**

2 **デスクトップにある「名称未設定」アイコンを、ドラッグ＆ドロップで「ゴミ箱」に捨てます。または、メニューバー上の「特別」から「取り出し」を選択します。**

3 **カメラのカードアクセスランプが消えていることを確認したあと、USBケーブルを取り外します。**

USBケーブルを取り外す（つづき）

Windows 2000/Meの場合

次の**（A）（B）**どちらかの手順で取り外します。

（A）タスクバーの をクリックする

1 タスクバー（パソコン画面右下）に表示されている「ハードウェアの取り外しまたは取り出し」（下図の円内の部分）のアイコンを左クリックします。

2 ドライブを停止するメッセージが表示されたら、メッセージを左クリックします。

3 安全に取り外しできることを伝える「ハードウェアの取り外し」メッセージが表示されたら、「OK」ボタンをクリックします。

4 USBケーブルを取り外します。

（B）タスクバーの をダブルクリックする

1 タスクバー（パソコン画面右下）に表示されている「ハードウェアの取り外しまたは取り出し」（下図の円内の部分）のアイコンをダブルクリックします。

2 ハードウェアの取り外し画面が表示されたら、ハードウェアデバイスの一覧からカメラを選択して「停止」ボタンをクリックします。

3 安全に取り外しできることを伝える「ハードウェアの取り外し」メッセージが表示されたら、「OK」ボタンをクリックします。

4 USBケーブルを取り外します。

カードから直接画像を読み込む

カード用のアダプタを使うと、カメラとパソコンを接続しなくても、カードから直接画像を取り込むことができます。それぞれの機器の最新の情報については、当社カスタマーサポートセンターにお問い合わせください。

パソコンの環境	使用できる機器
3.5型（インチ）フロッピーディスクドライブを装備するパソコン	フロッピーディスクアダプタ
PCMCIAカードスロットを装備するパソコン	PCカードアダプタ
USB端子を装備するパソコン	スマートメディア／リーダ・ライタ

注意：

- パソコンの動作環境やカードの記憶容量等により、ご使用になれない場合があります。ご使用前にお確かめください。
- お取り扱いについては、各機器の取扱説明書をお読みください。

11

別売品を使う

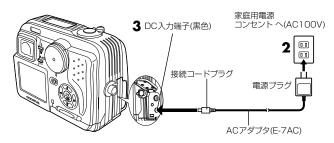
ACアダプタ

家庭用コンセントを使う場合は専用のACアダプタ(E-7AC)が必要となります。専用のACアダプタ以外はご使用にならないでください。また、電源は必ず100Vでご使用ください。

1 **カメラの電源が切れていることを確認します。**

2 **ACアダプタの電源プラグを、コンセントにしっかりと差し込みます。**

3 **カメラのコネクタカバーを開けて、DC入力端子に接続コードプラグを接続します。**

4 **使用後は必ずカメラの電源を切り、接続コードプラグをカメラから抜き、次に電源プラグを家庭用電源コンセントから抜きます。**

注 意

- 液晶モニタを点灯させて長時間撮影を続けていると、画像にノイズが発生する場合があります。
- 「安全にお使い頂くために」およびACアダプタの取扱説明書をよくお読みください。
- カードアクセスランプが点滅中にACアダプタの抜き差しは絶対に行なわないでください。
- カメラに電池が入っている場合も、ACアダプタから電力は供給されます。カメラ内の電池は充電されません。
- 電池でカメラを動作させているときでも、ACアダプタを抜き差しするときは、必ずカメラの電源を切った状態で行なってください。画像データを破壊したり、カメラの誤動作の原因になります。カメラが誤動作を起こしたら、カメラの電源を一度切って入れ直してください。

12

その他

カメラ操作のトラブルについて説明している「修理に出す前にお確かめください」や、「エラーコード表示一覧」など、知っておくと役立つ情報を載せています。

修理に出す前にお確かめください

原因	こうしましょう	参照ページ
カメラが動かない、またはボタンを押しても動かない。		
①電源が切れている。	❶レンズバリアを開いて、電源を入れてください。	P. 36
②電池の向きが正しくない。	❷電池を正しく入れ直してください。	P. 31
③電池の残量がない。	❸新しい電池を入れてください。	P. 31
④寒さで電池の性能が一時的に低下した。	❹電池をポケットにいれるなどして温めてから使用してください。	P. 13
⑤パソコンに接続している。	❺パソコンとの通信時は、カメラは動作しません。	P. 177
⑥カメラがスリープモードになっています。	❻シャッターボタンやズームレバーを操作してください。	P. 37
⑦カメラが高温になり、電源が自動的に切れている。	❼しばらく待って、カメラの温度が下がってから使用してください。	
シャッターボタンを押しても撮影ができない。		
①レンズバリアを閉じている。	❶レンズバリアを開いてください。	P. 36
②メモリゲージがすべて点灯している。	❷メモリーゲージの一番上が消灯するまで、お待ちください。	P. 86、88
③フラッシュの充電が完了していない。	❸一度シャッターボタンから指を離し、オレンジランプの点滅が終わってから、撮影してください。	P. 95
④🎥（ムービーモード）で撮影後、カードアクセスランプが点滅している。	❹撮影画像をカードに記録中です。カードアクセスランプが消えてから、撮影してください。	P. 88
⑤カードに問題がある。	❺エラーコード表示一覧でご確認ください。	P. 199
⑥カードの容量がいっぱいになった。	❻カードを交換する、不要な画像を消去するなどの操作を行ってください。	P. 35、140、141

原因	こうしましょう	参照ページ
シャッターボタンを押しても撮影ができない。		
⑦撮影中やカードの書き込み中に電池がなくなった。	❼新しい電池と交換してください。	P. 31
⑧コントロールパネルや液晶モニタの表示が消えた。または、電池残量警告マークのみが点滅している。	❽電池を交換してください。(カード記録中の場合、完了するまでお待ちください。)	P. 31
⑨カードにライトプロテクトシールが貼られている、またはカメラにカードが入っていない。	❾新しいカードを入れてください。	P. 35
画像データに記録される日付が正しくない。		
①日付が設定されていない。	❶日付設定をしてください。(お買い上げ時には日付の設定がされていないので、記録されません。)	P. 39
②電池を抜いた状態で放置したので、日時設定が解除された。	❷再度、日付設定をしてください。	P. 39
フラッシュが発光しない。		
①フラッシュモードが発光禁止になっている。	❶ ϟ ボタンを押して、フラッシュモードを発光禁止以外にしてください。	P. 94
②明るい被写体である。	❷フラッシュを強制的に発光させたい場合は、強制発光モードにしてください。	P. 91
③連写モードが設定されている。	❸メニューでドライブを単写に設定します。	P. 104

原因	こうしましょう	参照ページ
フラッシュが発光しない。		
④ 🎥（ムービー）モードで撮影している。	❹モードダイヤルを 🎥 以外にしてください。	P. 68
⑤パノラマ撮影をしている。	❺メニューで、パノラマをオフにしてください。	P. 109
⑥ファンクション撮影が白板・黒板になっている。	❻メニューで、ファンクション撮影をオフにしてください。	P. 111
液晶モニタ上で再生ができない。		
①撮影モードになっている。	❶レンズバリアを閉じて、▣ボタンを押してください。	P. 126
②カードに画像が記録されていない。	❷液晶モニタに「画像が記録されていません」と表示されます。撮影してから再生してください。	P. 44、45、200
③カードに問題がある。	❸エラーコード表示一覧でご確認ください。	P. 199
④テレビに接続している。	❹テレビに接続しているときは、液晶モニタは点灯しません。	P. 143
液晶モニタが見にくい。		
①液晶モニタの明るさが適切でない。	❶見やすいように調整してください。	P. 86
②太陽光の下である。	❷太陽の光を手などでさえぎってください。	
画像の回転、プロテクト、１コマ消去、全コマ消去 プリント予約、フォーマットができない。		
①カードにライトプロテクトシールが貼られている。	❶シールを剥がしてからご使用ください。（シールは再使用しないでください。）	P. 34

原因	こうしましょう	参照ページ
パソコンと接続して、画像の転送ができない。		
①ケーブルが正しく接続されていない。	❶正しく接続されていることを確認してください。	P．179
②電池がない。	❷新しい電池を入れるか、ACアダプタ(別売)をお使いください。	P．31、190
③USBドライバが正しくインストールされていない。	❸Windows 98/98 SEをお使いの方は、別紙のUSBドライバインストールガイドに従って、USBドライバをインストールし直してください。	
フラッシュを使って人物撮影したら、目が赤く写ってしまった。		
①フラッシュモードがオート発光になっている。	❶赤目軽減発光モードを使い、発生頻度を大幅に軽減できます。（フラッシュを用いた人物撮影では、目が赤く写ることがあります。これは網膜がフラッシュの光を反射するために、起こる現象で完全に防ぐことはできません。発生頻度や出方も個人差が大きく、また周囲の明暗等の撮影条件によっても異なります。）	P．91
ピントの合っていない写真ができた。		
①シャッターボタンを押すときにカメラぶれが起こってしまった。	❶カメラが動かないようにカメラを正しく構え、シャッターボタンを静かに押してください。	P．42、45
②ピントを合わせたいものが、AFターゲットマークからはずれてしまった。	❷ピントを合わせたいものを画面中央に持ってくるか、フォーカスロック撮影を行ってください。	P．75、77
③レンズが汚れていた。	❸レンズをきれいにしてください。	P．198

原因	こうしましょう	参照ページ
ピントの合っていない写真ができた。		
④セルフタイマー撮影で、カメラの前に立ってシャッターボタンを押した。 ⑤マニュアルフォーカスで被写体までの距離を確認せずに撮影してしまった。	❹カメラの前に立たず、ファインダをのぞきながらシャッターボタンを押してください。 ❺マニュアルフォーカスの合焦距離範囲で撮影してください。	P. 100 P. 80
撮影した画像が明るすぎる。		
①フラッシュモードが強制発光になっていた。 ②被写体が明るすぎた。	❶強制発光以外のフラッシュモードを選んでください。 ❷露出補正をするか、カメラの向きを変えるなどの工夫をしてください。	P.94 P. 119
撮影した画像が暗い。		
①フラッシュを指などで覆ってしまった。 ②撮りたいものがフラッシュ撮影範囲よりも遠くにあった。 ③フラッシュモードが発光禁止になっていた。 ④逆光状態で小さい被写体を撮影した。 ⑤連写モードで撮影した。	❶カメラを正しく構え、フラッシュを覆わないように気を付けてください。 ❷フラッシュ撮影可能範囲内で撮影してください。 ❸ ⚡ ボタンを押して、フラッシュモードを発光禁止以外にしてください。 ❹フラッシュモードを強制発光にセットするか、スポット測光モードにして撮影してください。 ❺連写モードでは、シャッタースピードの最長秒時が短くなるので、暗い場所では通常よりも暗く写ります。	P.42 P.94 P.94 P. 94、98 P. 104

原因	こうしましょう	参照ページ
室内で写した写真の色がおかしい。		
①照明の色が影響した。	❶照明に合わせてホワイトバランスを設定してください。	P.120
②被写体に白い部分がなかった。	❷画角に白い被写体を入れて撮影するか、フラッシュモードを強制発光にして撮影してください。	P.94
③ホワイトバランスの設定を間違えた。	❸光源に合わせてホワイトバランスを設定してください。	P.120
画像の一部が欠けてしまった。		
①レンズに指やストラップがかかってしまった。	❶カメラを正しく構え、レンズに指やストラップをかけないように気を付けてください。	P.42
画像のハレーション部に不自然な色がつく。		
①紫外線の影響で輝度差の大きい被写体（木漏れ日、夜景での明るい窓の枠、直射日光下の金属の反射など）を撮影すると、発生する場合があります。	❶画像をパソコンでレタッチします。フォトレタッチソフト（Photoshop、Paint Shop Proなど）を使用して、レタッチします。不自然な色の部分をスポイトツールなどで抽出したあと、色域指定を行ない、色変換や色彩度の調整をする方法があります。レタッチの方法は、各ソフトウェアの取扱説明書をお読みください。	

カメラのお手入れと保管

使用後のカメラの取り扱い

保管の際は、必ずレンズバリアを閉じて電源を切ってください。液晶モニタも消してください。

カメラのお手入れ

1 **カメラの電源を切ります。(P. 36)**

2 **電池を取り出します(P. 31)。(ACアダプタをお使いの場合は、まず接続コードプラグをカメラから抜き、その後電源プラグをコンセントから抜いてください。)**

3 **カメラの外側...** 柔らかい布でやさしく拭いてください。汚れがひどい場合は、うすめた低刺激のせっけん水に布をひたして、硬く絞ってから、汚れを拭き取ります。そのあと、乾いた布でよく拭きます。海辺でカメラを使用した場合は、真水で浸した布を硬く絞って拭き取ります。

液晶モニタとファインダ... 柔らかい布でやさしく拭きます。

レンズ... レンズブロワー（市販）でほこりを吹き払って、レンズクリーニングペーパーでやさしく拭きます。

カード... 乾いた柔らかい布で拭きます。

注 意

- 絶対にベンジンやアルコールなどの強い溶剤や化学雑巾を使わないでください。
- お手入れをする前に、必ず電池やACアダプタをカメラから取り外してください。
- レンズを汚れたままにしておくと、かびが生えることがあります。

エラーコード表示一覧

このカメラでは各種の警告をエラーコードで表示します。エラー表示は点滅します。

コントロールパネル	液晶モニタ	原因	こうしましょう
! - - -	! カードを認識できません	カードが入っていません、または認識できません。	正しくカードを入れるか、別のカードを入れてください。
! 0	! 撮影可能枚数が0です	撮影可能枚数が0のため撮影できません。	カードを交換するか、不要なコマを消去してください。
! -P-	! 書き込み禁止になっています	カードが書込み禁止になっています。	撮影をする場合は、プロテクトシールをはがしてください。
! -E-	! このカードは使用できません	このカードで撮影、再生、消去をすることができません。	カードが汚れている場合は、クリーニングペーパーで拭いてから再度カードを入れてください。それでもこの表示が消えないときは、このカードは使用できません。
表示なし	! この画像は再生できません	記録されている画像がこのカメラでは再生することができません。	パソコンなどの画像ソフトで再生して下さい。それも出来ない場合は、画像ファイルの一部が壊れています。

エラーコード表示一覧（つづき）

コントロールパネル	液晶モニタ	原因	こうしましょう
-F-	カードセットアップ 電源オフ フォーマット 選択 実行 OK	カードがフォーマットされていません。	カードをフォーマットしてください。
000	画像が記録されていません	記録画像がないため、画像が再生できません。	撮影画像の入ったカードを入れてください。
	カード残量がありません	カードに空き容量がなく、プリント予約データや音声を含む新たな記録をすることができません。	カードを交換するか、不要なコマを消去してください。
-0-	カードカバーが開いています	カードカバーが開いています。	カードカバーを閉めてください。
-H-	表示なし	カメラ内部の温度が高くなっています。	電池を抜いてカメラが冷えるまで待ってください。
その他	販売店またはカスタマーサポートセンターにご相談ください。		

アフターサービス

- 保証書はお買い上げの販売店からお渡しいたしますので「販売店名・お買い上げ日」等の記入されたものをお受け取りください。もし記入もれがあった場合は、ただちにお買い上げの販売店へお申し出ください。また保証内容をよくお読みの上大切に保管してください。
- 本製品のアフターサービスに関するお問い合わせや、万一故障の場合はお買い上げの販売店、または裏表紙の当社サービスステーションにご相談ください。使用説明書等にしたがったお取扱いにより、本製品が万一故障した場合は、お買い上げ日より満一ヶ年間「保証書」記載内容に基づいて無料修理いたします。
- 保証期間経過後の修理等については原則として有料となります。
- 当カメラの補修用性能部品は、製造打ち切り後5年間を目安に当社では有しております。したがって本期間中は原則として修理をお受けいたします。なお、期間後であっても修理可能な場合もありますので、お買い上げの販売店また、お近くの当社サービスステーションにお問い合わせください。
- 本製品の保証、修理、サービスは日本国内でのみ有効です。
  本製品は日本国内専用のため、海外での修理受け付けはできません。万一、外国で故障・不具合が生じた場合は、持ち帰って日本国内の当社サービスステーションまでご依頼ください。
- 本製品の故障に起因する付随的損害(撮影に要した諸費用、および撮影により得られる利益の喪失等)については補償しかねます。また、運賃諸掛かりはお客様においてご負担願います。

仕様

形式	デジタルカメラ(記録・再生型)
記録方式 静止画 静止画音声 ムービー	 デジタル記録、JPEG（DCF準拠)、TIFF非圧縮、 DPOF対応 Waveフォーマット準拠 QuickTime Motion JPEG に準拠
記録媒体	3V（3.3V）スマートメディア、4MB～128MB （2MBは使えません）
記録コマ数 （16MBカード使用時）	音声記録なしのとき 1枚(TIFF: 2272 x 1704) 約5枚(SHQ: 2288 x 1712) 約16枚(HQ: 2272 x 1704) 約49枚(SQ1: 1280 x 960標準) 約165枚(SQ2: 640 x 480標準)
カメラ部有効画素数	395万画素
撮像素子	1/1.8型(インチ)CCD固体撮像素子 413万画素（総画素数）
記録画素数	2272 x 1704ピクセル(TIFF/HQ) 2288 x 1712ピクセル(SHQ) 2048 x 1536ピクセル(TIFF/SQ1) 1600 x 1200ピクセル(TIFF/SQ1) 1280 x 960ピクセル(TIFF/SQ1) 1024 x 768ピクセル(TIFF/SQ2) 640 x 480ピクセル(TIFF/SQ2) 3200 x 2400ピクセル(SHQ/HQ) 2816 x 2112ピクセル(SHQ/HQ) 2560 x 1920ピクセル(SHQ/HQ)
レンズ	オリンパスレンズ：7.25～20.3mm、F2.8～F4.8、 5群7枚(35mmフィルム換算35～98mm相当)
測光方式	撮像素子によるデジタルESP測光およびスポット測光
絞り	W：F2.8、F3.4、F4.0、F4.8、F5.6、F8.0 T：F4.8、F5.6、F8.0

シャッター	メカニカルシャッター併用
静止画	1/2〜1/1000秒（Mモード：16〜1/1000秒） （スローシンクロ時：４〜1/1000秒）
ムービー	1/30 〜 1/10000秒
ファインダ	光学実像式ファインダ
液晶モニタ	1.5型(インチ)TFTカラー液晶(低温ポリシリコン)、 約114000画素
フラッシュ充電時間	約6秒(常温時、新品電池使用)
オートフォーカス	TTL方式AF、コントラスト検出方式／ 焦点調節範囲：0.1m〜∞
コネクタ	DC入力端子・マルチコネクタ（USB接続、A/V出力（NTSC方式））
自動カレンダー機能	2031年まで自動修正
使用環境	
温度	0〜40℃(動作時)／－20〜60℃(保存時)
湿度	30〜90%(動作時)／10〜90%(保存時)
電源	電池はCR-V3（当社製LB-01）リチウム電池パック1個、あるいは単３ニッケル水素電池、ニッカド電池、アルカリ電池、リチウム電池２本を使用。 マンガン電池は使用できません。 AC アダプタ（別売）
大きさ	幅87mm 高さ68.5mm（突起部除く） 厚さ43.5mm
質量	190g(電池／カード別)

外観・仕様は改善のため予告なく変更することがありますので、あらかじめご了承ください。

画素数
画像を形成する最小単位の点を指す。画素数が多いほど、サイズの大きな画像を作るのに適しています。

画像サイズ
画像を構成する点（ピクセル）の数で表した画像の大きさのこと。例えば、640 x 480で撮影した画像は、パソコンのモニタの設定が640 x 480のときではモニタ全体に表示されますが、1024 x768ではモニタの一部分にだけ表示されます。

銀塩写真
ハロゲン化銀を使った、従来からあるフィルムを用いた写真のことをいいます。

けられ
撮影画面内に邪魔なものが入り、被写体が完全に写らないとき、またファインダで覗いたときに、撮影レンズの鏡胴で視野の一部が見えないことも、けられといいます。撮影レンズに不適切なフードを使った場合など、視野の四隅が暗くなることもいいます。

コントラスト検出方式
被写体までの距離を測るのに、使用している方法。被写体のコントラストの大小を検出することで、ピントがあったかどうかを検出します。

絞り
レンズを通して入ってくる光量を調節する機構。値が小さいほど光が多く入り、値が大きいほど入る光が少なくなります。そのレンズで使える最小の絞り値にすることを、開放するといい、絞り値を大きくするのを絞り込むといいます。

デジタルESP測光
(electro selective pattern)
CCD出力を分割測光によって、周辺と中心部を個別に測光し、演算して露出を決める測光方法。

バックライト
液晶モニタを背面から照らすための光源。

露出
画像が写るために得る光の量。シャッター速度で時間、絞りでレンズを通して入ってくる光の量を、調節して露出を決めます。

アルファベット順

**Aモード••••••••••••••••••••
(aperture priority mode)**
絞り優先AEモード。絞り値は自分で決め、カメラが絞り値にしたがってシャッター速度を変化させ、適正な露出で撮影するモード。

**AE••••••••••••••••••••••••
(automatic exposure)**
自動露出。カメラに内蔵された露出計で自動的に決める方式。このカメラには、絞りとシャッタースピードをカメラに任せるPモード、絞り値を決めてシャッタースピードをカメラに任せるAモード、シャッタースピードを決めて絞り値をカメラに任せるSモードの3種類のAEがあります。Mモードでは、絞り値とシャッタースピードの両方を決める必要があります。

**CCD••••••••••••••••••••••
(charge coupled device)**
レンズを通して入ってきた光りを受けて、電気信号に変換する素子。このカメラでは、413万個の点で受けてRGBの信号に変換して一つの画像を作り出します。

**DCF•••••••••••••••••••••
(design rule for camera file system)**
電子情報技術産業協会(JEITA)で制定された、画像ファイルに関する規格。

**DPOF
(digital print order format)**
デジタルカメラの自動プリントアウト情報を記録するフォーマット。撮影したい画像を保存したカードにプリントしたい画像の指定や、枚数の指定情報を記録することで、DPOF対応のプリントアウトサービスや、家庭でのプリントアウトを自動で行うことができます。

**EV••••••••••••••••••••••••
(exposure value)**
露出値。絞り値がF1、シャッター速度が1秒のときの光量をEV0と規定し、それより絞りを一段絞ったり、シャッター速度を一段早くするごとに、数値は1ずつ多くなります。EVは明るさとISO感度でも表せます。

ISO•••••••••••••••••••••••
国際標準化機構(ISO)の規格で決められた、フィルム感度の表示法。「ISO100」と表記します。数値が大きくなるほど、光に対する感度が強くなり、少ない光でも感光します。

JPEG・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
(joint photographic experts group)
カラー静止画の圧縮方式。このカメラで撮影した写真（画像）は、画質をSHQ/HQ/SQに設定すると、JPEG形式でカードに記録されます。パソコンに読み込めば、グラフィックス用のアプリケーションソフトで加工したり、インターネット閲覧ソフト（ブラウザ）で見れます。

Mモード・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
(manual mode)
シャッター速度と絞り値を、自分で設定して撮影するモード。

Pモード・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
(program mode)
プログラムAEモード。カメラが自動的に、適正な絞り値とシャッター速度を設定して撮影するモード。

Sモード・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
(shutter speed priority mode)
シャッタースピード優先AEモード。シャッタースピードを自分で決め、カメラがシャッタースピードにしたがって絞り値を変化させ、適正な露出で撮影するモード。

TIFF・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
(tagged image file format)
モノクロやカラーの画像データを圧縮しないで保存するためのフォーマット。スキャナ用やグラフィックス用のアプリケーションで扱えます。

TFT (thin-film technology) カラー液晶モニタ・・・・・・・・・・・・
薄膜技術によるカラー液晶モニタ。

TTL (through-the-lens)方式
カメラ内部に受光体を置き、レンズを通ってきた光を直接測光する露出調節機構。

索引

あ行

か行

さ行

た行

な行

は行

ま行

ら行

アルファベット順

その他

12

お問い合わせ窓口

商品に関する技術的なお問い合わせ窓口

オリンパス光学工業株式会社カスタマーサポートセンター
〒192-8507　東京都八王子市石川町2951
TEL　0426-42-7499
FAX　0426-42-7486
オリンパスホームページ　http://www.olympus.co.jp/
受付日時　AM 9:30〜17:00
（土・日・祭日・および当社休日を除く）

●お問い合わせいただく前に（お願い）

- より迅速、正確にお答えするために、お手数ですが次ページのサポート用カルテの内容をあらかじめご確認ください。
- FAXまたは郵便でお送りいただく場合は、所定の項目は必ずご記入ください。

送付先：オリンパス光学工業株式会社カスタマーサポートセンター

FAX 0426-42-7486

サポート用カルテ

お名前	フリガナ
連絡先 ご住所	□自宅　□会社 〒 電話 FAX E-mail

お問い合わせ日　年　月　日	お買い上げ日：　年　月　日
製品名（型番）	
シリアル番号 （製品底面に記載されています）	

問題が発生したときの症状・表示されたメッセージ・症状の再現性など：
（より正確・迅速にお答えするために、できるだけくわしくお知らせください）

パソコンが関係する問題は、とくに正確な状況把握が難しいので、お手数ですができるだけくわしくお知らせください

●ご使用のパソコンの種類：
（メーカー・型番等）

●メモリの容量：

●ハードディスクの空き容量：

●OS名とバージョン：

●ご使用のパソコンのドライバ：

（Mac OSの場合）コントロールパネルや機能拡張の内容：

（Windowsの場合）コントロールパネル－システム－デバイスマネージャーの内容：

●その他接続されている周辺機器名：

●問題のご使用アプリケーションソフト名：
バージョン：

●問題のご使用弊社ソフト名：
バージョン：

※FAXや郵便でのお問い合わせの際は、コピーしてご利用ください。

OLYMPUS®

オリンパス光学工業株式会社

〒163-8610　東京都新宿区西新宿1の22の2　新宿サンエービル

アクセスポイント（製品に関するお問い合わせ）

札　幌	011-231-2338	金　沢	076-262-8259
仙　台	022-218-8437	大　阪	06-6252-0506
新　潟	025-245-7343	高　松	087-834-6180
松　本	0263-36-2413	広　島	082-222-0808
東　京(八王子)	0426-42-7499	福　岡	092-724-8215
静　岡	054-253-2250	鹿児島	099-222-5087
名古屋	052-201-9585	沖　縄	098-864-2548

※上記のアクセスポイントまでお電話いただければ、オリンパスカスタマーサポートセンターに転送されます。（アクセスポイントまでの電話料金はお客様負担となります。）なお、調査等の都合上、回答までにお時間をいただく場合がありますので、ご了承ください。

営業時間　9：30～17：00（土・日曜、祝日及び弊社定休日を除く）

※オリンパスホームページ　http://www.olympus.co.jp/でデジタルカメラ及び関連製品の情報の提供をしております。

国内サービスステーション（修理受付窓口）

※土・日曜、祝日および年末年始は原則として休業させていただきます。オリンパスプラザ内の東京サービスステーションは土曜も営業しております。

東　京	〒101-0052	千代田区神田小川町1の3の1　小川町三井ビル(オリンパスプラザ内)	Tel.03(3292)1931
札　幌	〒060-0034	札幌市中央区北4条東1の2の3　札幌フコク生命ビル	Tel.011(231)2320
仙　台	〒981-3133	仙台市泉区泉中央1の13の4 泉エクセルビル	Tel.022(218)8421
新　潟	〒950-0087	新潟市東大通り2の4の10　日本生命新潟ビル	Tel.025(245)7337
松　本	〒390-0815	松本市深志1の2の11　松本昭和ビル	Tel.0263(36)5331
名古屋	〒460-0003	名古屋市中区錦2の19の25　日本生命広小路ビル	Tel.052(201)9571
金　沢	〒920-0024	金沢市西念1の1の3　コンフィデンス金沢	Tel.076(262)8257
大　阪	〒542-0081	大阪市中央区南船場2の12の26　オリンパス大阪センター	Tel.06(6252)6991
高　松	〒760-0007	高松市中央町11の11　高松大林ビル	Tel.087(834)6166
広　島	〒730-0013	広島市中区八丁堀16の11　日本生命広島第2ビル	Tel.082(228)3821
福　岡	〒810-0004	福岡市中央区渡辺通3の6の11　福岡フコク生命ビル	Tel.092(761)4466
鹿児島	〒892-0846	鹿児島市加治屋町12の7　日本生命加治屋町ビル	Tel.099(225)1105
沖　縄	〒900-0015	那覇市久茂地3の1の1　日本生命那覇ビル	Tel.098(864)5396

VT316703